大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十五年十二月廿五日印刷納本・昭和十六年一月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

1

日本建築協會

第24輯第1號
昭和16年1月1日

㊗ ルーフイング・フエルト公定價格　昭和15年10月15日

種別＼要項	重量	面積	製造業者販賣價格	卸賣業者販賣價格	小賣業者販賣價格
アスファルトルーヒング	20瓩	21平方米	圓 4.70	圓 5.20	圓 5.70
	25瓩	〃	5.85	6.45	7.10
	30瓩	〃	7.05	7.75	8.50
アスファルトフエルト	10瓩	〃	3.15	3.47	3.80
タールフエルト	10瓩	42平方米	2.85	3.14	3.45

イ、本表價格ハ、ストレートアスファルト又ハコールタールノ浸透量原紙重量ノ80%以上ノモノノ價格トス

ロ、製造業者及卸賣業者販賣價格ハ買主店先渡價格トス
但シ樺太、朝鮮、臺灣、南洋群島、關東洲、滿洲又ハ支那向ノ場合ニ於テハ賣主最寄港船積渡價格トス

ハ、包裝費及荷造費ハ賣主負擔トス

（砂付便利瓦及特許ギルソイド共從來通り）

三星印

三星印砂付便利瓦・三星印ルーフイング及フエルト
專賣特許ギルソイド防水工事責任施工（陸屋根地下室）
アスファルト應用各種加工品・床舖工事三星サイドリユーム
耐火・耐熱・防音・保溫・　—石綿代用品—　三星岩綿各製品

大阪田島應用化工株式會社

營業所　大阪市北區中之島五丁目三〇　電話土佐堀 1323 5682 6221 7294

田島應用化工株式會社　日本岩綿工業株式會社　日本木材化學工業株式會社
三星產業株式會社　三星セメント工業株式會社　合資會社宮城アスファルト研究所

會　告

本協會定款第十七條、第十八條及第十九條ニ依リ監事二名、評議員半數改選及增員選擧ニ付昭和十五年十一月二十五日開會ノ通常總會ニ於テ選擧執行致シマシタ。其結果下記ノ通リデアリマス。

監　事

當選	631票	鈴木一幸氏	同	631票	松井清之助氏
次點	3票	小林清氏	同	2票	井上福藏氏
同	2票	中西六郎氏	同	2票	宇賀一郎氏

（以下略）

評　議　員

當選	55票	辛木貞夫氏	同	53票	村田治郎氏	同	52票	大下順三郎氏
同	50票	赤松修氏	同	50票	加藤善吉氏	同	49票	岩崎甚太郎氏
同	49票	宇賀一郎氏	同	49票	岡田孝男氏	同	49票	小林清氏
同	49票	西山卯三氏	同	49票	平野忠雄氏	同	48票	池田宮彦氏
同	48票	小林三造氏	同	48票	榊弘美氏	同	48票	園部泰文氏
同	48票	高松平太郎氏	同	48票	竹中景一氏	同	47票	石井春雄氏
同	47票	石原達偉氏	同	47票	小河吉之助氏	同	47票	川勝健二氏
同	47票	桐本楠雅氏	同	47票	竹內佐平治氏	同	47票	內藤亮一氏
同	47票	日野勝好氏	同	46票	今北乙吉氏	同	46票	岩佐信也氏
同	46票	大津利雄氏	同	46票	岡本新次郎氏	同	46票	笠井新十郎氏
同	46票	小西一良氏	同	46票	芝田知重氏	同	46票	須藤員雄氏
同	46票	薗部茂氏	同	46票	中村昌三氏	同	46票	中村義雄氏
同	46票	堀內四知丸氏	同	46票	宮田秀穗氏	同	46票	藪中一良氏
同	46票	山口正氏						
次點	3票	淺野新一氏	次點	3票	棚橋諒氏			

（以下略）

昭和十五年十二月

社團法人　日本建築協會

會　　告

本協會定款第十七條、第十八條及第二十條に依り昭和十五年十二月二日開會の評議員會に於て理事、會長、副會長、常務の選擧を執行致しました。その結果は下記の通りであります。(常務の職務分掌を頭書の通り互選)

理事	會長	片岡　安氏
理事	副會長	井上新二氏
理事	副會長	今林彦太郎氏

常務	(主記)	池田宮彦氏	常務	(主記)	北垣熊之介氏
常務	(主記)	玉置豐次郎氏	常務	(主記)	中西六郎氏
常務	(主記)	藪中一良氏			
常務	(主計)	桐本楠雅氏	常務	(主計)	芝田知重氏
常務	(主計)	松久保敬三氏			
常務	(編輯)	大下順三郎氏	常務	(編輯)	岡田孝男氏
常務	(編輯)	小林　清氏	常務	(編輯)	政岡基次氏

(五十音順)

昭和十六年一月

社團法人　日本建築協會

會　　告

昭和十五年十一月十五日限り集金郵便の取扱ひが停止されましたので將來會費其の他集金郵便で御請求申上げる事が不可能となりました。

就きましては今後は、誠に御面倒御手數ですが、振替**大阪三九九七五番**御利用又は、適宜の方法で御拂込み下さいます樣御願ひ致します。現在迄の御拂込狀態に付いては追て御知らせ致します。何卒國策順應と皆樣の協會愛護のため集金事務に御援助下さいます樣、切に願ひ上げます。

社團法人　日本建築協會主計

南滿鑛業の壁と床

◉外壁
リグスター（鐵網の要らぬ壁）
リソイド
リストン
ロツク、スタツコ

◉内壁
スタツコ、マンチユリア
南滿テツクス（防音塗裝材料）
オリエンタル、クロス
（麻布代用壁張材料）

◉床
乾性リグノイド

◉鋼板熔着ゴム辷り止

◉說明書進呈◉

南滿鑛業建材株式會社大阪出張所

大阪市西成區守津町一〇七
電話櫻川（64）八四〇七

本社　東京市京橋區月島仲通九丁目三
電話京橋一二九六

出張所　福岡市吉塚町一丁目二五
電話東三八〇

建築と社會

第24輯　第1號　　昭和16年1月發行

一月號

目　次

迎春の辭……片岡　安(アート頁1)
都市の性格に於ける世界的と日本的……長谷川如是閑……(1)
都市計畫界の回顧と展望……中澤誠一郎……(5)
學界展望……棚橋諒……(8)
住宅問題展望……新名種夫……(10)
新體制と建築界に就いて……龜井幸次郎……(20)

古建築巡禮 ●1●願泉寺の茶室……岡田孝男……(24)

無筋コンクリート造建物設計例(第2報)……災害强度委員會……(27)
紀元2600年記念「建築文化展覽會」……編輯……(51)
紀元2600年記念事業委員會報告……(54)
昭和15年度會勢幹事會事業報告……(56)

新體制はがき回答集……(15)

★紫烟臺★
建築界のトピック……中野吉彌……(57)
ネーチ・ネーチ家相家に挑む……山口正……(60)

★文獻★
次の年報に對する有益なる示唆……森口清譯……(49)

★新建築欄★
生駒山・航空道場：大阪市立貝塚療養所：川崎榮養食配給所（神戶）：大阪交通株式會社

會報……(63)
昭和15年度「建築と社會」總目次……(67)
編輯後記……(73)



漁　村　之　曙

迎　春　の　辭

本會々長
工學博士　片　岡　安

今や我國は支那事變下第5周年の新春を迎へ、上下一體、一億一心となつて新東亞建設を目標に邁進を續けてゐる。內にあつては大政翼贊會の基礎着々その軌道に乘り諸政の刷新期して待つべきものあり、又戰線と銃後は强靱なる大和魂の靱帶によつて連結されて我

民族の莊嚴なる一大行進が展開されつゝある。

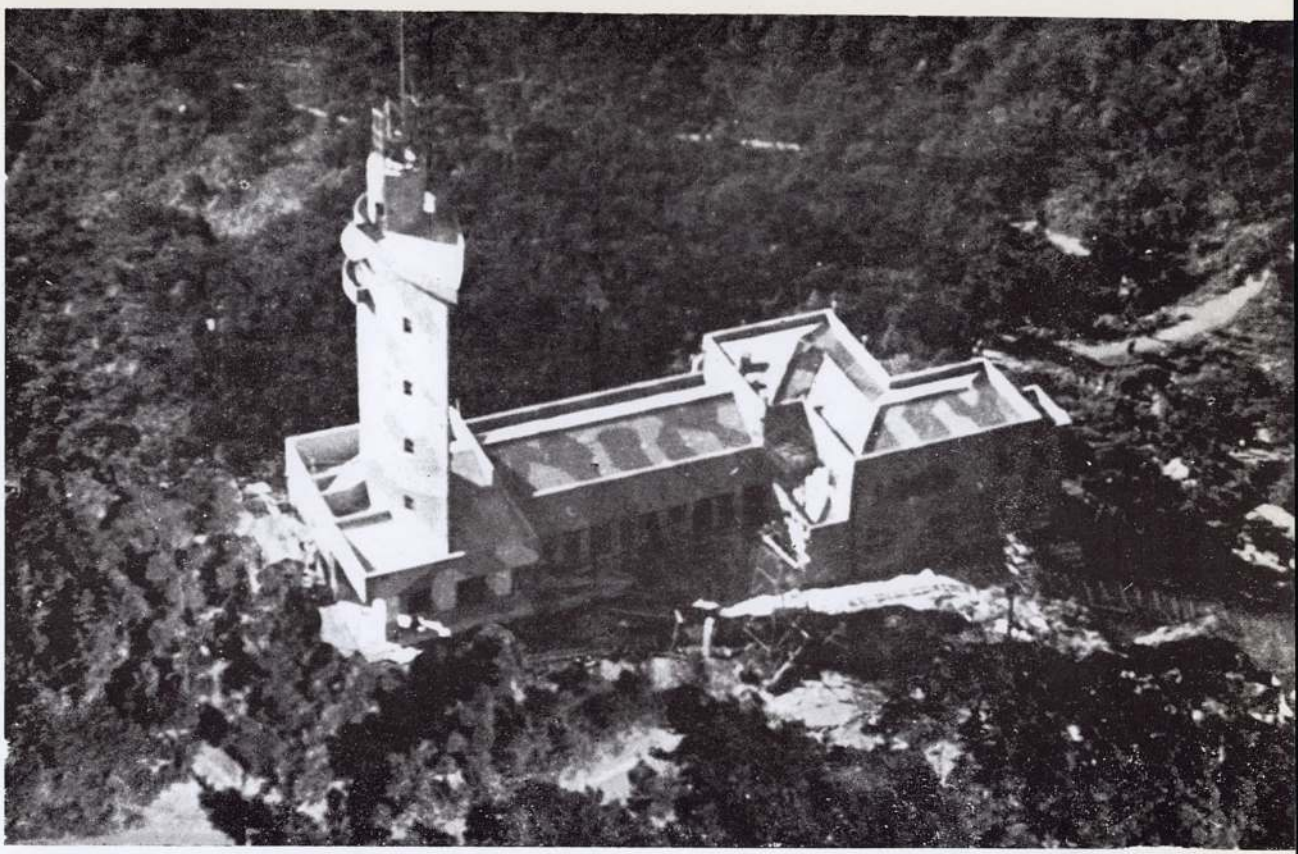
此の新しき年の初に當り、國民各層は何を犧牲としても、先づ、相共に協力、聯携して國家總力の發揮に專念しなければならぬのである。

然して、我が建築界に課せられたる責務は、とりも直さず此の大東亞建設の第一線に不可缺の重要部門を擔當する事にある。大にしては國土計畫、即ち日滿支聯携を基礎として互助連關の產業、文化、經濟の永遠恒久の計畫を始め、高度國防國家の實體としての、都市武裝計畫と、その實現に參畫しなければならぬ。

內にしては國民大衆の福利增進の基礎をなす住居の安寧を期する事も、亦、極めて重大な問題であつて、その立案と實現に關しては建築界に課せられた、寧ろ、一大責任であると云はねばならぬのである。

盟邦滿洲國は建國以來既に第1期の諸過程を經て、今や內容の充實を期する時代に入り土木建築方面の急速なる建設を要求してゐるのである。之等は總て我建築界の參與しなければならぬ事柄であるが、飜つて思ふに、從來の如き我建築界の情勢では、到底此の重大任務を果し得ないのではないか。平穩無事の文化進展の時でさへも、兎角、消極無爲の譏を免れざりし我建築界が、この急速進展の局面に即應して、萬遺漏なきを期するには、宜しく斯界の新體制を構成して、一糸紊れざる共同作業に移らねばならぬ。

從來の如き個人的、主觀的立場に拘泥して、自己の便宜を圖るに專らなるの餘り國家社會の進運に寄與することの鮮なかりし舊體制は斷然之を脫却廢棄して、新時代の痛切なる要求に向つて突進するの新體制を形成し、舊人も新人も各種各方面の權威相抱合して、その總力を發揮すべき千載一遇の危機に直面するを覺ゆるのである。



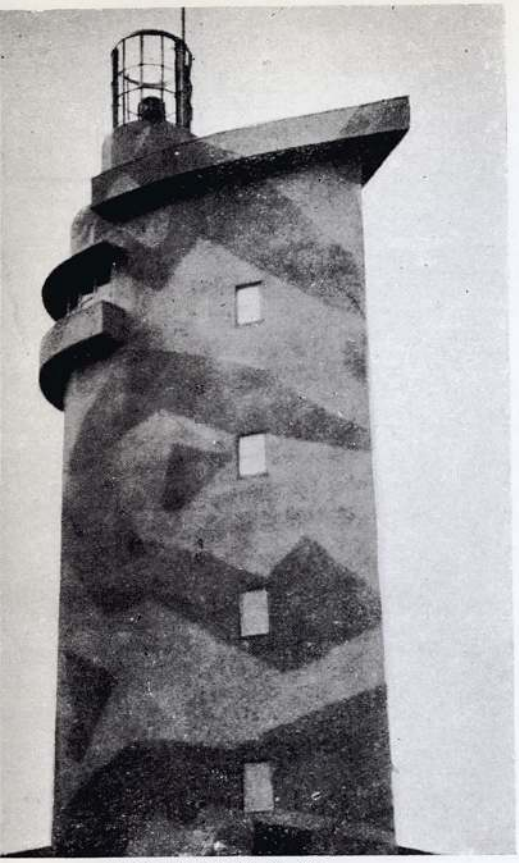
（大阪憲兵隊本部檢閲濟）

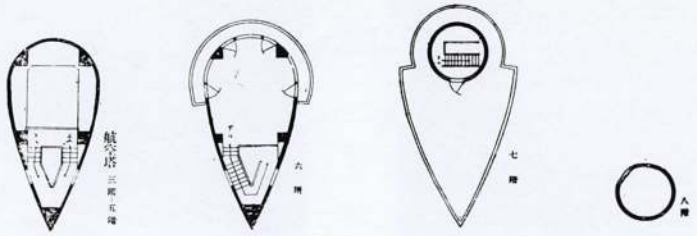
鳥瞰全景（東方より）
左方高塔は航空標識塔、舊生駒航空燈臺を移轉せるもの、高30米。
標識塔直下に三本の獨立柱を持つた航空道場の車寄が見える。
これより右方に續いて道場大ホール。その右に續く2階建の部分は宿舍、食堂、社交室、研究室其他。外部總て黝褐黝綠2色の迷彩を施す。

生駒山航空道場

設計施工・竹中工務店
設計・石川純一郎
計算・青柳貞世
現場・西村秀清

○**建設目的**　朝日新聞社「神風」機亞歐連絡飛行完成を記念し、合せて民間航空思想普及と航空青年の訓練養成を目的とし、生駒山上に於けるグライダー滑空場、京都帝大天文臺、生駒山氣象觀測所等と提携、一體の航空綜合道場たらしめる。
○**構造**　航空標識塔は鐵筋コンクリート造8階建
道場は木造瓦葺2階建
○**高**　航空標識塔は30.0米
道場は9.1米
○**竣工**　昭和15年10月25日





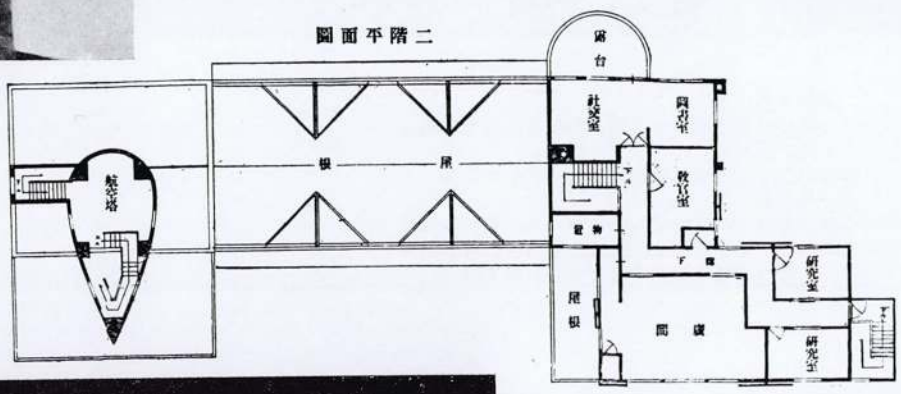
○敷地面積	644.78坪
○建　坪	181.27坪
○延　坪	279.58坪

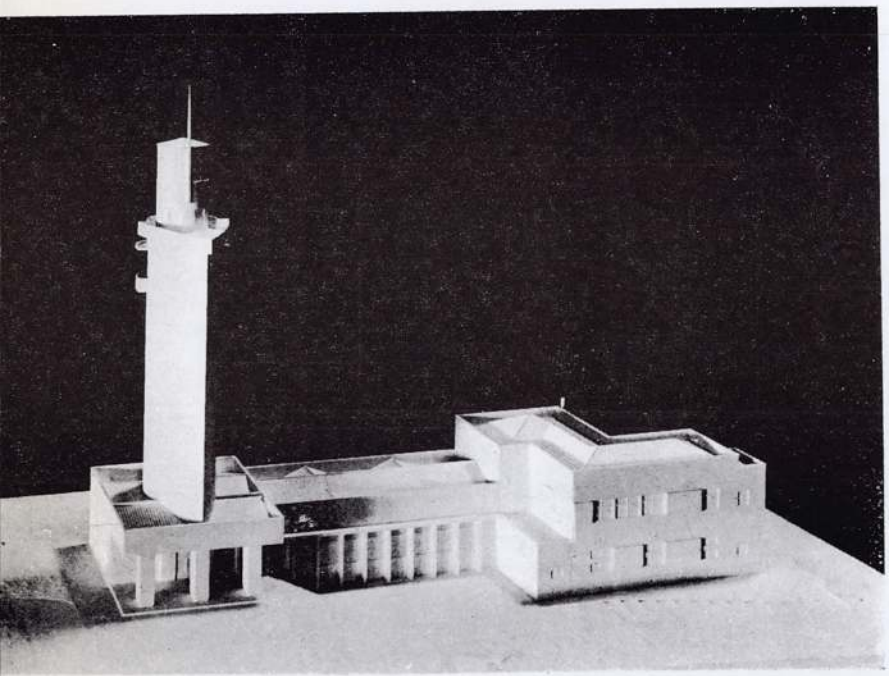
第1階	181.270坪
第2階	69.046坪
第3階	5.996坪
第4階	5.996坪
第5階	5.996坪
第6階	8.996坪
第7階	3.140坪
第8階	3.140坪

航空標識塔詳細

鐵筋コンクリート8階建、第6階は展望室、第7階は燈臺部と展望用露臺、第8階は燈臺光源室。

二階平面圖



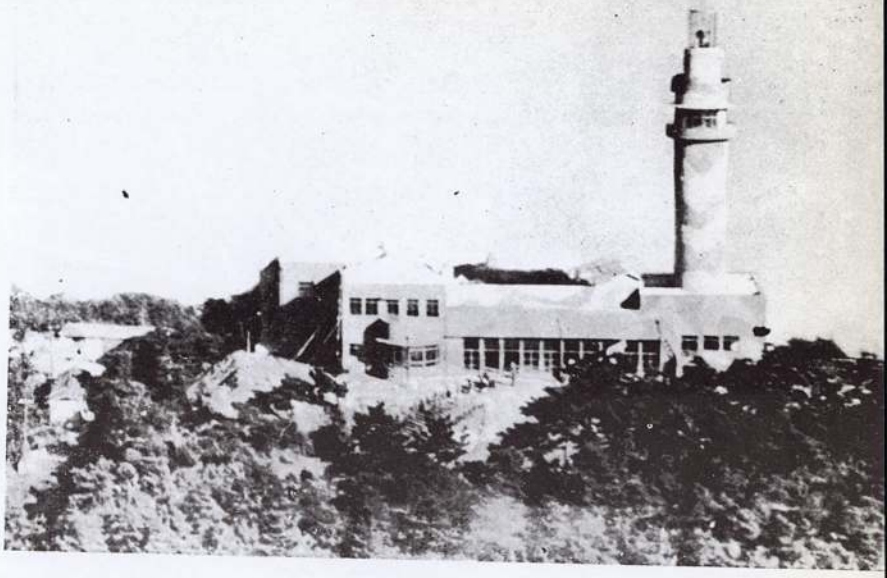


生駒山航空道場
設計施工・竹中工務店

模　型

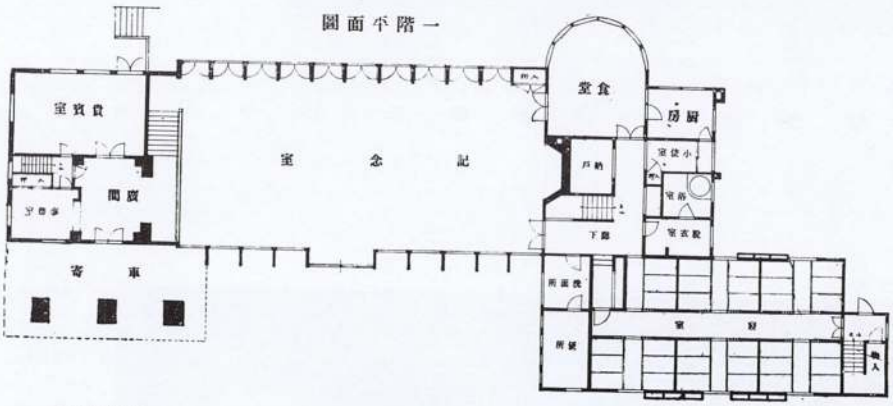
全景（西方より）

大阪側に面する正面。右より航空標識塔、その直下は貴賓室。その左に續いて道場大ホール。更に左に續いて階下食堂、階上社交室、圖書室。その左一段後退して宿舍。



生駒航空道場

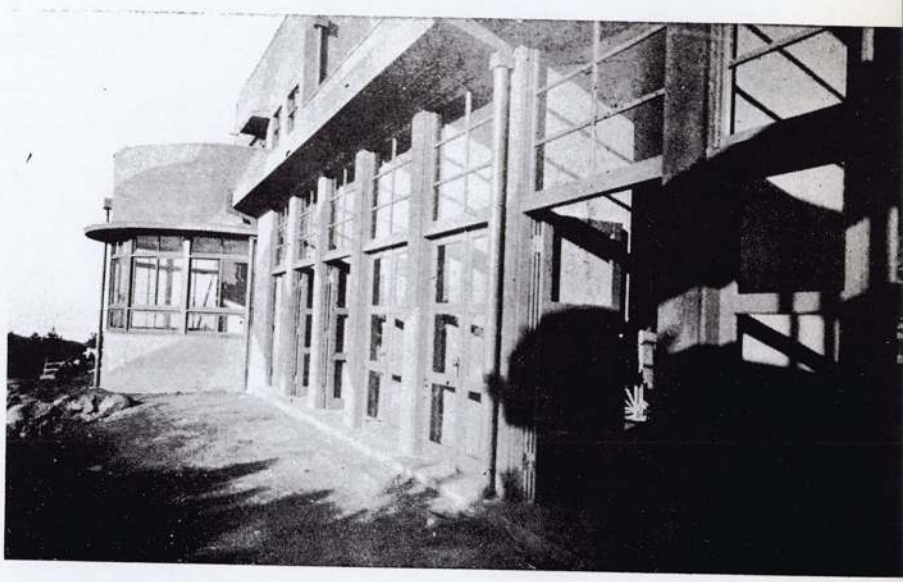
一階平面圖

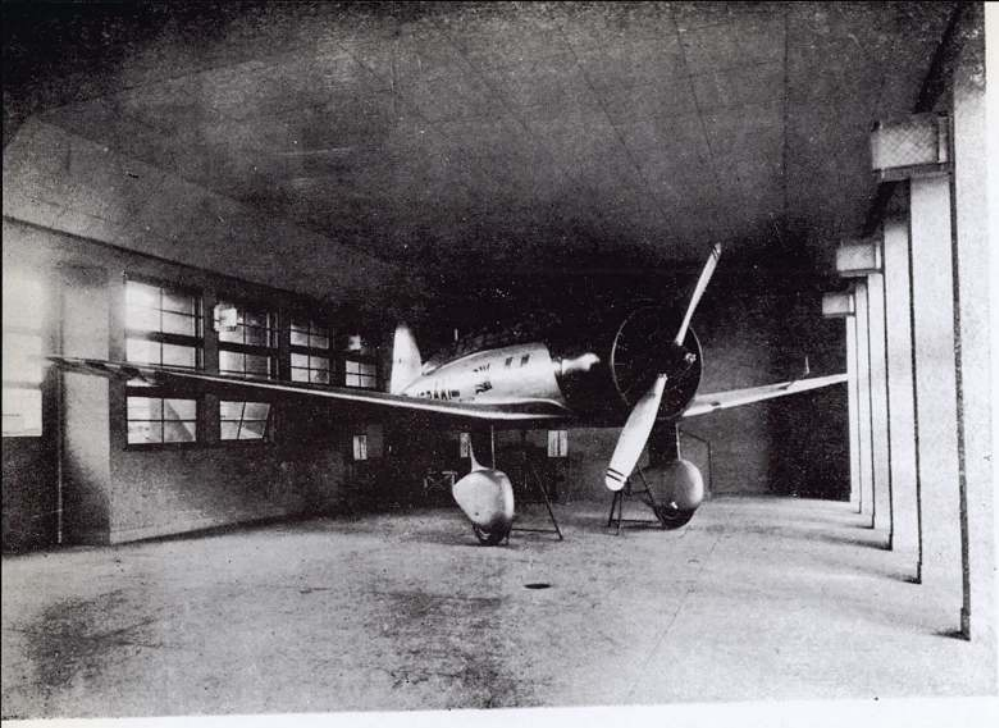


臺姫空航　館念記風神　察風神

南面外觀

半圓形突出部は食堂。その右に續く部分は道場大ホール。2階の部分は社交室、圖書室。何れの室よりも河内平野を越えて大阪市、淡路島あたりまでの大景觀をほしいまゝにす

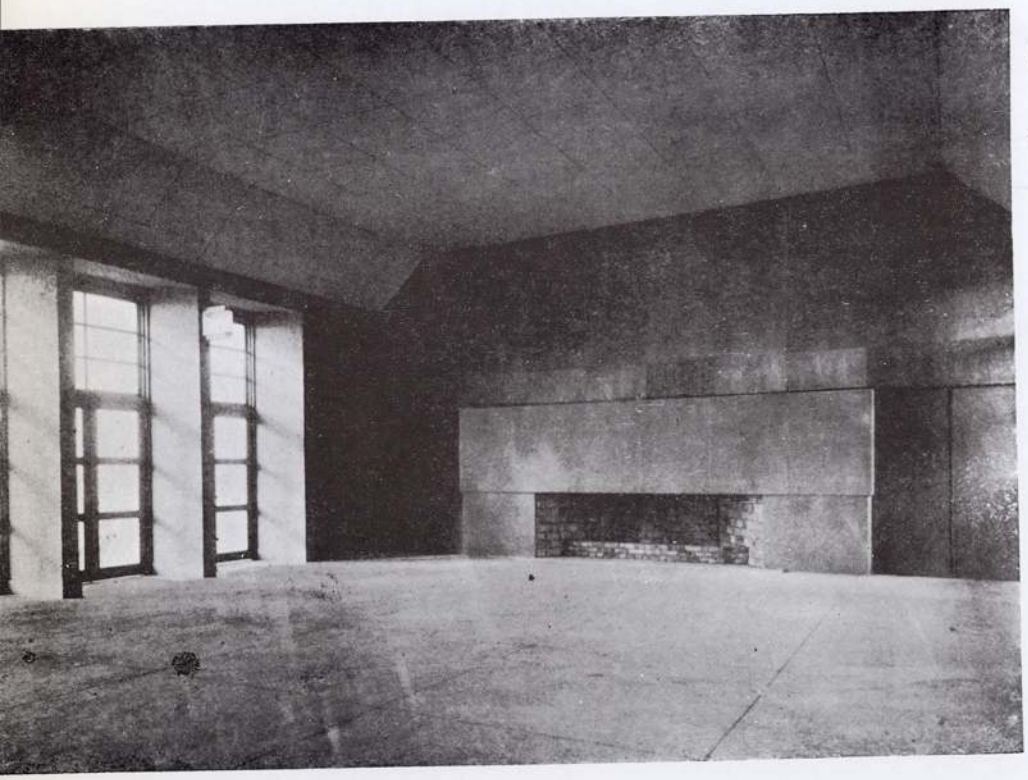




大ホール

⑥の反対側玄關よりの入口飛行機は「神風」機。飾付完成の形では寫眞左上部天井凹部の個所に釣り上げる

生駒山・航空道場・設計施工・竹中工務店



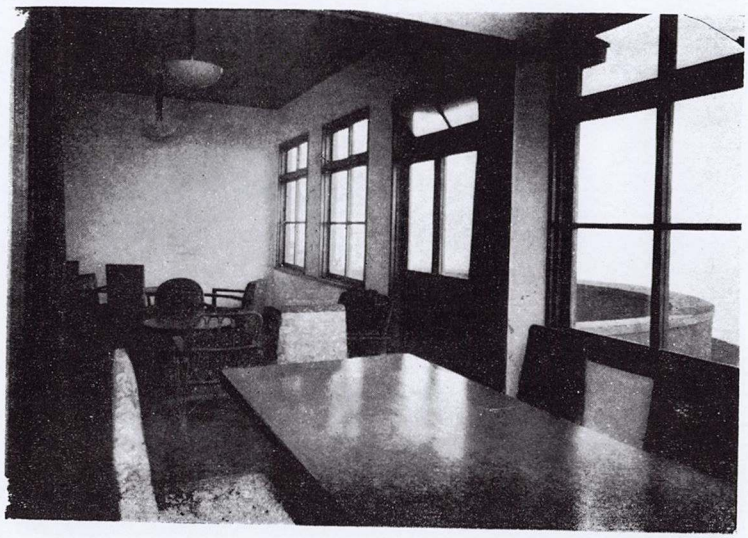
大ホール

床モルタル仕上。天井テックス貼。壁漆喰粗面ペンキ塗仕上。壁付煖爐黒御影水磨。煖爐上部壁面はカンバス貼「神風」訪歐行程を示す裝飾壁畵（本寫眞は未完成）煖爐の左手ドアーは食堂へ。右手ドアーは宿舍、階段室、便所等へ通ず。

食　堂

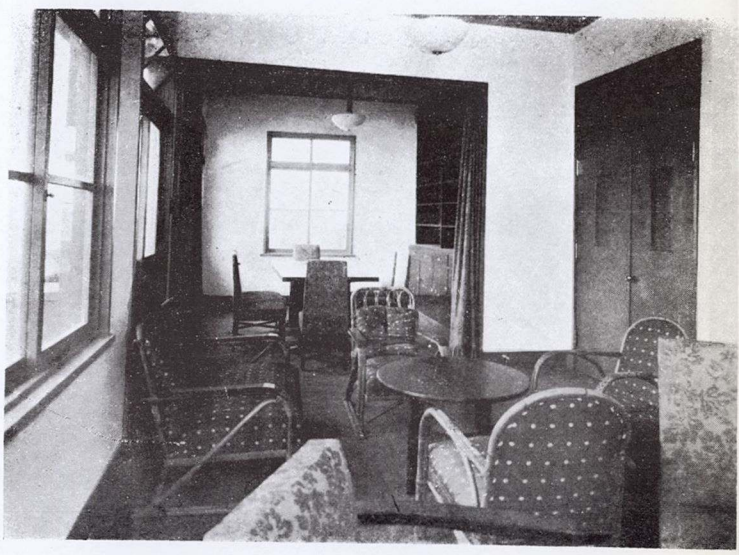
床板張。天井テツクス、壁漆喰
何れもペンキ塗仕上。





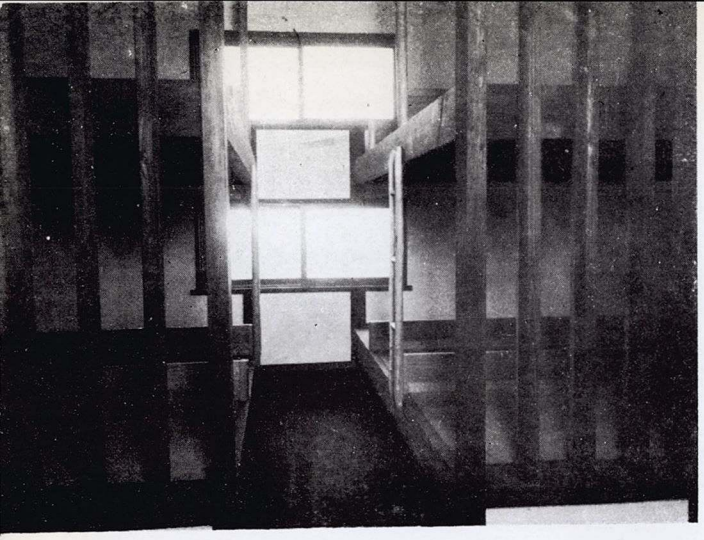
圖書室

床板張。天井テツクス、壁漆喰
何れもペンキ塗仕上。
中央のドアーより露臺に出られる。
カーテン仕切より向ふ社交室。



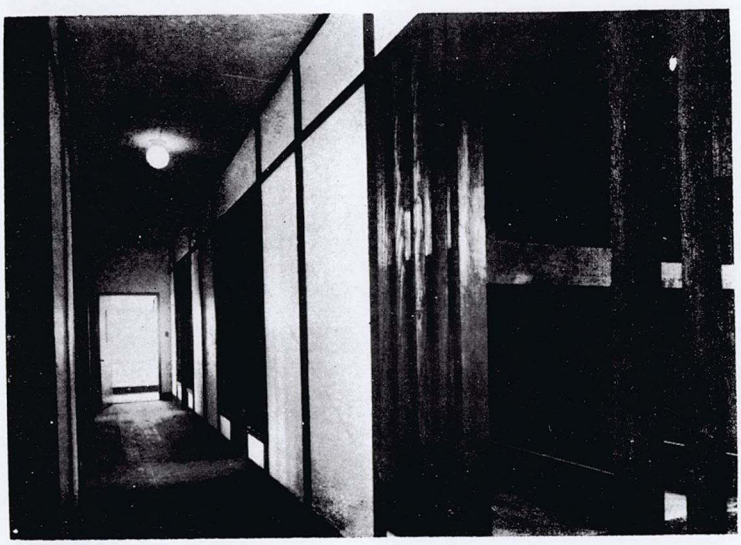
社交室

床板張。天井テツクス、壁漆喰
何れもペンキ塗仕上。
左方のドアーより露臺に出られる。上手は圖書室。



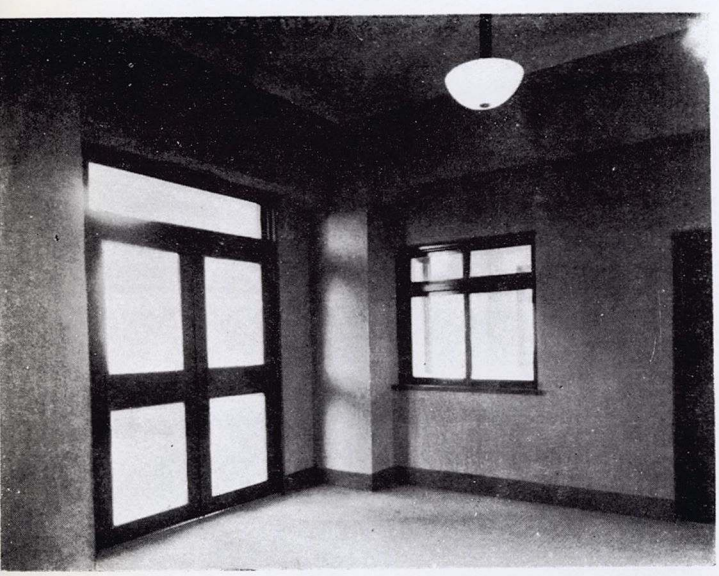
宿　舎　その2

コンパートメント内部。
床板張。天井テツクス、壁板張、
寝臺床疊敷。



宿　舎　その1

廊下兩側に12人宛のコンパーメント。床板張。天井テツクス、壁漆喰何れもペンキ塗仕上。
廊下突當り階段室及非常口。
寝臺數6ヶ個。



玄　關

床モザイクタイル。壁天井漆喰粗面ペンキ塗仕上。建具木製ペンキ塗。左方兩開扉は車寄へ。その右の小窓は事務所受付窓。その右に半分見える出入口は寫臺への登り口。

生駒山・航空道場・設計施工竹中工務店



本館夜間出入口附近

大阪市立貝塚療養所

設計・大阪市建築課・施工・淺沼組

設計に就いて、 建物の性質上、建物と建物との間隔を多くし又、廊下を北側にのみ採り、日光を多量に採り得る様考慮した。同様に通風良化策として窓を多くした。尚日光浴室並にテレスを設け日光浴の完全を期した。有料病棟は重に孤室。無料病棟は共同室を主にし孤室を數個所設けた。

位　置……大阪府下泉南郡貝塚町字三之亟山

工事期間……第1期. 第2期完成、
第3期　目下工事中、昭和16年11月完成豫定

起　工……昭和13年9月

敷地面積……16萬坪（内、6萬坪　傷癒軍人貸與）

收容人員……750人（有料、無料共）

建築面積……8196.96m²

延面積……13317.93m²

内　訳　本　館（附渡廊下）2009.93m²
有料病棟（6棟）　3183.79m²
無料病棟（5棟）　3003.24m²

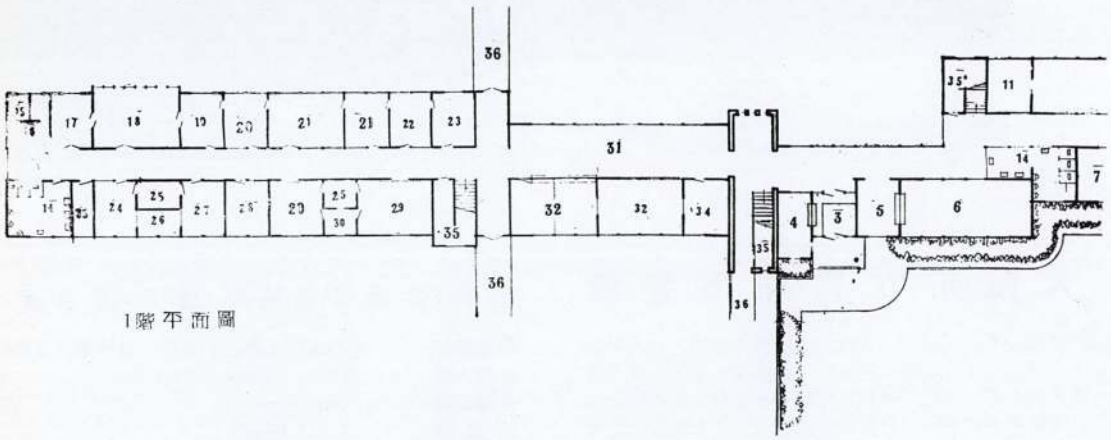
構　造……本館　木造2階建、瓦葺、外部モルタル粗面仕上
有料病棟及無料病棟　木造2階建、瓦葺、外部立下目板張クームヒン仕上



本館背面外觀



本館全景



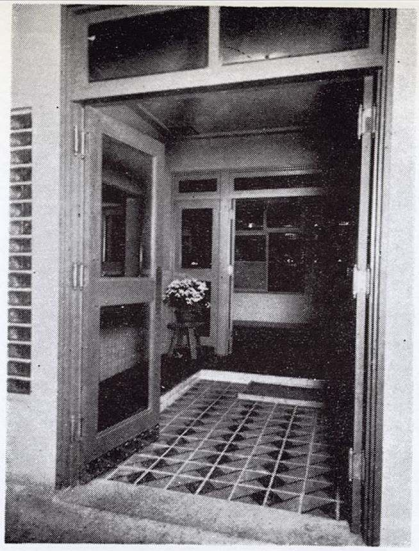
1階平面圖

1階

1. ポーチ
2. 玄關
3. 患者入口
4. 下足
5. 溜
6. 病室係
7. 更衣室
8. 事務倉庫
9. 應接室
10. 電話交換室
11. 事務長室
12. 庶務係
13. 宿直室
14. 便所
15. 浴室
19. 更衣室
17. 材料消毒室
18. 手術室
19. 處置室
20. 檢査室
21. 診察室
22. 看護婦室
23. カード室
24. 耳鼻科室
25. 暗室
26. 技工室
27. 齒科室
28. 太陽燈室
29. レントゲン室
30. 裝置室
31. 待合
32. 藥局
33. 製劑室
34. 歷工室
35. 物置
36. 渡廊下



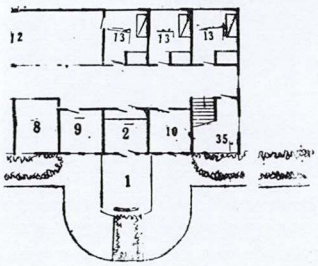
無料病棟外觀

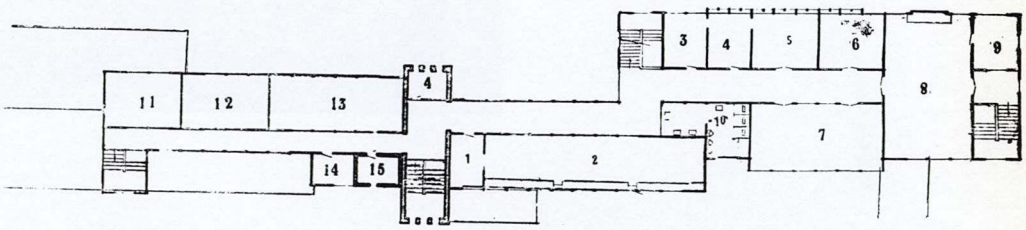


本館玄關



渡　廊

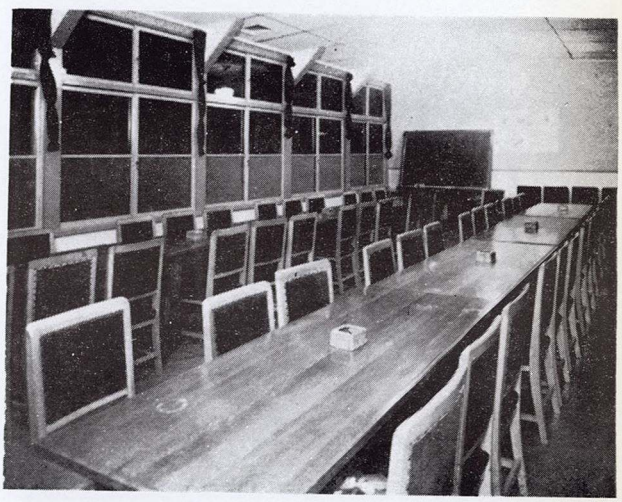




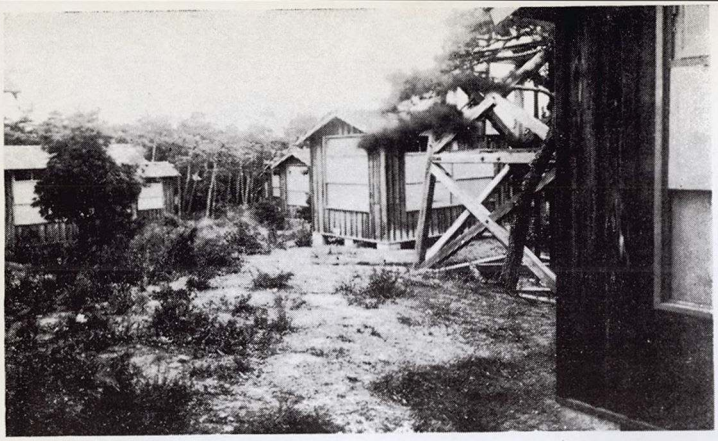
2階平面圖

2階

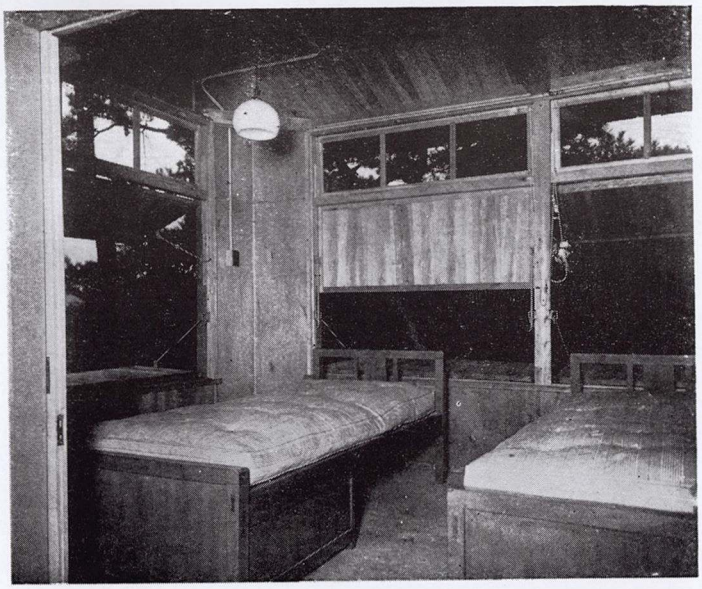
1. 培養基室
2. 研究室兼檢查室
3. 副院長室
4. 應接室
5. 院長室
6. 貴賓室
7. 會議室
8. 講　堂
9. 控　室
10. 便　所
11. 醫長室
12. 圖書室
13. 醫　局
14. 標本室
15. 冷藏室



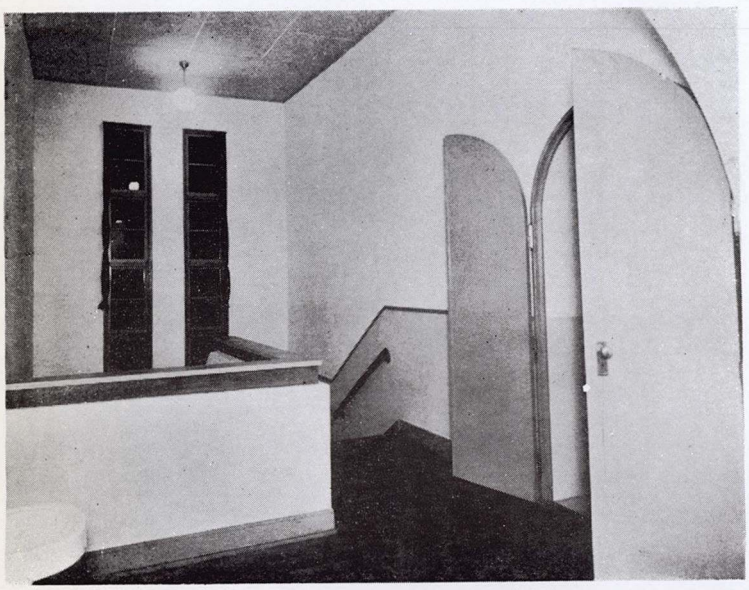
本館會議



外氣小屋を見る



外氣小屋内部

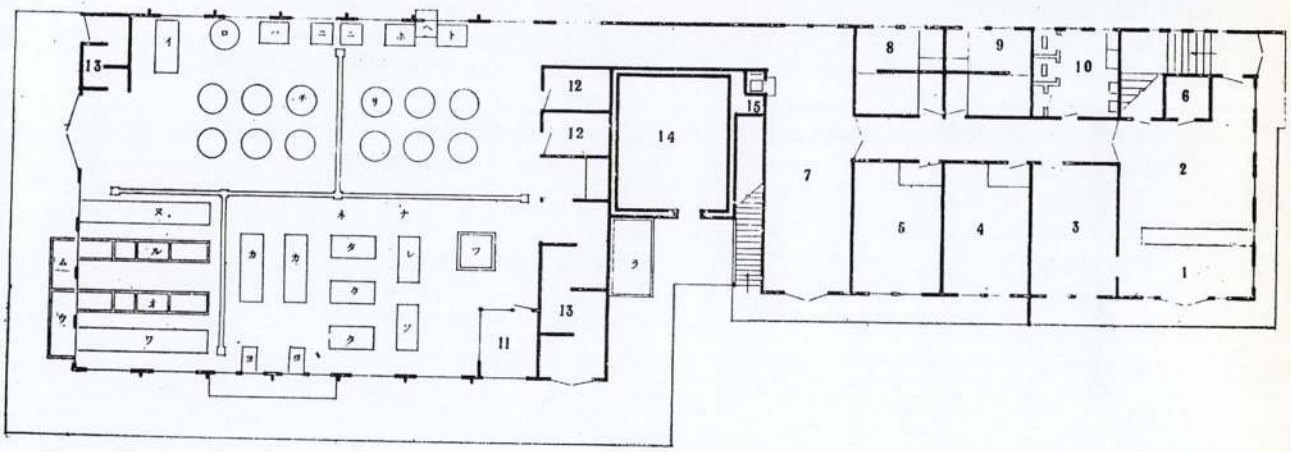


本館階段堂

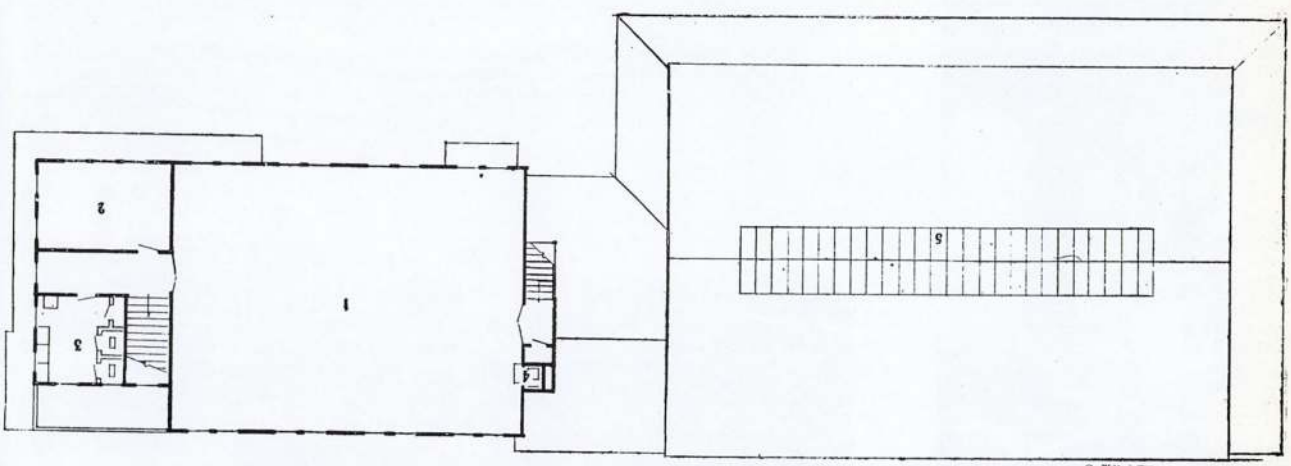
12 大阪市立貝塚療養所　設計・大阪市建築課・施工・淺沼組



本館外觀



1階平面圖



2階平面圖

川崎榮養食配給所（神戸）　設計・笠井建築事務所　施工・中島組



本館出入口附近



本館玄關內部

前頁平面圖の說明

1 階

1. 玄　關
2. 事務室
3. 應接室
4. 男子更衣室
5. 女子更衣室
6. 職員更衣室
7. 從業員食堂
8. 女子浴室
9. 男子浴室
10. 便　所
11. 烹炊長室
12. 調味室
13. 暗　道
14. 冷藏庫
15. リフト

2 階

1. 廣　間
2. 應接室
3. 便　所
4. リフト
5. トツプライト

イ. 洗面器
ロ. 皮剝機
ハ. 調理機
ニ. フライヤー
ホ. ストーブ
ヘ. 石炭入
ト. 燒物器
チ. 主食釜
リ. 副食釜
ヌ. 副食辨當箱格納棚
ル. 副洗場
ヲ. 主洗場
ワ. 主食辨當箱格納棚
カ. 主食盛付臺
ヨ. スライドテーブル
タ. 野菜盛付臺
レ. 魚肉盛付臺
ソ. 魚肉盛付臺
ツ. 水　槽
ネ. 會　所
ナ. 排水溝

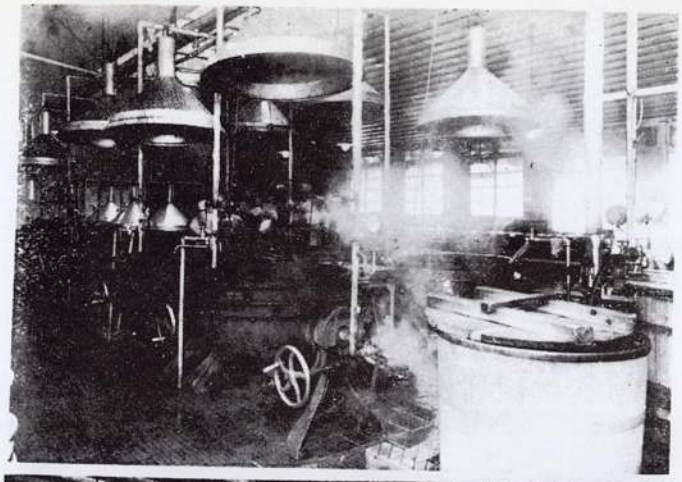


本館應接室



本館2階事務室

114 川崎榮養食配給所（神戸）　設計・笠井建築事務所　施工・中島組





上・副食釜・下・主食釜



天井廻り

工事概要

建築面積	延坪	728坪	
			配給所 419坪
			内精米所 309坪
	内譯	配給所	事務所…1階74坪… 2階65坪
			調理場…… 150坪
			冷蔵庫……10坪
			物品倉庫… 100坪
			ボイラー室…20坪
		精米所	精米及白米置場…172坪
			玄米倉庫…… 65坪
			物品倉庫…… 50坪
			リヤカー庫…—… 15坪
			其他……7坪
建築費		約拾萬圓也	

建築概要

構造　木造平家建及一部2階建
外壁　色モルタル塗り及一部羽目板張り
屋根　スレート葺
塗飾　内外共何れも「ペンキ塗」りとす



調理場



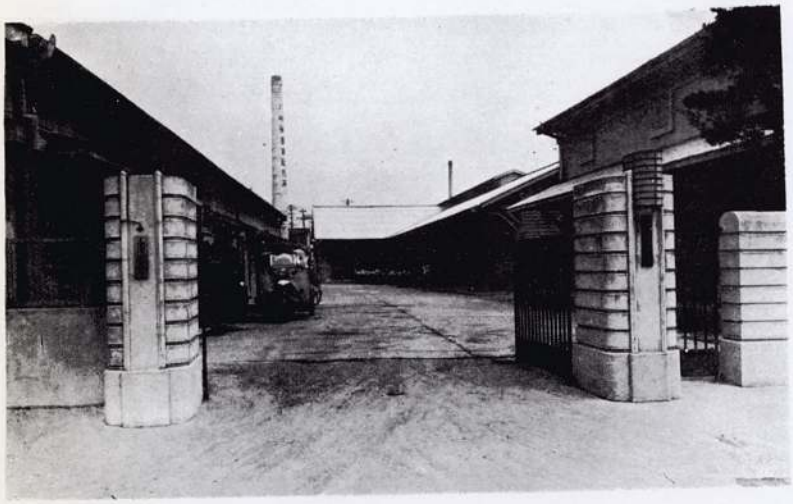
精米所・倉庫を見る



精白米倉庫



精米所内部



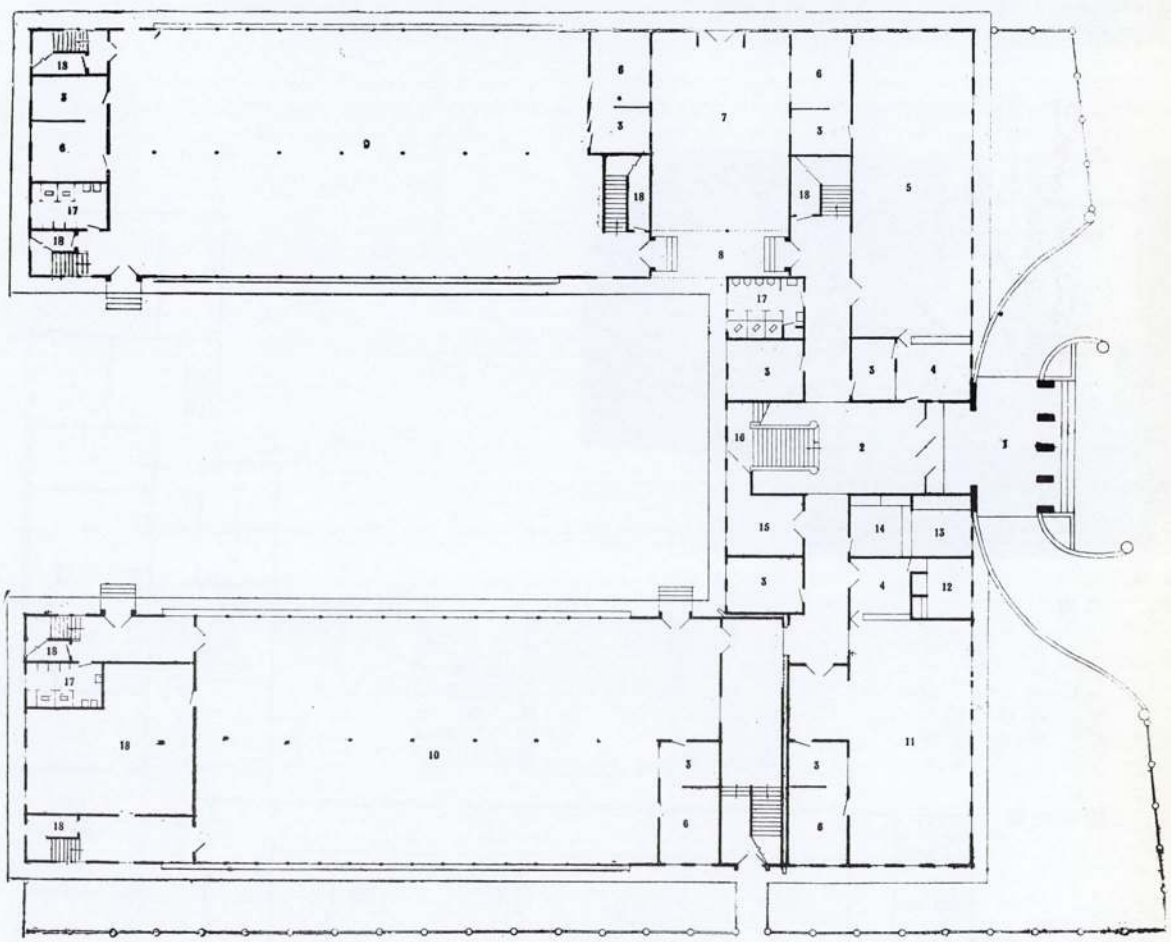
精米所出入門

1 階

1. 車　　寄
2. 廣　　間
3. 應　接　室
4. 客　　溜
5. 總　務　部
6. 部　長　室
7. 中　　庭
8. 渡　廊　下
9. 營業部. 工務部
10. 經　理　部
11. 福　祉　部
12. 宿　直　室
13. 小　使　室
14. 湯　沸　室
15. 電話交換室
16. 休　憩　室
17. 便　　所
18. 物　　置



外　　觀

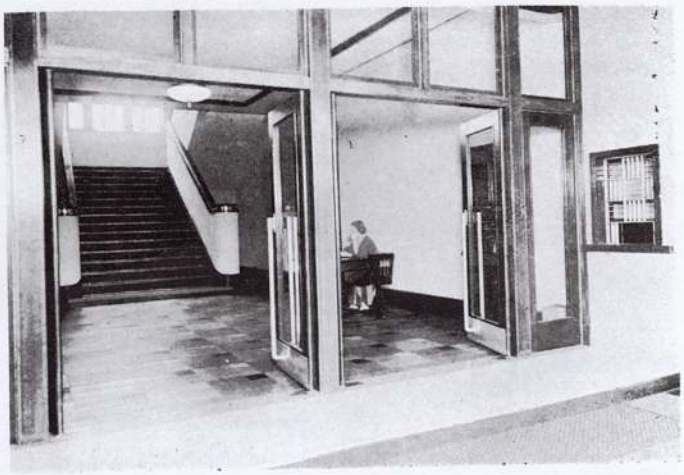


1 階 平 面 圖

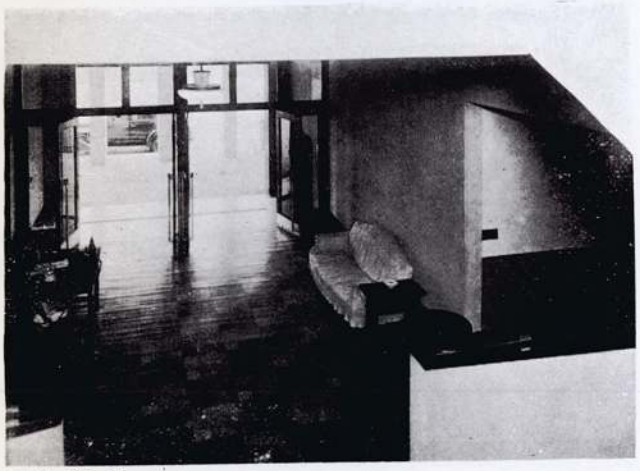
大阪交通株式會社　設計・津田建築事務所　施工・小綠組　石川彌太郎



玄關車寄せ



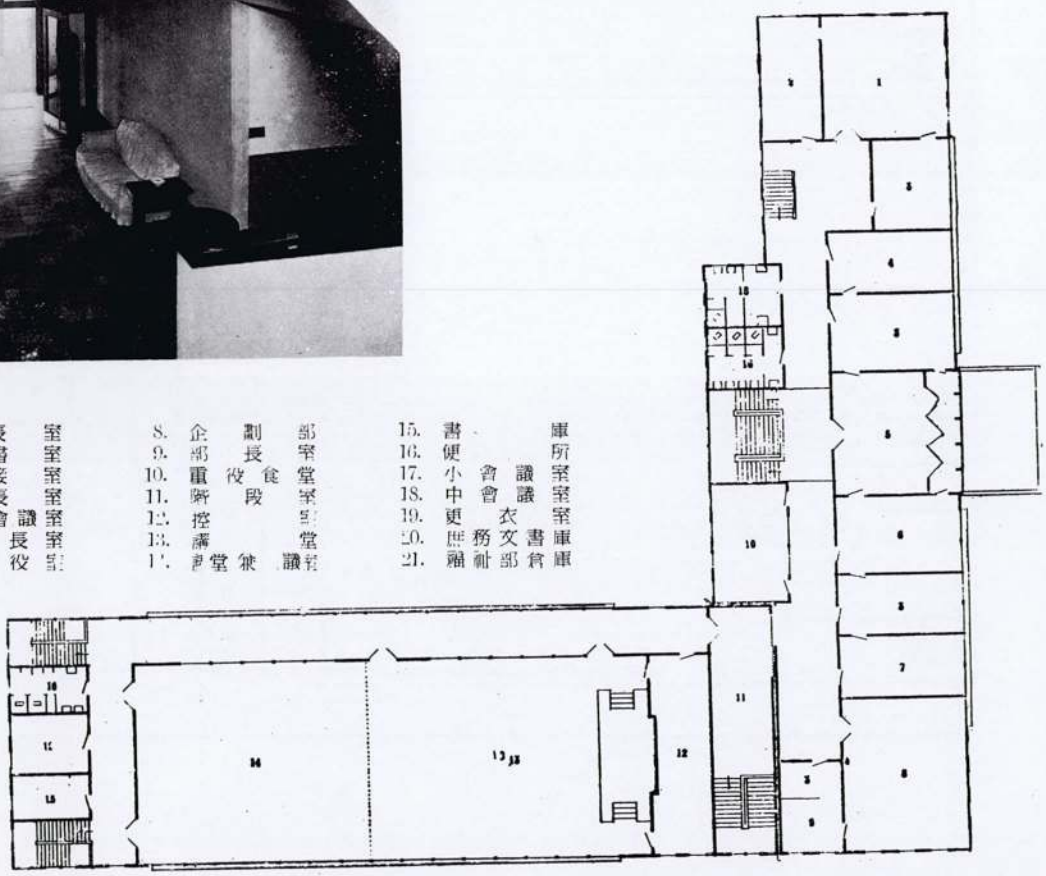
玄　　關



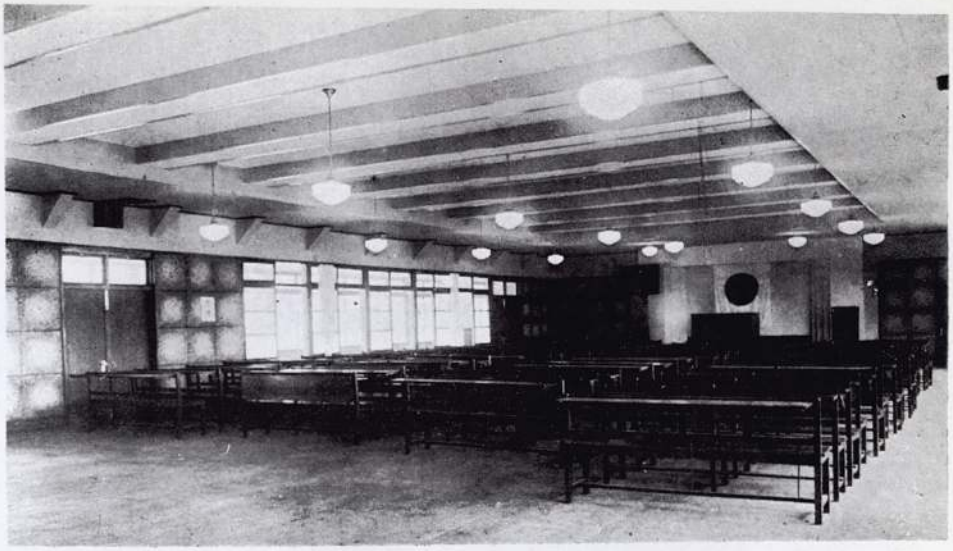
玄關廣間

2 階

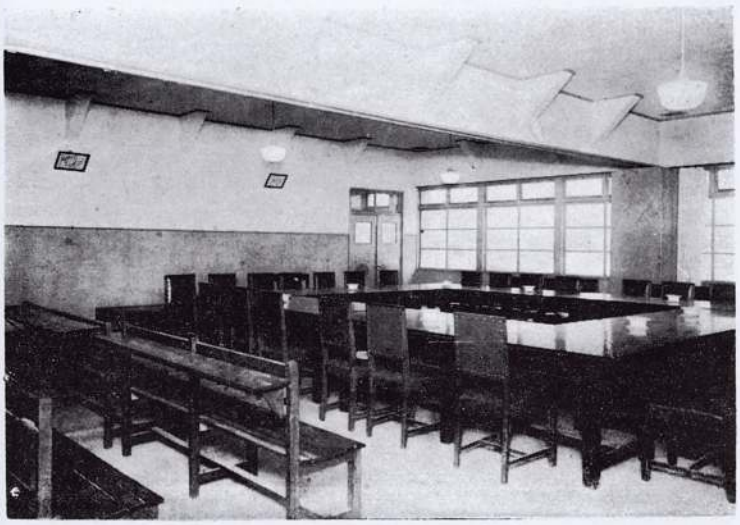
1. 社長室
2. 秘書室
3. 應接室
4. 會長室
5. 重役會議室
6. 副社長室
7. 監査役室
8. 企劃部
9. 部長室
10. 重役食堂
11. 階段室
12. 控室
13. 舞臺兼講堂
14. 講堂
15. 書庫
16. 便所
17. 會議室
18. 小會議室
19. 更衣室
20. 庶務文書部
21. 倉庫



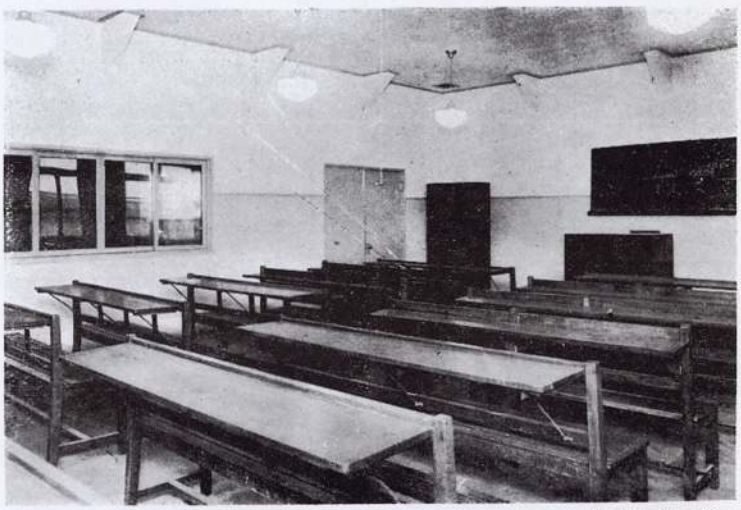
2階平面圖



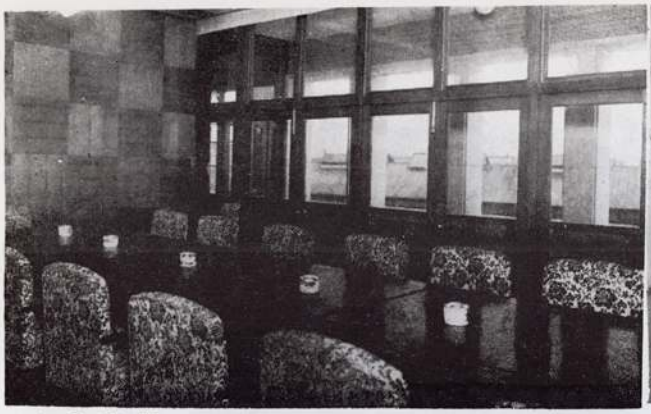
講　　堂



講堂兼會議室



中會議室



小會議室



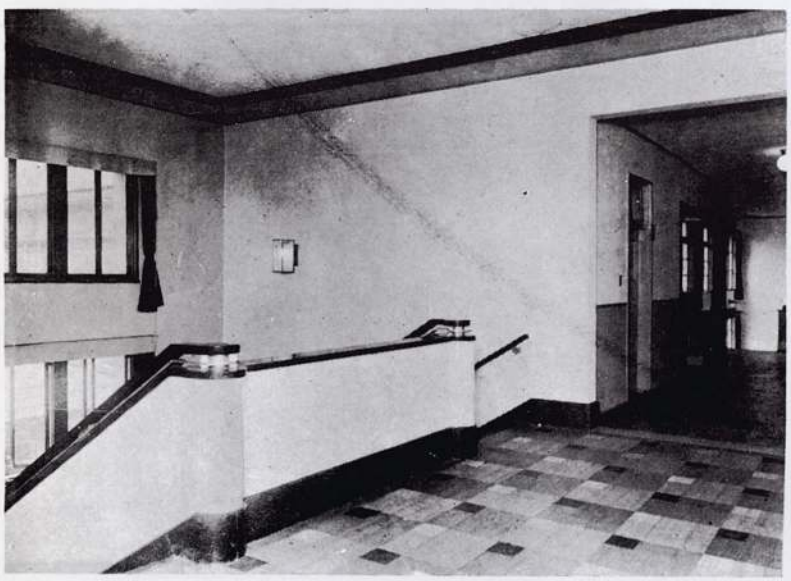
重役食堂



應接室

工事概要

位置	大阪市東成區南1丁目17
敷地面積	1005坪餘
建築面積	519坪7合7
延面積	1049坪5合4
階數	2階
高サ	軒高29尺7寸
構造	主體木造
外部仕上	鐵網張り豆砂利入モルタル下塗りグスター仕上 道路側窓額緣廻り腰巾木車寄せ外裝は凝石張り
屋根	型瓦葺き方形式
内部仕上	一般事務室床リグノイド塗り巾木人造石周壁プラスター腰オリエンタルクロス貼り天井落子テックス貼り見え掛りペンキ塗表玄關土間及羽目テラゾー天井リシン仕上 廣間床リノタイル貼り巾木テラゾー天井周壁オリエンタルクロス貼りペンキ仕上、中央階段巾木手摺テラゾー、段面リノタイル貼り各重役室床寄木張り、リノリユーム敷羽目ベニヤ寄木及ドーアテックス貼り天井壁殘貼仕上塗師オイルステン仕上、講堂床リグノイド、羽目トオアテックス天井オリエンタルクロス貼りペンキ其他ステン仕上
衞生設備	淨化裝置（水式）



階段室



2階廊下

都市の性格に於ける世界的と日本的

長谷川如是閑※

1.

都市の形態と構成とに國々の特色をもつ事は、過去に溯るほど顯著であつた。近代に於ける世界的交通の發達のために、可なり歴史的の特色をもつた都市も、その國の生活樣式が近代的に一樣化される傾があるのに伴つて、形態も構成も一樣化して殊にその都市の中樞部分に於ては、傳來の特色が稀薄になるのである。又都市の形態や構成に關する科學が世界的に普及されると共に、多くの國々に於ては、自國の特色事情によつて、その學問をそれぞれ再組織する前に、ある中心に起つた學問の形式と内容とが、先づ機械的に學びとられる結果、愈各國の都市の中心が似寄つた形態や構成をとる事となるのである。

かくして都市の形態も構成も、その中心地區に於ては、世界的一樣性に向ふのであるが、しかし都市全體としての固有の性格の全然失はれることはない。中心地區に於ても、世界的一樣化のうちに固有の性格による特異性をもつのは、當然であるその場合に、歐米のやうに、民族文明の同系統のものをもつ國々に於ては、その國際的の一樣性は、比較的よく各國の固有の形式と融合して、木に竹を接いだやうにはならないが、近代の東洋のやうに、數千年來、全く樣式の違ふ文明をもつて發達して來た所に世界的の一樣性をもつた都市形態が移入された場合は、そこに誠に調和のとれない形式の混合が起る。隅田川や淀川の橋は西洋の工學の輸入に伴つて、可なり早くから洋式の鐵橋になつたが、それが日本固有の木橋と列んだり又兩岸の我國都會の中心的景觀から超然とした存在であつたりして可なり不調和な樣式の混在であつた。

2.

工學、工藝の專門家は、個性的創造に重點を置くために、自己の創作を、環境から引き離して、獨自の存在として見る傾きがある。その個性に任かせると、歴史的に特殊性をもつ都市形態を離れて、その個性の創造物が嶄然頭角を現すやうになるが、それが彼等の滿足でもある。それがため西洋の都市に於ても、往々局部的には不調和を生することもあらう。古い話だが、ロンドンのウエストミンスターに官省ブロックを作る時に、首相のパーマストーンは、その新しい設計が同地區の舊態と調和しないといふ理由で、それに變更を命じたといふ話がある。ロンドンなどは近代樣式の構成をもつてゐるので、それが新しい樣式との不調和といつても、さう甚しいものではないやうに思はれるが、我國のやうな場合には、全く文明系統を異にする我國自體の特殊の中世的樣式と歐洲の近代樣式との混合となるので、その不調和は著しいわけである。

それにも拘らず、さういふ不調和を回避して、パーマーストーンのやうに、舊形式への調和を要求することは、我國の都市の現代的發達の上からは、絶對に許されないのである。これは西洋でも、木造都市から赤煉瓦の都市に遷る時代にはやはりさうだつたのである。さういふ場合には、少くとも都會の中樞地區の建設に於て、木造時代の舊樣式への調和などといふことは考へてはゐられなかつたであらふ。

尤も現代のコングリート建築は、煉瓦建築よりは、舊樣式を繼承する可能性が多く、我國の木造樣式を、昔の埃及の石造建築が、それより古い時代の木造建築の樣式を繼承した以上に、そのまゝ再生せしめる事も不可能ではないのであるが、都市の形態が全體的に、いはゆる洋式になりつつある場合には、舊樣式の建物は、それが殊に古典的な意味をもつ目的に使用する建物でない限り、却つて不調和となる。さればさういふ意味なしに、強て舊樣式をそのまま再現せしめる事は、都市のその地區の全體觀から、それを避けねばならぬ場合が多いであらう。

我國の專門家の近年の傾向としては、一方に於ては、世界的の新しい樣式に向つてなほも精進せんとする傾向があると同時に、他方には、漸く我

※筆者は評論家

が國の傳統的感覺に基礎する新樣式を洋式建築に於て創造しやうとする傾向もあるが、さういふ段階に入つたので調和は一層複雜になつた。都市の構成としての混合樣式に進む前提として、個々の都市建築に於ける混合樣式が起りつつあるといふ現狀であるが、その次ぎには、都市の『全人的』形態に於て、我國固有の樣式——といふよりは、その固有の樣式を基礎づけた、我國の風土その他の特殊事情による國民的の感覺・情操——の表現を見る事となる順序である。さればここでも、我國の都市形態の現代的性格について考ふる前に、今現に具象的に個々の建築に於て示めされてゐる態度について考へて見なければならない。新舊樣式の混在時代から、舊樣式を新樣式のうちに溶解する、——又は新樣式を舊樣式のうちに溶解する——時代に入つた故か、專門家の間には、新舊樣式の混在を嫌ふ風が以前よりは、強くなつてゐるやうである。

たとへば屋敷門の奥に『洋館』をもつといふ事は、明治時代には、洋式建築の設計者のために餘り嫌はれなかつたが、今の設計者には嫌はれてゐるやうである。これは混在から調和に進んで時代の當然のやうだが、他方では洋式建築に和式の樣式の取り入れられるやうになり、洋式建築自體が日本的形態をもつやうになつて來たので、舊樣式の建造物とそれとの不調和は大に緩和されてゐる場合がある譯である。而かも今の專門家は、さういふ場合にさへ、日本式の加味された新樣式と舊樣式との調和を否定して舊樣式と協同で環境を作ることを嫌つてゐるやうに思はれるものがある。

具體的の例を擧げるのは遠慮したいが、意味を明かにするために一つだけ擧げる事を許して貰ひたい。上野の帝室博物館の舊建築は、英人技師コンドルの設計なので、我國自體のその頃の工學者の態度の例とする事は出來ないが、後の日本の工學者の態度と對照せしめるために、それをかりて云ふのであるが、それは印度サラセン風を加味した赤煉瓦の建物で、さうして純日本風の、昔の黑門をもつてゐた。これは恐らく設計者のコンドルがその黑門の存置を主張したか、又は少くともその撤去を主張しなかつたのであらふと思はれる。然るに、日本風を加味したといふ新建築の場合は、日本の技師がその黑門に退去を命じて、新らたに立の門を設けてゐる。新建築は以前のそれよりは、多少とも黑門との不調和が緩和されてゐる。——考へ樣では、調和してゐる——とも思はれるのに、今日の專門家は、それを撤去せしめたのである。もしそれが存置されてゐたら、外人などが見て、本館はその黑門との調和を考へて設計されたと思ふかも知れないであらう。これは前に云つた、工學者・技術家の個性的創造の尊重に原因してゐるのではなからうか。新建築を正面門前から見る時は黑門は邪魔になるのである。撤去の理由は知らないが、それも理由の一つではなかつたか、然しもしそうなれば、同じ意味で、あの建築自體の玄關の別棟の構造が、母家の肝要な部分を隱してゐる邪魔物とも見られるのである。(原設計圖では、玄關は、別棟に見られる樣な構造では無かつたと思ふ)

筆が岐路に走つたが、さういふ事も、前に云つた如く、わが工學者又は工藝家は、なほその創造能力の育成に精進しつつあるので、勢ひその創造物の個性を重視して、より廣い綜合的形態への關心が、それに打ち敗かされるのではあるまいか。

3.

上述の如く、我が國の現狀に於ては、個々の都市建築に於ては、和洋形式のモザイク的入れ交ぜの時代を率へて、洋式に日本的形式を溶解させる、又は日本的形式に洋式を溶解せしめる、過程に入つてゐるのであるが、まださういふ性格的の我が特異性を都市の『全人格』的の表現の上に具體化させる場合まで進んでゐないやうである。國內では、滿洲國の新京に於けるやうに、都市そのものの性格を新らたに、構成的に表現するやうな、全都市の綜合的設計と云ふものの實際上試みられた例はないので、(明治の初めの、米人クラークの札幌の設計は、ややそれに近いものと云へやうが。)

局所的の表現にそれを求める外はないが、今までの處では、その局所的の構成には、個々の建築で固有の樣式の溶解狀態の示されてゐるほど、我國の傳統的の樣式の溶解されてゐるものはあるか何うか、廣く探求しない筆者には何とも云へないが、通常目に觸れるところでは、大抵洋式の再生のやうである。個々の建築に、固有の性格の表現を求める樣になつてゐるのは、上述の如く、より大きい『全人的』形態にそれを求める前提と見なけ

ればならないのだが、その點について今日までの困難は、明治時代の銀座街の設計のやうに、局部的にも『全體』の計畫をもつ事の出來ない事で大震災後の再建に於ても、道路と家屋との關係さへ、綜合的計畫の下に、構成されたのではなかつたのである。

又綜合的に考へるにしても、我が國の場合には特殊の困難がある。といふのは、前にも觸れた如く、我國の都市の日本的性格ともいふべき、形態的特徴は、主としてわが國自體の中世都市の特質から生れたもので、それが近代の世界的樣式に對する關係は、餘り『異國的』で、個々の建築としては、その特性を加味し得ても、より大きい都市の『全人的』形態にそれが現はれる場合には、要するにその形態の、近代的生活の形式との調和がなかなか困難なのである。調和不調和といふことは、都市計畫の場合は、前に云つた黑門と博物館との調和不調和のやうに、單に感覺の問題であるばかりではなく、日本人の現代生活そのものとの調和不調和といふ問題になるのである。わが傳統的樣式が再生されるとしても、それは現代の日本人の生活それ自體に、なほそうした樣式の發生を可能ならしめる條件がなければならないのである。わが日本固有の樣式だからと云つて、單に『樣式それ自體』を機械的に現代に再生させても、それが、現代生活に機能的でなければ、現代都市の『全人的』性格の重心となることは出來ないであらう。

4.

局所的にしろ、ある地區に、大なり小なり、固有の性格をもつた形態的表現をもつといふ事は個々の建築の場合よりはたしかに困難な問題である。近代建築にある程度、固有の形式を加味しても、それが必ずしも現代生活に於ける機能を妨げない場合は可なり多いのだが、都市形態の局所的の構成に、我國固有の樣式を加味しようとすること、近代都市の機能に適合しないものとなつて實際上の不都合を生ずる處が多いであらう。されば現代都市の形態は、我國の中世的の都市の性格を機械的に踏襲したそれではなく、現代日本の生活樣式を基底として生れた、發展的の日本的性格の表現でなければならない。

ところが、そこにも問題があるのは、現代の日本は、西洋との交通開始以來一世紀になるやならずなので、新時代の性格は、なほ成育時代であつて、ある完成された典型をもち得たとはいはれない。從つて都市形態も、純洋式の再生を無難とするわけだが、さういふ段階に於て、多少とも日本的性格の表現形式を創造しやうとする場合には、その基調を、現代日本のなほ過渡的たるを免れない外的表現に求めるよりは、寧ろそこに基底的の潛勢力として持續されてゐる傳統的の感覺・情操の過去の表現であつた、ある完成された歷史的の典型にそれを求めなければならないであらう。更らに云へば、過去の樣式の機械的再現ではなしに、その精神を蘇活せしめた、新樣式の創造でなければならない。

而してそれには、わが中世都市の形態――と云つても、主として德川末期に成立したそれで時代から云へば近代であるが、その都市生活の樣式に中世的特徴を持續せしめてゐるもの故、かりに中世都市といふのである――の心的條件とも、また精神的特徴ともいふべきものの認識が必要となつて來る。而してその認識に於て、さうした過去の心の現代的意義を把握しない時は、徒らに現在通用しない貨幣の蒐集のやうな結果となるであらう。つまり歷史的現實の、現代的生命を求めなければならないのである。

わが中世都市の形態的特徴についてここに詳述する餘裕も用意もないが、ただその一班をあげて全貌を窺はしめるならば、たとへば、わが中世都市の問屋町の規格的に統一された、形態的表現を基礎づけた、心的條件の如きは、その一つであらう。即ち或る我國民特有の生活心理の表現形式がわが中世都市の主なる性格をなしてゐたのであるが、さういふことは、近代都市の形態的表現としては可能か不可能かといふ問題がある。

右の問屋町の例は、後に云ふ如く、特にわが中世都市の特徴だつたので、他國の中世都市には、わが國に於けるほど嚴格に、又强度に、さうした特徴が現はれてゐたとは思はれないから、洋式に基づく近代都市にそれが繼承されないのは當然だが然し、それに似た精神が、西洋の都市には、皆無であるとも云はれないのである。

わが中世都市の本格的の商店街の形態的特徴の一つは、それが規格的に嚴格に統一されてゐたことだが、西洋でも、中世社會は、一般にさう云ふ

傾向があつたに拘らず、都市形態に於ては、事實上我國はどそれが正規約の形で現はされてゐたか何うか。而して我國のそれは、命令による統一ではなく、全く自主的のそれであつたが、さういふ特徴は、個性主義の近代都市形態として持續される事の不可能なのはいふ迄もない。たとへ西洋の中世都市にそれがあつたにしろ、近代の石造都市に移る場合に、その特徴は多分失はれたであらう。しかるに我國では、都市を近代化する試みの始めて行はれたのは、前に云つた銀座の改造だつたが、その時は、命令による規格的統一の形であつた。一層近代化の過程の進んだ時に、さうした統一形式は全く破られたが、とにかく最初にはさうしたわが中世都市の形態的特徴持續があつたのである。

この中世的特徴は、近代の個性的の市民生活に移る前の中世的の——ギルド的の——市民生活の表現形式だつたが、それに對する今日の認識としては、その形式そのものが主要なのでなく、それが何を表現したかの認識が大切なのである。即ちその形式の底にあつた心的條件を認めなければならないのである。

それはわが國の市民に特有の精神に相違ないがその精神自體よりは、その精神を如實に表現した形式をもち得た事が、現代に於てもその意義の認められるべき點である。

5.

近代都市の形態に於て、市民的精神を、我が中世都市の様式ほど如實に表現し得たものがあるだらうか。今の我國の都市形態は、要するにシヴイツク・アートともいふべき、技術的、もしくは、藝術的の性能の表現であるが、わが中世都市の形態的特徴はシヴイツ・ヴアーチユーともいふべき市民の道德的性格の表現形式であつた。その形式に於ける規格的統一は、中世的の道德が同じく規格的に統一されたそれであつた事の反映で近代の形態の個性的表現も亦、近代の個性主義道德の反映ではあるが、前者は今云つた如く、道德的の表現であり、後者は技術的のそれである點注意せねばならない。

中世都市の形態が現代に生命をもつならば、それは、都市形態の表現に、道德性をもつ事である。この事は、西洋の都市にも、ある地區に於て見られるのである。たとへば大學區又は、大學都市といふやうな所は、學問の土地としての表現形式をもつが、それはその審美的形式にモーラルをもつといふ性格のそれである。さういふ都市形態の性格のそれである。さういふ都市形態の性格がわが中世都市に於ては、商人街や屋敷町に於て顯著だつたのである。

さうした形態的特徴を形作つた個々の商店の構成は、誠にいはゆるシヴイツク・ヴアーチユーの『化け物』ともいふべきやうな形式をもつてゐた。正面の神棚、その下の帳場格子、それを中心とした長方形の店の構成、それを掾どる巨大な木材の上り框——これに構造上不必要なほどの巨材を用ゐた意味を想へ——而して形體的境界であるよりは、心的境界としての敷居——『敷居が高い』といふ諺のある所以——。そうした內部にふさはしい街頭に向つた面の正規的の形式、それの『正裝』としての暖簾等々。

それは當時の『店』が單に物を賣買する事務所であるよりは、そこに育つ人間の『氣質』を訓練する『道場』だつたからである。その頃『道場』といへば擊劍・柔道の稽古場の事だが、商人の徒弟がそこを家とする『店』は、それに劣らぬ意味で『道場』だつたのである。商業技術はたゞ算盤を教へられるだけで、すべていはゆる『見やう見眞似』で覺えるばかりだつたが、商人としての言語、擧止動作の訓練は嚴しく與へられたのである。それは主として形式から入つて行く、中世式の訓練だけに、その形式の嚴格さに、その道德の嚴格さが象徵されてゐたのであるが、店の構成も亦感覺からその心的條件を訓育する形式をもつてゐたのである。今日は講談落語で僅かにその俤を偲ぶに止まるが、明治の半ば頃までは、わが大都市になほさうした中世的の現實の姿を見ることが出來たのである。

6.

近代社會は、すべて上記の如き舊式の典型の打破をその發達の條件としたので、その典型の形骸の持續は不可能となつたが、近代都市の性格をして、市民の感覺・情操の道德性の象徵たらしめるといふわが中世都市の特徴を近代都市の性格に於てもつことは、今後の我國の都市建設の一つの問題であらねばならぬ。 （第9頁へ續く）

都市計畫界の回顧と展望

中澤誠一郎※

悠久なる日本歷史を通じて今日程重大にして感激に滿ちた時代は多くはあるまい。此處に生れ合はせたことに我々は先づ感謝と緊張を覺える。昨年は日支事變三年にして未だ終熄せざる時、國際動亂の眞只中に光輝ある紀元2600年の奉祝典を擧げられ、國民的感情は昂揚せられ團體は愈々明徵となり、一億一心高度國防國家の建設に邁進する堅き覺悟が出來たのである。あらゆる方面に新體制の息吹は高く、盛り上る國民の力は今や實踐への段階に移されようとしてゐる。都市計畫界に於いては國土計畫設定の要綱が既に決定せられ、この觀點よりする發見が要請せらるるに至つた。昭和16年を迎ふるに當り、此の國家的重大時機に處すべき目標を誤らず、實踐への勇猛心を鍛へ、以て斯道に於ける臣道實踐、職域奉公の誠を致すの覺悟を新にしなければならぬ。

少しく都市計畫界最近の狀況を回顧し、將來を展望し、多少とも實踐への一助としたいと考へるのである。

1　昨年度都市計畫界の狀況

昨年度都市計畫界の重なる事項を通覽して見よう。

先づ法令としては、神宮關係特別都市計畫法の公布（4月1日法律第75號）及都市計畫法中改正の件（4月1日法律第76號）がある。前者は神宮の尊嚴を保持し、皇國精神の昂揚に資する爲神宮宮域擴張整備を爲すに付いて土地區劃整理其の他の都市計畫を國の事業として行ひ之を執行する上に必要なる換地の特例其の他が制定せられたのであつて、丁度關東大震火災の復興に當り特別都市計畫法が制定せられたのに做らつたものである。後者は都市計畫の目標たる交通、衛生、保安、經濟の四項目の外に新に防空を掲げて都市計畫の基本觀念として防空の重要なることを明瞭ならしめた點と、公園、綠地、廣場の施設が、都市民の保健增進上、防空防火又は避難上緊要なる施設である故都市計畫として決定した場合、未だ事業に着手する以前に於ても、その事業實施上著るしく障害となる處のある建築物に對して制限を加へることの出來る事となつた點内閣の認可を受けた所謂都市計畫法第十三條の土地區劃整理もその事業着手前に前同樣の制限を爲し得る事となつたのである。

1月15日火を發した靜岡市大火は罹災區域34萬坪、戸數5.100戸建坪約18萬坪であつたが、此れが復興に當つては不燃燒都市の建設を目途とし、先づ市街地建築物法全規定並びに防空建築規則を適用して建物の防火的構造を前提とし、土地區劃整理を中核とする公園、街路、防火用水利施設を都市計畫として決定し、既に換地計畫も決定し、本建築も漸次建築せられつゝあるのであるが、一部商店街に於ては共同建築案、建築線後退案も考究せられ其の實施を見んとしてゐる。

生產擴充の必要から近年各地に重要巨大工場が設置せらるゝに至り、之を中心として所謂新興工業都市の建設が主として土地區劃整理に依つて營まれてゐる事は注目すべき事實である。昨年來新興工業都市として、その事業に對して政府の補助せるもの9つに及び、其の他本年度に於ては15ケ所の豫定であり更に增加の傾向にある。中心工場は其の敷地面積數十萬坪より100萬坪程度、從業員數千人乃至數萬人を要するのであるが、優に相當大なる都市を構成する事となるのであつて、15ケ所の區劃整理地區の面積は約4000萬坪、將來の推計人口約100萬に達するのである。

かゝる新興都市の建設に當つて豫め防空的考慮を拂ふことの必要は既存の大都市の防空的改造と共に愈々其の重要性を加へ來つた事はいふ迄もない。從つて昨年來各所に防空都市計畫の議論が具體的となつて來たことは喜ばしい。防空上建物の强化の必要なことはいふ迄もなく、既に防空重要都20ケ所に防空建築規則が適用せられ、近く十數ケ所にも適用を見る運びとなり其の中には新興工業都市も含まれてゐる。これらの都市に於いては既存木造建物も防火的に改修する事業が國庫補助

※筆者は内務技師・第2技術課長

の下に進められてゐるのであるが、此の事業を法的に強制すべしといふ意見は昨年來強く各方面に於て主張せられ　其の線に沿うて進んでゐる譯である。又防空上都市の疎開の必要なるはいふ迄もなく昭和13年度に出來た空地地區の制度は東京、堺、東舞鶴に實施せられ市民の保健の上にも貢獻するであらうことが期待されてゐる。

此の外住居專用地區、工業專用地區が用途地域別の1つとして東京市、名古屋市に實施せらるゝ事となり、地域別の細分化又は純粹化の方向に進んでゐることは見逃せない。又前記新興工業都市の土地區劃整理はいふ迄もなく、都市計畫法13條の區劃整理が最近漸次多くなつてゐるが昨年度に於いては次表に示す如くである。

區劃整理狀況（昭和15年1月～12月10日現在）

	箇所數	地積面積(坪)	%
都市計畫法12條（組合又は1人施行）	84	10,647.975	30%
同　　13條（都市計畫決定）	8	25,578.220	70%
計	92	36,226.195	100%

此の外重大な社會問題となつた住宅問題は今や重要國策として取り上げられ、住宅營團による住宅供給案が立案せらるゝに至つた。

2. 都市計畫最近の動向と國土計畫

以上述べた所によつて都市計畫界は玆數年來に比して新たな展開をなしてゐる事が看取されるであらう。即ち第1は防空の重要性が強く織り込まれてゐる事である。これは綠地の必要性を確認し、之が實現を容易ならしむる法令の公布となり或は都市の防空防火の完成に向つて法令並に事業が實施されつゝあることに見て明瞭であり、時局柄當然であるといはねばならぬ。第2は新に都市建設が防空保健を考慮しつゝ、從來の如き都市の改造に非ざる新建設として擡頭して來たことである。第3は土地區劃整理が、都市の改造たると新建設たるとを問はず都市計畫實現の手段として有力に働いて來たと同時に其の事業が個人又は組合執行に比して、公共團體の執行するものが多きを加へ、益々加速度的ならんとしてゐることであつて、單なる利害關係より離れ其の必要性、公共性を帶びて來た點である。これを都市計畫法市街地建築物法の施行せられたる當初と比較するならば實に隔世の感なきを得ないのである。例へば大正7年都市計畫調査委員會の決定したる都市計畫要綱を見るに單なる都市個體を對照として居たことは明かであり、唯、僅かに都市の社會的經濟的範圍が都市の行政區劃に制約さるべきでないことを特に强調せるは今日より見れば笑止千萬であるが然し當時の一般通念が如何に都市と其の行政區劃との混同を敢てしてゐたかゞ察知せられ、更に行政的觀念が社會的、經濟的機構を無視してゐたかゞ窺はれるのである。此種の事情はよく當時の社會的通念を示してゐるものであつて、見方によつては當時として、よくもかゝる法律が通過したかと思はれぬでもないのであるが、其の實施に當つては果然事々に社會の制肘を受け法律本來の精華を發揮し得なかつた。所謂「實の持ち腐れ」となつたものも數多いのである。さればこそ舊來の市區改正條例は都市の誤謬の訂正であり、都市計畫は更に都市建設をも含むものとして出發し　期待され　又自負してゐたのであつたが、關東大震火災の復興に土地區劃整理を應用し得たものを、誤謬の訂正の最大なるものとして　爾後は都市周邊部の開發と稱しつゝ、常に開發さるべき趨勢に引づられつゝ、漸くに其の職責を糊塗しつゝあつたのである。然るに社會情勢は必然的に長くかゝる運命に委せることは出來なくなつたのであつて、初めて最近に於けるが如き活氣ある生命を吹き込まれざるを得ない趨勢となつたのである。從つて法令改正を其のあらゆる活用に依り新時代に即應すべき用意が必要となつて來たものといへるのである。

然し乍ら果して此のまゝで今日要望せらるゝ都市建設に對處し得るや否やと考ふるにそれは無理であり、別な發足點がなければ遂に枝葉末節に止まり、其の計畫性は到底發揮され得ないのである。用途地域制の如きも防空的に其考察を更むる要あるは勿論である。(註)が、猶此の外に都市各個に付きてのみ考ふる丈けでは最早今日の趨勢に

（註）拙稿新興工業都市建設に關する諸問題（區劃整理第六卷第八號）參照

合はなくなつたのである。日滿支を通じてその東亞新秩序の建設に處するが爲には、內地自體を考ふることが既に耳を掩ふて鈴を盜むの類である。況んや各府縣毎に、各都市別に、自分よがりの計畫を實施しても最早何の意味もないのである。

かゝる考察を進むる時茲に國土計畫の必然性が認めらるゝのである。國土計畫については既に昨年9月24日國土計畫設定要綱が閣議に決定發表されたのであるが、之は要するに東亞共榮圈形成の必然的要求の爲に日滿支を通する綜合的科學的國土計畫を確立し生產力擴充に伴ふ都市の分散配置工業の地方分散、農業生產の計畫化等の諸問題の有機的綜合を圖り、以て高度國防國家態勢の强化を具現せんことを目標として立案されたものであつて既に星野企畫院總裁の談話として發表せられてゐる通りである。

かゝる國土計畫に基き地方計畫法が立案せられてゐるのであつて、之は配分計畫に基く立地計畫である。かくて都市計畫も、この下位計畫として考察されなければならぬが、然し都市自體の內部計畫は飽く迄都市計畫の關する處であることは明かである。茲に都市計畫の範圍が明確にせられたと考へられるのである。都市の改造は今や都市計畫に課せられたる急務であらう。此れを貫ぬく精神は公共性に立脚せる國土の利用たるはいふ迄もない。

3. 國土計畫の實踐についての問題

國土計畫設定要綱は定つた。これが實踐に當つて幾多の考慮が拂はれねばならぬ。私は第1に官廳のセクショナリズムの問題。第2に職員構成の問題。第3に計と決定に關する擔當主務者の問題に付いて、特にその下位計畫たる地方計畫の場合を對照として考へて見度い。

その前に現在の都市計畫が何故最初の意氣込と世人の期待にも拘らず其後退嬰的、迎合的に墮したかを顧つて考へることも無駄ではなからう。その重大な一の原因は各官廳事務が都市計畫の埒外に立ち勝手に處置し行る事にあると思はれる。之の事は國土計畫に於いては大體に於いて起り得ないといへるかも知れないが、地方計畫に於いては相當起り得るのではあるまいか、かゝることは官廳のセクショナリズムの結果であつて、速かに官廳のかゝる弊害を除去すべき新體制が生れねばならぬと思ふのである。第2に計畫內容たる事項の調査計畫及實施は、各廳の所管に從ふといふことになつてゐるのであるが特に立地計畫に於いては地方廳が其の基礎的資料を提供することゝなるであらうと思はれる。かゝる場合各官廳が計畫すると共に直接實施せざる可からずといふ者、內閣に於いて統轄したる計畫者が自ら實施すべしといふ者、內閣に於いて統轄し、且別の統轄せられたる實施者が之を實施すべしといふ者等區々なるが如く聞き及んでゐるのであるが、之は前記の新體制と密接なる關係あるものであり、又從つて人事の交流とも繫がる問題であらうが、從來の都市計畫職員は如何なる役割を果すべきかには未だ多くの議論が費されてゐないかの如くである。都市計畫職員が計畫立案に缺くべからざる構成の一員たるはいふ迄もなく、これなくして綜合計畫はあり得ないであらう。第3に計畫統制は內閣に於いて爲す事ゝなつてゐるが抑も計畫たるや技術的部面を多分に包藏してゐる。かゝる計畫統制すべき擔當主務者は技術者を以て充つるを最も可と信ずる。現在の如き單に技術者の意見を徵して決定するといふが如き官廳組織に於て果して活潑なる立案が望み得るか否か甚だ疑問なきを得ないのである。

都市計畫は國土計畫、地方計畫によつて新たな目標を得て再出發すべき時である。あらゆる場合に防空上の考慮を重視し、特に都市の强化に努めねばならぬ。而も之が實現に當り、新たな體制が生れねばならぬ。これに參畫する者亦當然永き經驗を有する都市計畫技術者であらねばならぬと思ふのである。

學界展望

棚橋諒*

「日本の學界はどんな案配ですか」「建築の方の學問はどうです」と云ふ様なむつかしい質問をして私を途まどひさせる人達が居る。質問は意地の悪い質問であるけれども質問者はおほむね善良な人達である。さあ之に何と答へたらよいか。試驗問題の様にむつかしい。Yes or No でかたづけられないのである。

總括的に云へば我國の學界は大變貧しい。一ばん貧しい部門はやはり基礎等の方であらう。今の日本は研究まで實績主義的であつて、それがすぐに役立つ様な當面の必要のあるものに對しては機構も整ひ資金も流れて行くけれども、一歩純理的なつまり直接な應用を目ざして居ない研究に對しては仲々に、世間も學者の閑仕事の様に思つて物質的にも精神的にも援助をしないのである。たまたま世界人的な學者の業蹟が表面に出て來ると、日本人はオリムピツクの選手が勝つた様に感激するが、それだけに終つてしまふのである。理學の方面にもつと澤山の研究者を育てて行かない限り日本の學問は追ひかけて行く學問に止まつて先に進むことは出來ないのぢやないか。理學の方には研究者が少いばかりではない。現在の日本の狀況はこの數少い研究者を殆ど皆應用學の方へ馳りたてゝ居ると云つて良い。地質學者は石炭や石油を探しに化學者は人造石油にと云つた様に。極僅かの人達——それも環境に惠まれた人は更に僅かである——が純粹理學に打込んでしかも若々しい才能と情熱をすりへらして居る。工學の様な應用學は理學の根の上に茂つて居る枝葉なのだから、理學の進歩がなければ工學の到達出來るところは知れて居るのである。日本の學問の貧しいのは學問を育てゝ行く環境が貧しいのである。理學の研究者のための暖かい席は大學にほんの少數あるばかりである。それが得られなければ、應用學へ行つてしまふか、教師になるか、研究を續けて食ひつめるだけである。文部省が昨年度、文部省としては空前の大きな科學研究費を出したが、それもやはり過半は工學や農學の様な應用學の方へ流れて行つたのである。現狀ではそれも當然なことであつて、理學の方で不足なものは大學教授の研究費よりは寧ろ研究者のための暖い席である。狹い畑にいくら肥料をやつたつて收獲は知れて居る。まだまだ、應用學の方が肥料を吸收する面積が廣いとでも云はうか。新聞を見ると來年度に科學研究費として文部省は3億と云ふ様な要求を出して、時局便乘だと云ふわけで9割以上けづられたと云ふ事が出て居る。時局便乘でない意味での科學研究費が必要であつて、それは、大學の理學の方の乃ち物理、化學、數學の講座數を、少くとも5倍にして、現在の5倍以上の研究者を育てゝ行くことだ。そこから應用學の方の研究者も出て來るだらう。學問は今年種をまいて來年みのりはしない。柿でも八年かゝるのである。私は日本人が科學の方面の研究に携はつて行く素質に關しては少しも疑ひを持つて居ない。しかし殘念乍らこの素質を育てゝ行く環境が整つて居るとはお世辭にも云へないのである。やせた土地で風霜に對する保護をしないではどんなに苗がすぐれて居たところで、美しいばらの花は咲きはしない。現在の日本の研究者だけをどんなに動かしたところでその成果には大てい限界があるのである。次の時代に豊かな成果を上げる様な方策が一ばん大事なことであつて、しかもこの事が一ばんなほざりになつてゐる様に思はれる。

建築の方面の學問では特に工學的な分野をとりあげるならば他の如何なる工學分野に對しても見劣りはしない様である。しかし今は多少學問の進展の様子も行きつまつた狀態にある様に思はれる。それは多くの研究問題がも早この方面の研究者の資質によつて究めつくされるだけ究められて、新しい進展をもつと別の方面から期待しなければならない様な狀況にあるからである。數理、物理の方の研究者に參加して貰はなければならない力學の問題や、化學や實驗物理の研究者の參加

※筆者は京都帝國大學建築學科助教授

を必要として居る建築材料の問題。つまり基礎學の方面に豐富な研究者群があればその中の一部の特殊の資質の人達はこう云ふ應用學の方へと出て來てくれるであらう。そこに新しい進展を期待することが出來るのである。例へば工業大學の建築材料研究所では私の知らない様な色々な重大な研究がなされて居るかも知れないが、この研究所の一ばん大きな仕事の様に思はれるのは、「耐火木材」であつた。しかもそれは今までの建築工學の研究者ではも早「てこ」に合はない問題であつたのである。彈性力學の問題について考へて見れば、九州帝大の坪井善勝氏の様に版に關する有數の研究者も我々の學界にはあるけれども、しかも尙、澤山の問題はも早我々の「てこ」にはあはないのであつて、Resisner や v. Mises の様な研究者を我々の間に期待することは本質的には無理な注文なのである。つまり建築の學問に於いても次の時代の大きい發展に具へるためにはそれをそうあらしむべき機構や組織の刷新が問題になるのであつて、新らしい研究者の出て來ることを期待することが深ければ深いほど、これを育て上げて行く環境のために根本的な省察が必要である。研究は人がもとであつて機構や組織ではないと云ふことは正しい言葉であるが、その人を育てるものはやはり機構である。今の建築の工學的研究部門は一つの前の時代よりもはるかに專門的に分化したので研究者として立つ人々はも早、建築のエンヂニヤとしての資格からは「脫落」することを覺悟しなければならない。そう云ふ人々に對して今の世間には Suspence がないのである。

今までの型の研究者に對しては僅かながらも暖い席を用意した大學すらその教育的性格から、明日の新しい型の研究者にはその門戶を閉すことすら考へ得るのである。

これらの事柄は我々の學問が進歩した段階に達したことを物語るものであるだけに、明日に具へるための今日に於て根本的な刷新を企てねばならない。

株式會社

清水組

本店 東京市京橋區寶町二丁目一番地
電話京橋代表四一八一番・五一八一番

大阪支店 大阪市西區土佐堀通二丁目二番地
電話土佐堀六六三番・(6)六七九一番(3)

支店 札幌・名古屋・京都・福岡・臺北・京城・新京・北京

（第4頁より續く）

この問題は、都市のそれ自體の形態として、又個々の都市建築の問題として考慮されねばならないのである。近代的の都市建築は、餘りにも、抽象的の、觀念的の、『形式のための形式』に走つてゐて、しかも我國にそれが移入された場合は、その形式が一層、我國民生活と緣の遠い、此世に龍宮の現はれたやうな『遊離的』形式となつてゐる。我國の固有の建築に於ける、純粹感覺の洗練性の如きは、今の都市建築に求めることは出來なくなつてゐる。それは洋式から和式への推移で是非もないが、現に和式が洋式に溶解せしめられつゝある過程の基礎條件としてわが國民生活にあるところの日本的の感覺・情操の洗練された、單純にして純粹な表現の本格的性質が認識されねばならぬ。わが國の都市の『日本的』樣式の創意はそこから生れるであらう。（完）

住宅問題展望

新名種夫※

1

住宅問題は時局下社會問題の1つとして、米炭の問題にも劣らない程に深酷化しつつあり、最早一日も自由放任の儘に抛擲して置けない狀態に立到つてゐる。

特に大都市及び重工業殷賑地方に於ける住宅難の狀態には殆んど言語に絶するものがあり、1室を數人づつの2組で交代に間借してゐるとか、大工場附近では戸毎に間借人の居ない家はないとか大都市への轉勤者の殆んど全部が、住宅難の爲に少くとも數箇月を一家離散の形で生活しなければならないとか、その具體的實例は毎舉に暇がない。

東京、大阪、名古屋等に於けるラツシユ・アワーの・殺人的混雜は、1つは交通機關の不整備にも由るものではあるが、今1つは職場附近に於ける住宅難が勞務者を驅つて、不當に遠隔の地に住宅を求むるの餘儀なきに至らしめてゐる證左であるとも見られる。

試に最近4箇年の東京及び大阪に於ける空家數の調査表を引用する。

都市名	年度	人口	世帶數	空家數
東京市	昭和11年	6.085.800人	1.236.500	42.093戸
	昭和12年	6.274.000	1.275.800	34.164
	昭和13年	6.457.600	1.313.400	19.002
	昭和14年	6.581.100	1.339.100	8.384
大阪市	昭和11年	3.101.900人	653.900	18.986
	昭和12年	3.213.000	677.800	18.678
	昭和13年	3.321.200	700.100	18.802
	昭和14年	3.394.200	715.500	6.743

表によれば既に昭和14年度に於て、東京では空家數僅かに8.384戸、大阪で6.743戸といふ數字であるから、恐らく昭和15年の今日では、東京5.000戸、大阪4.000戸以下の空家數であらうと想像せられる。

この結果　家賃は需給の關係から驚くべき暴騰を示し、昭和14年10月發布の地代家賃統制令により、從來の貸家の家賃は一應釘附けにせられたりとは言へ、新築又は新に貸家として提供せられる場合の家賃は正に事變前の2倍以上に達し、外交官が內地へ歸還して俸給の大部分を家賃に支拂はねばならないことになつたとか、月收80圓の家庭が60圓の家に住んでゐるとかの話題が絶えず齎らされるといふ實狀である。

家賃高と住宅難が一つの大きな社會問題であることは勿論、狹い住宅へ多人數の過密生活は更に保健衛生及び保安風紀の上にも憂慮すべき多くの問題を含み、その結果勞務者の能率にも惡影響を及ぼすこと決して少くはないから、時局處理上からも忽に放置することの出來ない問題である。

こうした住宅不足の狀態は、世界の動向とそれに對應する我國策の方向より推察して、時局と共に續くものと見るべきであるが、第1次世界戰爭の際の經驗によれば、住宅難は戰後に於て更に甚だしく、兵士達が戰場から歸還して親許に預けた家族を分離して一家を構へ、又は新しく結婚して新家庭を營むといふことになれば、これには一層拍車がかけられるべく、この意味で現下の住宅難は今後少くとも三國同盟の期間の10年以上は續くものと推定せられるのである。

かくして今日の狀態に於て、1年間に增加せらるべき住宅の所要數量は毎年少くとも30萬戸に達すると稱せられ、その中の3分の1以上が勞務者向住宅に該當すると推定せられてゐる。

尙この外に夥しい青少年獨身工に對する宿舍の設備も目下の急務であつて、この種の施設の促進も家族向住宅の建設に劣らない重要問題である。

2

では以上の如き住宅難の原因は一體何處にあるのであらうか。

言ふ迄もなく1つは住宅需要の激增であり、今

※筆者は同潤會・第2技術課長

1つはその供給の不足である。この2つの原因が事變を契機として相重つて、今日の如く深酷な住宅難となつて現はれたものである。

住宅需要激增の原因と考へられるものは、——

1　農村より殷賑工業地帶への人口の移動集中

2　殷賑工業從業者の中に、收入の增加により間借生活より獨立世帶に轉ずるものが多くなつたこと

等であるが、一方住宅供給不足の原因には、——

1、地價の高騰、從つて住宅敷地の入手難

2　建築資材の不足に伴ふ價格の暴騰とその入手の困難

3　職人の手不足

4　以上の如き諸原因の集積によつて、住宅の新築は極めて困難となり且驚くべき高價につく樣になつた所へ、14年10月發令の家賃抑制があり、民間の住宅經營者が採算上貸家に投資することを手控へてゐること

5　セメント、補强用金物、メタル・ラス、電線、鐵管類等の割當配給制により、個人の居宅の建築が極めて困難な狀態に置かれてゐること

以上の原因の何れを見るも、時局を中心としてそれ等が互に因となり果となつて、益々住宅難を助長してゐるのが現狀である。

3

そこで、問題はこの住宅難緩和の方法であるがこれには2つの方法が考へられる。その1つは上述の住宅難招來の原因を除去又は緩和すべき政策の樹立であり、今1つは技術的に住宅の建築費を低下し、及びその建設を容易ならしめる樣な方法を考究實施するにある。

第1の住宅難緩和の政策は言ふ迄もなく政府に於て研究立案せられるべきものであり、今次の如き深酷な住宅問題はこれなしには絶對に根本的解決は勿論　その緩和すらも覺束ないであらうと考へられる。

住宅難緩和政策としては大別して2つの方法が考へられる。

その1つは人口の局部的集中を防止して　消極的に住宅難の地方的激化を緩和しやうとするもので、——

1.　多數の勞務者を使用する大工場の分散

2.　大都市を中心とする交通機關の整備

等が考へられるが、中でも大工場の分散は住宅問題のみならず防空計畫上からも必要であつて、重要工場の大都市附近への集中が防空上如何に不利益であるかは、獨空軍によるロンドン・テームス河畔の工場地帶爆擊が、英國に致命的な傷手を與へつつある實狀が雄辯にこれを物語つてゐる。

內務省が最近國土計畫上、太田（群馬縣）、相模原（神奈川縣）、四日市（三重縣）、廣（兵庫縣）、周南（山口縣）等、全く原つぱの眞中の全國15の新興工業都市を指定して、これに助成金を交附し、その防空防火設備の助成を企圖しつつあるのは、防空防火上からの政策であると同時に、亦工場の新設が大都市の住宅難激化の一大原因となつた今日までの實狀に鑑みた對應策としても有效適切な方法であると言へる。

交通機關の整備が都心と郊外との距離を短縮することによつて、大都市の住宅區域を擴大し、近郊地の住宅難の緩和に役立つことは理論的には充分可能なことではあるが、建設資材缺乏の今日住宅難緩和の間接的效果のみを目的とする交通機關の增設は、實際問題としては先づ以て期待されそうもない。

次に住宅難緩和の第2の政策は、積極的に住宅の建築を助成し、その供給の圓滑を計る方法である。

1.　住宅の建設經營を事業とする公益法人を設立して住宅の大量供給を行はしめる一方、一般住宅の供給を圓滑ならしめる如き各種の事業をも營ましめる、——戰時住宅對策として政府が今議會にその設立を提案すべく準備中の『住宅營團』は即ちこの政策の具體化であるが、その機能として新聞紙の報ずる所は次の通である。

イ、庶民住宅の建築、貸附、讓受、讓渡及び管理の受託

ロ、庶民住宅の設計、建築、資材取得及び管理の受託

ハ、庶民住宅の敷地の造成、貸附、讓受及び讓渡

ニ、庶民住宅の敷地の造成及び管理の受託

ホ、一團地の庶民住宅經營の場合に於ける水道、瓦斯、電氣、市場、食堂、浴場、

保育所、授産所その他の厚生施設の建設及び經營

ヘ、庶民住宅及び其の敷地の賣買並に貸借の仲介

ト、前各號の業務に附帶する事業

以上の事業を營む爲に必要なる資本金は政府に於て全額出資し、その資本金の10倍以內の住宅債券の發行による資金を以て、5箇年繼續事業として、1戶當り10坪乃至20坪程度の住宅を每年數萬戶宛建設しやうといふのである。

2、民間住宅經營者をして貸家組合を設立せしめ、これに對して政府が建築資金及び資材を斡旋する一方、適正標準家賃の適用と貸家賃貸契約の合理化を計る

3. 住宅組合制度を復活して個人住宅の供給を助成する——住宅組合の制度は旣に久しい以前より實施せられて來たものであるが、その運營の不圓滑とその後の必要性の解消とによつて、最近は組合の新設を許可しなかつたものであるが、更めてこれを復活し、住宅組合に對しても貸家組合と同樣に建築資金のみならず資材の斡旋まで、政府又は『住宅營團』で優先的に行ふこととすれば住宅政策として決して効果の少いものとは言へない。

4. 空家狀態にある家屋の住宅への使用の强制

5. 官公營貸間斡旋所の設立

最後の4.5も彌縫的ではあるが住宅供給圓滑化への一助とはなり得るであらう。

4

扨、最後に住宅問題に關する技術的對策であるがこれを要約すれば次の3項に歸着すると思ふ。

1. 一定の家族構成に對する最小限度住宅標準型の設定（設備の許容最低度をも含めての）

2. 衛生、防火及び防空等の見地に立つ住宅敷地の合理的計畫

3. 建築費、設備費の低減

以上の中1.2は、最近の樣な物價騰貴物資不足の狀態に於ては、放任すれば經濟原則の儘に必然的に惡化する住宅の質及び環境を、技術的良心によつて許さるべき最低限度に踏み止らしめやうとするものであり、3はその限度に於て如何にすれば更に工費を下げ得るかの技術的研究である。

一定の家族構成に對する住宅の最少限の室數又は延坪數といふ樣なものは、劇藥の致死量などの樣に、生理衛生學的には決して導き出されるものではない。そこで建築學會では達觀によつて4人家族（又は乳兒及び兒童の多い5人家族以上）の家族構成に對して、必要室數3室、疊數15疊乃至17疊と假定し、15坪（但6.6尺平方を以て1坪とす）の住宅を、この家族構成に對する最低限度として研究を進めてゐる。

『住宅營團』で取扱ふ住宅の標準型は大體次の樣である。（東京朝日）

甲型　延坪20坪　平家又は2階建（疊數24枚）

乙型　延坪15坪　平家建（疊數18枚）

丙型　延坪10坪　平家建（疊數12枚）

言ふ迄もなくこの大さは住宅の大さの基礎的標準を示すに過ぎないもので、實際には10坪から20餘坪までの範圍に多くのバライエテイーを生じ得るものであるが、實際問題として住宅は家族構成如何によつて選擇せられるよりも、寧ろ家賃の支拂能力によつて決定せられる場合が非常に多いものであるから、政府が低收入多人數の家族に對して家賃を補助する如き政策を行はない限り家族構成と住宅の大さとの間には、實際には技術的達觀通りの相關關係は生じないことになり、家族構成に對する標準型の設定は實際上何等の意義を持たない結果となるのである。

2の衛生、防火及び防空の見地よりする敷地の合理的計畫としては、建物高と睨み合せて、日照の點より建物間の南北の間隔を、防火の點より東西の距離を考慮し、南北の間隔は冬至に於て少くとも日照時間3時間を獲得し、東西は防空建築規則の延燒距離以上離れることを最小限度として考へ、兩者の總合的歸結として、大體敷地面積の70%程度を空地たらしめる樣敷地を割るべきであるが、地代が家賃算定の大きな基礎となる以上、住宅の大さの標準型の場合と同樣、地代に對する政府の强力なる抑制策のない限、こうした技術的結論も經濟的壓力の前には屢々無力となり勝である。

最後に、3の建築費及び設備費の低減に就いては次の如き方法が考へられる。

1. 大量生產を目標とする住宅の規格化

2. 不熟練工に依る現場組立の可能と工期の短

縮とを目的とする住宅構造の簡易化

3. 統制資材に代る代用品の使用、地方産資材の活用

これ等の3つの中1.2は勞力、それも主として木工事の手間の節約に歸するものであり、3は代用品使用に依る材料價格の低下を目標としたものであるが、下表の如く住宅建築費の38%は木材費であり、大工手間は僅に9.1%に過ぎないものであるから.1.2による工費の低減は家賃に影響する程然く大きなものではない。3に至つては正に九牛の一毛である。

名稱	%	名稱	%
假設工事	1.6	屋根工事	9.2
土工事	1.6	錺工事	1.8
.コンクリート工事	1.9	建具工事	14.2
木材	38.0	壘工事	3.5
大工手間	9.1	左官工事	9.2
構造金物	0.9	雜費	9.0

そこで建築費低減に就いて技術上から結論し得ることは、家庭生活の根本を立てなほすことによつて住宅の內容は大改革を行はない限、技術的には工費の大幅な節減は計り得ないと言事である。例へば隣組を單位とする共同炊事や共同洗濯場の設置によつて住宅から臺所と洗濯場とを追ひ出すとか、又持物を整理して物置、押入、戸棚などの面積の減少を計るとかの方法によつて、建物の坪數に斧鉞を加へるほかはないのである。併しこれとても事變前の2.5倍にも騰貴した建築費の前には餘りにも犧牲の大にして効果の薄いことを嘆くに過ぎない。それに就いても考へられることは住宅建築費の38%を占める木材の價格である。果して立木の適正な値段より算定して今日の公定價格は生れたのであらうか。遂に今日の公定價格より逆算される程然く立木といふものは高價なものであらうか。こんな所に案外建築費低下の秘法が殘されてゐるのかも知れない。

又、材料費や勞力費や利潤のほかに、常に投機的な要素を多分に含むでゐる請負制度の上に再檢討を加へることによつて建築費低下の道はないものであらうか。

澎湃たる住宅難の聲に、限定せられたる豫算を以て既定の事業を遂行せんとして、最低度を超える住宅の質の低下を技術者に要求する前に、先づこうした方面は合理化適正化の政治的な道が殘されてゐるのではないであらうか。（これは建築全般の問題であつて、必ずしも住宅に限つたことではないが）

5

以上簡單ながら住宅難の現狀より、その政治的及び技術的緩和方法に就いて述べた積りである。

住宅問題の歷史は相當に古いが、政府がこの問題を重要政策の1つとして取りあげたのは恐らく實は今回が初めてであらう。

從つて政府もここの所全く未經驗であり、政策の核心となるべき『住宅營團』實現後の運營等に就いても、未だ多くの研究題目が殘されてゐる様である。

建築用地及び建築資材の取得、技術及び勞力の確保、工事施工の方法等、取扱ふ住宅の數が大量なるが爲に生じる多くの問題がある。

大工場附近の平坦地は既に何等かに利用し盡されてゐる今日、幾百と續つた集團住宅の用地を平坦地に見出すことは極めて困難なことに相違ない。その上昭和15年10月20日より施行の新しい現代家賃統制令に依り、宅地の賣買價格にも嚴重な統制が加へられたる結果は、恰も物資の價格統制が物の出廻りを鈍らせたと同様、大量の住宅計畫は地主の不賣による用地入手難に於て、先づ第1の困難に逢着することが豫想せられる。

これが對策としては、一團地に於ける住宅の大集團計畫はなるべく都市計畫事業として土地收容法を適用し得ることとし、土地收容法はこれを改正してもつと迅速に計畫地への立入使用等をなし得る様にするといふ案が唱へられてゐるが、實際問題としてそこまで達し得るか否か。

一方資材殊に釘、補强用金物、亞鉛引鐵板等の鐵鋼資材は今後益々窮屈になることが豫想せられるから、技術的には樋、雪除け等の可及的節減方法、補强用金物節約の手段としての木造接手の研究等を行ふと同時に、政治的には住宅建築用資材の少くとも最小限必要量は、生活必需品として物動計畫中に分離確保せられる様政府に要請しなければならない。

技術者及び職人の數を如何にして獲得し得るか

の問題に就いては或は、速成養成機關の設置も必要であらうし、又前述の如く住宅の規格化と組立方法の簡易化によつて、少數の技術者と不熟練工とで工事を進め得る方法を考へると共にフオーマン制等を現場に採用して能率を上げる事を工夫せねばならない。工事施工方法としては各地方別に直屬の施工者を設定し、資材一切の支給に於て工事を行はしめるといふ様な事も考へられる。但この場合、その前提として資材の圓滑なる供給の爲に、製材所住宅用各種材料の製造工場の經營をも併せて考慮し、大倉庫を設けて各種の材料を大量にプールしつゝ必要に應じて迅速に配給し得る様な大仕掛の設備が必要である。

以上は『住宅營團』の大量な住宅供給方法として考慮せられつつある方法であるが、それにしても「營團」によつて建てられる住宅の數は全國必要量の約2割に過ぎず、住宅の大部分は依然として民間の經營に依存するものであるから、民間の住宅建築に對しても政府は前述の方法は勿論、あらゆる手段を以て助成の方法を講じなければ『營團』設立の後も住宅問題は依然日暮れて道遠しの感なきを得ないであらう。だが、それにしても尚最後に殘るものは家賃の問題である。

以上の如き各種の方策が成功すれば住宅建築の數量的助成の目的は或程度達せられるかも知れない。併し物價も勞力も今日の如く高價なる狀態に於ては、上述の如何なる方策も建築費の低減にはそれ程の効果を期待し得ないかも知れない。

家賃算定の基礎の中に用地を考へざる方法、公課、火災保險金の減額の方法等が考慮せられたとしても、建築費が今日の如き狀態にある限り2室10坪の住宅の家賃でも依然普通勞務者の收入の15%（厚生省調査の資料では昭和15年1月～2月現在にて勞務者の支拂へる家賃は全收入の12%前後）を遙に凌駕するであらう。

この點に關し政府が低收入多人數の家族に對して家賃の補助方法を考慮するか、或は住宅國家管理の方向に一歩踏み出すに非ずば、萬一數に於て充足することありとするも、住宅問題は全面的解決の域に達したとは決して言へないと思ふ。

（2600. 12. 10）

各種簡易
防空暗幕
迅速・安價・設計・施工
新案
田中式防空遮光暗幕
工場用遮光・通風・換氣兼用
有限會社
田中商會
大阪市北區堂島船大工町二〇
電話北㊱7186番



建築界と新體制 ハガキ回答

新體制は和にあり

株式會社森本組　森本藤吉

國民精神總動員も翼贊會も宜しい、町內會隣組も宜しい、會社の一元化同業組合も宜しい要は同よりも和にありだ期する處は各國民個人々々の頭の改良である。永い間傳統的個人經濟機構に滲透し來た經濟觀念の放棄である。一口に云へば道義に基く經濟觀念の覺醒であつて互に崖から飛び降りる氣持にならなければならない。然して其根本は和にある翼贊會の町內會の隣組の或は同業組合機構のと色々鐘や太鼓で騷いでも和の一つが缺けて居ては恐らく何もならない。

孔子は和を以て爲貴とす、論語に君子和して同せず小人同して和せず御互に同よりも和を以て慾しい。

大阪府立今宮職工學校　鈴木忠五郎

建築界の新體制を執ると云ふことは、封建的色彩が濃厚なだけ急激な變化は難しいと云ふものが多い。

これは理念の徹底がしないからだと思ふ。自分の職業地位を守るに專らにして、他人の地位を向上を考へないからではないかと思ふ。

明治維新の大名の氣持、德川慶喜公の江戶城の明渡し、駿府謹愼謙讓の國家第一の氣分さへ、持合せられたらと思ふ。

と云ふのは、建築界の新體制は、各下方を見た職工、建材製造者の各工業組合、又は企業合同をなし、統制し、設計關係、官廳を一丸と更に工業組合化された。請負業者を一丸とするものを更に統制化する建築協會を設立し、實際的の力ある經營ある協會により高度國防國家への奉仕を具現したい。一工事の決定は協會にて資材と職工の割當を同時になす。更に徒弟養成所の協會立、之が經營として、請負金額の1%の獻納又は徒弟稅の設置を望む。協同體の進出だ、これなくては百萬の建築從業者の新體制は零だ。報國はそれからだ。

建築界の新體制について

大阪府立西野田職工學校　堀口甚吉

私の理想としては、建築に關係あるすべての機構の一元化を望む。かくして建築に關する立法も又、計劃も、施工も、學術の研究も一つになつた大組織を望むが、これは、實現に時間を要する。

實現可能のもの、新年より直ちに實行できるものを理想の順にならべる。

①建築學會、日本建築協會、臺灣、朝鮮、滿洲等の建築の會、材料業者の會、土建業者の會、建築設備の會、建築史の會等は即時解散して、一つの建築會を組織し、會誌は一つに統合すること。かくして各種の會に關係せるものをすべて、一樣の會員とし會誌を配布すれば、日本建築界の進步目ざましきものがある。會費は1年12圓位にて會誌は現在の建築雜誌の3倍程の量となり、且、地方版も發行し、月2回は發行できる。

②前述のものが、現實に時間を要すれば、我が建築協會として、直ちに實行できる事は「建築と社會」と「建築學研究」の合併である。これは會員大多數の聲である。かくしてよき雜誌(2誌共)たらしめたい。

建築界の新體制に就いて

日本建材協會々長　池田實

1. 新體制に關し巷間傳ふる所の建築界に於ける各種諸會の單なる合同說を排す。

2. 建築界に於ける各種諸會は各自其の本然の使命あり之に向つて邁進すべし但し此等の聯合會又は聯盟は其の必要を確認す。

3. 建築は單獨に(土木と離れて)文化機關及經濟機關の位地を確保するを要す。

4. 建築界の內容は之を大別して、設計部門、施工部門、建材部門、住宅部門、社會部門、教育部門、學術部門、及行政部門の8とす。

5. 少くとも建築局、建築廳又は建築院を獨立せしめて建築行政的に建築界を統轄するを急務とす

6. 都市建築物の防空、防火施設の重點主義を高度化するを要す。

7. 建築法令の科學的繁瑣制限を單純化す。

8. 建築士法を制定し建築法令の運用を簡易化せしむ。

9. 建築施工業者に建築學術的要素を其の資格の第一たらしめ建築物の完成に便す。

10. 建材工業は產業の一獨立部門とし、建材の規格及價格の統制を適正ならしめ、且つ其の改善に資すべき調査研究機關を設置す。

11. 建築材料の增產及配給統制を完備す。

12. 建築學術の國防的研究並に建築教育、建築社會政策及住宅政策の革新完遂を促進す。

（昭和15. 12. 10）

大阪市土木部公園課　元　良　　勳

焦眉の急に迫つた問題でありながらまだ一向具體的に考へて見た事もなく、外國の立法文獻等も見る機會もなく、甚だ不勉强の至りですが、たゞ漠然と建築局とでも云ふやうな强力な統制機關の必要を考へて居ります。その仕事の範圍は、住宅を始めとし學校、市場、工場等直接國民の生活に關係を持つ各部門はもとより、建築行政等も當然含まれるべきでせう。實際の仕事は、設計、工事、材料、各部門を一丸とした會社が出來て、各地方單位に施工すると云つた事になるでせうか。

兵庫縣都市計畫課　內　藤　亮　一

建築に關する行政部門、學術研究部門、教育部門、（社會教育徒弟教育を含む）、設計部門、施工部門、（勞務部門を含む）材料部門、その他の經營部門が、各々その責めに任じ以つて建築報國に邁進するを必要とす。

之が爲には結局現在の各種團體、組合の如きは建築會（假稱）の下に統合し、前記各部門は之に分科附屬して以つて上意下達、下意上達を明確且容易ならしむるべく、政府は之が意向を聽くと共に之に對し、その向ふべき大綱を示し、細部は各部門に於て自主的に奉公の誠を致すの體制、この邊が新體制の骨子となるべきものと思はれます。

以上

中條建築事務所　津　川　俊　夫

1. 滿洲事變以來の國家的非常時狀態が新體制を生んだ重要な原因であり直接の動機ともなつて居ます。しかし吾々はもつと視野を廣くし、新體制の世界史的必然性に注目し、變りつゝある世界のたゞ中に立つ日本の現在の立場と其の將來を考へる必要がありませう。

2. 文化財としての建築の使命をもつともつと考へませう。建築の新體制といへば直ぐ材料配給の圓滑化、物價、勞銀の適正化、取締手續の一元化とのみ結び着けて考へるのは、刻下の事情已むを得ぬ事ながら、少しく近視眼的との譏りを免れますまい。

3 ナチスドイツではすべての文化職業、例へば美術家、音樂家、俳優から田舍廻りの旅藝人、見世物師に至る迄その職業をよく保護し、そして一方に違法をきびしく取締つてゐます。「建築行政」の極意こゝに在りと感じました。

4. 「新國民組織と建築」に就いては「日本建築士」12月號の拙論御一覽下されば幸甚です。

無　名　氏

各方面に於ても多少の犧牲を拂ひつつ目下國內情勢に對應して新しい體制を整へつつある事は御承知の通りであります。

建築が工業であり又藝術である以上文化的な面を多分に持つて居る事は嚴然たる事實でありますが今日之の際斯かる文化的な面は多少或は多大の犧牲を拂つてゞも工業としての面を强化し擴充するため新しい體制を整備する事が最も重要と愚考致します。斯くする事に由つて建築の質的向上を得ば、之れが國家に盡す所以であり又文化面をも向上せしめ得ると考へます。

S　Y　氏

現下の公共建築がすべて國家目的に添ふもののみを計畫をし、實施せられて居るに對して、如何に施工者方面が共に協力する事の些少なのでしようか、强度に統制せられたる用材資材の節約使用に苦心し、無駄贅澤を排除し、只管政治目的達成に勉めても、何れも、請負業者の此に協力さる事の貧しさよ。材料、勞力には公定、協定價格等の處として存在するに請負金額の總和がどうして過

大なるものを追求されるのでしようか、建築界の新體制は先づ此の方面より――。

神戸高工建築科教授　瀧　澤　眞　弓

1. 建築哲學の確立。
2. 特にわが「日本建築協會」について言へば―「關西」といふ鄉土性への再認識。

神戸高工建築科教授　淺　野　　繁

新體制に就いて雜感御答へ申上候。

○

各會員集り易き箇所毎に支部を設け夫々の研究又は社會奉仕（建築の上）の會合を開き、之を本部に統一し、更に他の建築諸團體又は大政翼贊會の如きものに密接なる關係をもたせる事。

○

從來の各種委員會なるものを極力整理する事。

○

評議員會の如きも第一の體制にもとづき右地に設ける事。

警視廳保安部建築課　池　口　　凌

建築技術者の綜合的統一團體を結成し、建築界に於ける職域奉公を爲すため、此の統一團體を以て全建築技術者を統率し得る仕組とする事。

之が爲には現存の各團體を統合或は、發展的解消することも必要である。

會員の資格に相當な制限を設け、且つ、制裁規定をも作り、自主的に技術者の向上を計る。建築工法案（今迄提案された建築事務所本位のものでなく、全技術者を包含するもの）の實現が望ましいが、强力なる單一團體が出來れば、假令法制的根據なくとも其の主旨を或程度遂げ得る。建築經濟、勞務等も必要であるが他を省るより先づ技術者の翼贊體制こそ早急に實現させ度いものである。

株式會社大林組　小　田　島　兵　吉

「建築界の新體制に就いて」のお答。

具體的にどうのこうのと云へませんけれども、こういふ際に、思ひきつて今迄「無駄だとは思つてゐたが行きがかり上止むを得ず認めてゐた」といふ様な事を改革して行くべきではないか、又こういふ際だから、そう云つた事も、やはりいいのではないかと考へられます。しかし時局に便乘するといふ態度は面白くないと思ひます。

津田設計監督事務所主　津　田　　鑿

新體制に應ずるには、舊制の內改むべきは公平に正し、机上の空論に終らざるやう、協力一致、實行に勤めるべく各自の努力を必要とする。

市　浦　　健

先づ建築技術者は、國家に對する職分を自覺して、全技術者を網羅する統合團體を結成して建築技術を以つて報國すべき最善の途を拓くべく外に向つて要請しての總力を發揮すべく內に向つて統率すべきである。

宇賀設計事務所主　宇　賀　一　郎

今日、最早、個々の身邊迷彩に汲々としてゐる時ではありません、老、壯、若總ての建築技術者は、ひとしく內省し、裸身となり、そして明日の文化のために、「日本の建築技術」を組織的に把握するべく、全面的再出發を敢行すべきです。

又新しい時代を背負ふ若き技術者は、今こそ、三々五々、眞摯な集りをもち、お互ひの實力のために、補ひ分かち合つて、來るべき日の「協作」に備へるべきだと考へます。

新しい日本の指導力は一つに之等若き激刺たる人々の强靱なる意力と連繫と實踐から生れるのだと思つてゐます。

兵庫縣建築課　菅　　陸　二

同じく新體制でも夫々の分野に於て社會的要請に依り、又從來の傳統に依つて異つた形態をとるべきは當然であります甲の新體制が斯うだから乙の新體制も斯うなくてはならぬと云ふ氣持は清算すべきものと思ひます、。では國家は現在建築界に何を求め何を期待してゐるでせうか、憶測に依る私見を述べますならば左の諸點ではないかと思ひます。

1. 高度國防國家の建設を急速に達成すべき建築生產力の高度化。
2. 人的並に物的資源の圓滑且適正なる配備配給の建築界內部に於ける自主的統制。

3. 上意下達、下情上通を完全に遂行すべき建築界組織の一元化。
4. より具體的緊急の問題として都市武裝と住宅の建設

福岡縣築建課　荒　木　正　已

一日も早く建築技術家の全國的な一元的な國體を結成する事が急務である。其の意味において先づ建築協會は率先して發展的解消を提唱して建築技術家國體結成の推進力たられんことを希望して已まない。

建築界の新體制に就いて

同潤會建設部第2技術課長　新　名　種　夫

日本國民の一員として建築の仕事に携つてゐるといふ自覺の上に行動する事。

方法論はいろいろあらうが全ての建築家が、この自覺に達した時方向は期せずして一致る筈だ。

立命館日滿工科學校　寺　門　四　志　猪

新體制確立の具體的方針を練る前に、先づ深く考へてみなければならぬ問題の一つに次のものがあらうかと思はれます。それは、建築界全體の科學的水準を高めるために、學者と實際家或は學界と業界とが聯絡を緊密に保つ事です。從來は兎角學者は實際家を輕視し、實際家は學者を敬遠する傾向があるかに見受けられましたが、これでは何時までも研究のための研究や不合理な施工が繰返されて、建築界が新國家に於いて重要な役割を演ずるを得ないで了はないかと恐れられます。このためには、現存の學界業界の諸團體之改廢統合したり或は各團體に聯絡委員會を設けたりする事も考へられますが、同時に官公の研究機關乃至施設を民間に開放する事が、極めて必要なのではないかと考へます。　以上

手段よりも目標を

——「新體制は手段である」——

京大大學院學生　西　山　卯　三

建築界に於ける新體制は二つの側面をもつ。一は國家全般の新體制の實現の、建築の分野に於ける即應、貫徹であり、一は建築界が自己の任務を目覺し、その職分を完遂するために提出すべき新目標の實現のためにとらるべき新體制である。後者を積極とするならば、前者は消極面を表はす。そして我々の論ずる新體制は、後者を主導とするものでなければならぬ。だが今しばらく醒つて考へてみやう。

高度國防國家建設の至上命令は國家全般の新體制を要請する。即ち後者は前者の完遂のための手段である。

問題を建築界に限定してもこれは全く同樣である。即ち建築界の新體制を論ずるものは建築界に於て具現さるべき新段階の目標を把握し、夫が達成のための手段を論ずるものでなければならぬ。

然るに、此の我々が達成せんとする具體的目標を把握する事の不徹底なまゝに、たゞ組織をのみ論ずる事が、如何に問題の混亂を、理論の不透明と行動の停滯とを、生み出してゐる事であらうか。「大同團結」てふが如き內容空疎な提案も亦こゝから生れて來ると見ねばならぬ。

問題は組織よりも目的である。夫々の具體的活動である。その活動の過程にうちたてられねばならぬ組織である。運動の基本目標とその具體的方策とを研鑽する事の少くして組織を論ずるもの〻如何に多いかを我々は反省せねばならぬ。

では何が目標か。

夫は高度國防國家の建設、大東亞共榮圈の確立の實現に對し建築界に要請せらるべき任務の具體的集約である。都市に農村に、職場に住居に、東亞共榮圈の中樞をなすべき我日本民族をつちかふべき鄕土の建設、之が建設の基底たるべき建設戰士の育成と建築科學の確立、或は之に直接參與すべき建築生產の劃期的再編成、等々我々の當面する問題は複雜多面である。

之等の重要問題が國民全般の協力の下に遂行さるべく、之を國民全般の常識たらしめる事がまづ我々の目標でなければならぬ。組織の問題の如きは、かゝる基本目標とその具體的方策の實現の過程に於て問題となるものでなければならぬ。

我々に課せられてゐる當面の問題は、かゝる末節の組織問題ではなくして、まづこの新段階に於て我建築界に課せられた重大なる任務を闡明し、夫を夫々の重要性にしたがつて國家的な問題として宣揚する事でなければならぬ。（15. 12. 15）

岸田日出刀

大政翼賛の趣旨を奉戴して、建築界にも新體制の結成を要望して止みません。

堺市役所土木部技術課　加藤善吉

世論新體制問題に喧々囂々たる裡に、我が建築界は眠れる牛の如くであつたが、建築協會法制委員長池田さんに依つて建築界新體制は喚ばれた、國土計畫に、都市防護に、厚生問題に、藝術を通じての精神涵養に、國防國家建設の第一線に實體的具現を要すべき職域を有つ建築界の新體制整備は緊急にして最重要なりと信ずるが故に吾々は速かに之に向つて邁進せねばならぬと思ふ。

大阪府建築課長　井上新二

この頃の著物の模様を見ると、餘りにも原色がドキツク目立つて調和がない。これを建築界に譬へて見ると、設計家は青、請負者は赤、材料商は黄と、夫々の原色が他の色彩の調和を考へずに目立つてゐる。

これは矢張り夫々の色彩の特長を失はずに而も程良く他の色と調和して、渾然一體の配置となる事が望ましい。これが建築界の新體制か。

建築界の新體制に就いて

株式會社竹中工務店　石川純一郎

新體制なる語は何か物珍らしい一つの流行語のやうに扱はれてゐるのではないかと感ずるのは私獨りの僻目であらうか。新體制とは舊體制世界のあらゆる建築を打毀して、その跡に全く新らしく建築せられる世界でゝもあるかのやうに人々は思つてゐるのであらうか。

しかし歴史的に見て、新體制と雖も亦舊體制のある必然的發展の一つの姿でしかあり得ない。

舊體制、個人主義、經濟主義の時代に於ても、個人の利益は決してそれのみで終るものではなかつた。個人の利益は何等かの形で社界の利益と相通ずるといふ考へと組立とがなかつたとしたら、舊體制秩序も決して暫くなりとも繼續する可能性はなかつたであらう。新體制の大目標たる臣道實踐。これも舊體制下に於て全く揭げられなかつたものであらうか。否嚴然として高く揭げられ來つたものである。

たゞ舊體制下に於て人々は、經濟主義の鹿を追ふに急にして遂に山を見なかつたのみである。地上の百花に眩惑されて大空の星辰を仰ぎ得なかつたのみである。新體制は我々に「山を見よ」「大空を見よ」と命令する。

建築界の新體制に就いても同樣の事が言へる。建築界の新體制は、建築人個々が以上の樣な身構へ、心の新體制を確立する事によつて發足する。

諸々の型式的な機構、組織、制度等はそれからの事である。

建築界の新體制に就いて

株式會社大林組　渡部圭吾

經濟的には、金融資本主義より人間能力主義へ思想的には民主主義（所謂自由主義）から皇道全體主義へ移行しつある時に、世界動亂、特に東亞の戰爭狀態が移行の速度を早めつゝあるのだ。この革新は明治維新のそれよりも重且大の變革である。從つて吾國焦眉の急は國防國家の建設にある。故に建築界にありても、この歴史的事態をはつきりと認識して對策を施さねば、その進路を過つて了ふ事になる。建築界即ち建築關係者のなすべき第一の仕事は、國防建築の研究とその施工能率の增進にある。然して此線に沿はないものは次の機會に讓るべきである。建築研究、建築行政も建築設計施工にも、建築材料も建築勞働、建築教育、も建築文化等の何れの方面もである。現在までの狀勢を見るに建築界綜合、或は建築行政材料の統制等を主として考へられてゐるようで、研究方面の如きも自由に委れてをつて、如上の線に向けられゐるかを疑ふ。最も經濟的方面に關係ある施工能率の增進が眞に考へられてゐるか？。著しく減少し然も能率低下しつゝある建築勞務者の教育、訓練福利等が考へられてゐるか？。眞に疑なきを得ない。須らく是等の點も充分に考へて建築界の新體制を確立せねばならぬと思ふ。

新體制下の建築界

——建築の新體制促進運動を顧みて——

龜井幸次郎*

まへおき

〃日本の建築家と云ふものは、彼1人の場合には他の2人以上の何人をも相手にして、彼の常識の豐さと云ひ或は又彼の知識の深さと云ひ、彼等を充分納得させ又は敬服せしめるところの實力を持つものである。が、然し建築家が2人以上になつて彼等を相手とする場合になると譬へ相手が1人であつたとしても、必ず彼等に指導されるか又は隷屬的位置に立たしめられるものである。〃と云つた様な話しを聞いた事がある。之は正しく日本の建築家の共通に持つ一つの狹量なる性格が互に作用し合つて達した結果なのであつて、殘念なことではあるが、どうする事も出來ない。又或る土曜日の午後であつた、東京の若い所謂革新的氣持に燃えて居る建築家仲間の新體制に關する集ひが催された時であつた。大阪の有名なH及T建築事務所主なるT氏は、次の様な事を云つて居られた。即ち〃我國の建築家と云ふものは、自己の技術上の失敗はひた隱しに隱したがるものである。然し乍ら土木技術家になると、まるでその正反對で、自己の技術上の失敗などは、その原因を恰も誇るかの様に、堂々と發表して居るものである。そしてその失敗を二度繰り返さない爲の有力なる資料となさんとして居る有様は、他から見て居ても洵に美しい限りである。私は土木技術家と仕事の都合で接近する機會が甚だ多いのであるが、技術家としての彼等の氣持が既にさうであるから、彼等の仲間からは實に腹の大きい人物が吐出し得る様な環境にあるかも知れないと思へる程、大人物の多いのには感心せしめられて居る。〃と。之は我國の土木家と建築家の性格を上手に物語つたものであらう。私は最近、殊に東京に新に職場を持つ様になつてから、建築界の新體制促進運動と云ふ會合などに時々出席するの機會が與へられたので、可成多數の建築家の新體制に關する意見を伺ふことが出來たのである。その結果私は之等二者の謂ふ言葉に、必ずしも否定出來ない或るものが存在する様な氣持がしてならなかつた。私は新體制とは如何あるべきであるとか、或は又大政翼贊會の指導理念は斯くあるべきであるとか云つた様な事は少も知らないのではあるが、以上見たり聞いたりした事から歸納して、唯現下の國是に即應する爲には、我が建築界は斯くありたいと云つた如き夢の様な希望を述べて、建築新體制への所感とする次第である。

國家機構の整備と建築界

事變が齎した戰時體制に即應する新社會の機構が、翼贊會の設立と共に、論議の時代を離れて、明日にも實現しさうな氣配が示されたのは、つい昨日の様な氣がする。

世界の現狀維持勢力が甚だ侮り難いものである様に國內機構の革新のみならず、建築界の革新を阻む力も決して馬鹿に出來ないものが存在するのは事實である。

今は大切なる戰爭最中なる故に、まづ焦眉の急に應ずるだけの策を樹て、恒久的の改革はいづれ時局終了後に仕様ではないか、と云つた說は、革新に對して常套的に使用されるところの反對說の一つなのである。之は確に一つの常識的な意見には相違ない。が然し此處で問題となるのは、一體時局終了とは何日までを指すのであるか、或は又それが何を意味するのか一向に明瞭にならないのである。

今度の事變がたゞ一つの臨時的なものにして、それが終れば直ちに世の中が舊に復すると云つたやうな生優しい考へ方の常識をば振り廻すことが出來ないのは、此の事變が未曾有であるばかりでなく、我々は既に此の事變によつて新しい時代に一步踏み出したからである。而も此の新時代は直ちにその進行を將來に向つて開始したのであつて今後は如何しても原狀回復は不可能になつたのである。故に我々の覺悟すべきは、單なる應急施設や、舊來の無修正の社會機構下に於ける應急對策では、此の新しい生活に對應出來なくなつたので

* 筆者は同潤會建設部技師

ある。即ち其處に此の新時代への對應姿勢としての革新的國策樹立の必要がある譯である。而も、我國は既に長期戰を覺悟し、何日終了するか計り知れない事變と直面し乍ら、東亞共榮圈の確立と云ふ、おそろしく長期的な建設事業に着手したのである。故に國內機構の革新は、頗る不確定なるかゝる〝時局終了〟なるものを期待することなく一定の見透を立てゝ着々具體的なものゝ實行に邁進すべきであるは言を俟たざるところである。

國家は今日まで、幾多の波瀾曲折を經て、曲りなりにも商工省を督勵したり又は水電の國營案を實現せしめたり、或は厚生省を設置したりなどして、總動員法と云ふ銘刀の存在に力を得て、統制による社會の新しい秩序の確保に對し、幾多の失敗の連續にも拘らず勇敢に行進を續けて居るのである。私はかゝる意氣込を多とするに吝ではないが、かゝる事變を處理する當路の責任者の大部分が、以上の如き常識的考へ方の故に、ひたすら事變中の國內の摩擦相剋の激化をば回避する事にのみ氣を奪はれ、肝心要の所謂此の機會に非ざれば革新の機會を失ふと云つた様な重要國策問題を次から次へと見逃して居るのである。指導機關としての國家の中樞部が既に斯くの如くであるが故に我が建築界に於ても同様に、今日國是が日本建築界に要請して居る重要問題を次から次へと見逃して居る事實をば切齒扼腕して見送つて居るのみである。而も眼前に推積した建築界の重要課題は互に繩張間の相剋や摩擦の回避のみに様々な考慮や方法論的概念が集中されて居るが故に、是等の課題が一向に國策の土俵に登場して來ず、唯單に「象牙の塔」內で互に理論闘爭に華を咲かせて居るのである。之れは如何にも殘念な事であるが又已むを得ないのかも知れない。今は戰時なればこそ平常時に於て不可能であつた改革すら斷行出來るのであつて、通常では期待し得ぬ國家的大局觀への着眼を各方面へ要請し、以つて大乘的に摩擦を排除すべき方向へ進むのが、事變が與へたところの唯一無二の革新への機會であると思ふのである。が然し事實は、啻に政府のみならず如何なる社會に於ても、革新と現狀維持勢力との對立の故に、事變に對處すべき全體計畫を持つことなしに唯時代に引きづられて、後手に廻つてから已むなく斷片的な對應策を以つて一時を凌がんとして居るのは見逃せない事實である。今や此の故にかへつて不必要な摩擦と浪費とが繰り返されて居る様に考へられて仕方がないのである。

今は、既に臨時が恒久に取つて代り、對戰工作が同時に永續的な新時代への序曲となりつゝあるからには、此の大切なる端緒をば、意味のない氣の弱い、妥協などで失ひたくないと思ふのである。同時に我が建築界も、その機構に於て或は運營に於て當然此の新時代を迎へるべき準備が要求されて來て居ると信ずるのである。

然し乍ら、斯くの如き革新的氣力は、名を成し遂げ地位を獲ち得た社會の上層部に於ける人々が指導的命令權を持つて下部層へ動きかけて居るが故に、えてしてその脆弱性を國民の前に曝露し勝ちなのである。此の事は所詮は政權運用の任に當る政府當局が國民の支援から浮び上がつて居る様に建築界それ自體を指導する所謂大御所なるものが、無數の下級技術者の支援から浮び上がつて居る官僚貴族團であり且つ又彼等は鋭敏なる國民的輿論と呼應し得ざる環境にあることを證據立てゝ居るものであらう。

政府上層指導階級の雇首が一、二交代が行はれやうとも、國民はそれ等とは全く無關係に今事變を中心に力強い擧國的一致團結に向はんとして居るのは事實である。そして此の時代的大潮流は我が建築界にも押し寄せて來て居るのを窺知し得るのである。だが然し之は現下の政府のやり方や方針を積極的に支持すると云ふ信賴からではないのは事實の様である。むしろ之は、國家のかゝる急變に即應すべく出現した國民的愛國心の一齊的發露であるかも知れないのである。が然し建築界に於ては建築技術者の徵用と云ふ型を以つてかゝる潮流の押し寄せて來たのを一般的に知らしめたと看做のが妥當であらう。

今や政府は時流に乘つて、日毎に統制力の强化に邁進しつゝある。然し乍ら之が案外實質的にはその實力が微弱にして、何處かに大きな抜け穴があるかの如くで、所謂國家百年の大計も意味なく曲げざるを得ない實情を此處彼方に於て曝露して居る様な氣がする。之は畢竟するに、外面的形相は具へても、內實に據つて立つべき基底を缺いてゐると云ふ根本的な脆弱性から來るものではないか知らんと思ふのである。かゝる意味に於て、現下

の時局が要求する革新斷行の力を阻むものは、その原因を外に求むべきに非ずしてむしろ內に求むべきであると云へる様な氣がする。殊に建築界の革新を斷行する力を阻む者は、對內的な建築家それ自身である事を深く內省する必要がある様に思へるのである。故に國是を推進さす爲に一般官僚群の獨善的觀念遊戲に等しい「理念」いじりを根本的に改むる必要がある如く、建築界要路にたづさはる重要人物の、國家理念への獨善的常識論をば根本的に改善する必要があるのではあるまいか

建築界の革新と人的資源

東亞共榮圈確立の爲には、統制と共榮圈全體に對する計畫性を持たせる事が、此の事變を乘り切らうとする日本の最も切實なる課題となつて居る様な氣がする。此の事は實際的に我々の生計又は生活上に深刻なる緊迫感を覺えしむるに到つたのは事實である。而も國民は此の時艱を克服して彼岸の目的に向つて涙ぐましきまでの行進を續けて居るのである。國是が要請して居る國策なるものが、只單に國策第一主義と云ふ掛聲ばかりではどうする事も出來ない様に、我が建築界の革新も、所謂時局便乘的な革新の掛聲ばかりでは如何する事も出來ない。即ち建築家殊に下級建築技術家のよつて向ふところの理念と、明確なる計畫性が與へられ且つそれが適確に示唆されねばならないものであるのは言を俟たざるところである。故に建築界の一部少數者のひとり合點や獨善的なものゝ考へ方を上意下達の型をとつて建築界全體に押し付けやうとしても、それは無駄であるのは申すまでもない。

故に問題は、現下の國是と睨み合せて、我が建築界が、それを如何に理解し且つ推進させて行くかに對する指導者なり又は革新論者なりの實際的方法論的指導理念の上に存するのではあるまいか。而して此の爲には、現在の我が建築界が果して切實に此の國家目的の線上に沿ふて居るや否やを徹底的に再檢討さるべきではあるまいか。何故なれば、銃後の實力として國家が國民に要請して居る任務は、我が建築界に對しても、その原理その思想に於て異なる筈がないと信ずるからである。

然るに現實問題としてその實績を顧みるに、「滅私奉公」と云ひ或は「臣道の實踐」と云つても、都會的知識階級より農村の人々の方がその實踐力に於て遙かに冠たるものがある如く、我が建築界に於ても、公益優先の「臣道實踐」に對する實踐力は又は時局認識等は、下部組織としての下級技術者より、上層部の指導階級たる上級技術者に於て遙かに足りないものがある事實を見逃し得ないのである。恰も時局便乘の利口者が、えてして知識階級的政府の指導者達の內に多い様に、自己の意識するとせざるに拘らず、我が建築界の上層指導者階級に存外に此の Opportunist の多いのに驚かされるのである。

一體此の事は我々に何を物語つて居るのであらうか。是れ即ち政府自體が存外現狀維持勢力に引きづられ、眞の革新への斷乎たる決意が缺けて居る様に、建築界を動かし指導すべき建築界の有力なる團體の機構それ自體が、此の新時代に即應する様に革新されてない事を意味するばかりでなく建築界には依然として此の舊體制的な現狀維持の勢力が決定的な實力をば持つて居る事を物語るものであらう。

國家が國民全體を通じて、生活刷新の爲に生活の簡易化を要請し且つ各自相省み相戒めて無駄を省き、見榮を捨てゝ眞摯なる生活樣式樹立を要求したとしても、官僚それ自體の機構が、舊體を脫し得ない、而も時局の要求とは凡そ對蹠的なものを藏して居るものとするならば、國家的な要求が如何に切實なるものであつたにしても、それは徒らに意味なき掛聲ばかりで國民の實生活にはピンと來ないものである様に、建築界新體制への要求が如何に痛切なるものであつたにしても、それを指導すべき實質的有力團體が、舊體依然たるものであつたとするならば、それを組織する下部の全技術者の實生活には、何等ピンと來るものがないのも亦當然であると云へやう。

何事によらず革新の斷行には自ら時機と云ふものがある。而して今日の戰時體制こそは、我國民生活全般への正に革新の機會を與へて居ると思ふのである。即ち現代はあらゆる方面への刷新が、高度國防國家建設と云ふ方向に向つて要請されて居る筈なのである。故に此の際徒らに形式に墮したり或は現狀維持勢力に迎合したりなどして、革新への障碍となるのでなしに、現下の實情——即

ち我々は何故にかくも國家奉公をなし難い機構に制約されて關係して居らねばならないか——を深く堀り下げ、その原因をば徹底的に究明し、眞の革新をし現存する機構を超越して、敢行すべきであるまいか。

此の故に政府自らが、東亞共榮圈確保に對する革新斷行の範を示し以つてかゝる刷新の必要性を國民全體に訴へるべきである様に、建築界の新體制に就ても指導者自らが刷新の具體案をひつ下げて挺身之に邁進し、下部組織全體の注意を喚起する必要があるのではあるまいか。

だが然し、私は此處に於て私の論旨にはたと行詰りを感じるのである。何故なれば、我が建築界に於てかゝる指導者を一體何處に求めるかと云ふ疑問に逢着するからである。

然し乍ら、現狀の機構が現實の要求に即應すべく如何に革新されたとしても、之を運營し且つ實行して行くに相應しい人的資源が出揃ふに非ざれば、〃佛を造つて魂を入れざる〃のそしりは免がれないであらう。此の意味で私が新體制に對して求めて居りますのは、かゝる指導者なのである。建築界のあらゆる革新政策の實行も或は改革の斷行も、之を推進せしめるのは先づ「人」である筈であるからである。そして國家のみならず、高度國防國家建設をめざすあらゆる部門は「內外の政策闡明に的確にしてかつ敏活なる」人材を求めて居るのである。而もかゝる人材は瀧刺にして彈力性に富む青年性を備へた人物なのである。

然し乍ら、東西古今を通じて、國家が眞の危急存亡に直面したとき、所謂權門、門閥、閱歷と云ふものがどれだけ役に立つて居るか史實に問ふてみるがよい。即ち德川幕府三百年を經て、何等なすところがなかつた之等の上層部が、明治の維新と云ふ所謂幕閣の腕きゝだけでは到底支へる事の出來ないと云ふ時代の大波激浪にぶつかつたのである。勿論當時幕府のなかにも、名を成し地位を獲ち得た智惠才覺の勝れたものが居つたに相違ないのである。だが然し、現實の上層部がさうである様に、一つの勇氣を缺き、徒らに右顧左眄しながら現狀維持に汲々たる有樣であつたので、よく國難に處する事が出來なかつたのである。即ち當時の上層部の門閥や權力のいづれもが、外柔內剛の苛烈なる表現に止まり、何ら時代を推進さするところの礎石とはならなかつたのである。ところが注目すべきは、大老中老が額を集めて畫策をめぐらして居てもテコでも動かし得なかつた國策への大暗礁をば、わづか足輕程度の輕輩の士分階級が取つて代るに至つて見事に之を漕ぎ出す事が出來たのである。

我が國が現實に直面して居るかゝる超非常時局に於てかゝる德川の末期に於ける様な笑へない矛盾をば現代の指導者が繰返してないと誰か斷言出來やうか。即ち目下のところでは物的な總動員ばかり宣傳されて居るにも拘らず、革新への人柱としての人的資源の總動員に就ては、此の時艱を乘り切らんとする國家の上層指導階級はあまり無關心と云ふよりむしろ下情に通じなさ過ぎる様に思へる。此處に謂ふ人的資源の總動員と云ふのは、今日の官製翼贊會のそれの如く舊人物の寄せ集めではないのである。即ちもつともつと野の遺賢を起すと云ふことであると同時に更に人材の配置に適正を期せねばならないと云ふことである。

これは我々日本國民の力が此の時艱を剋服するのに、外交に內政に力が足りないと云ふのでは決してないのである。それは曾に我が建築界のみならず、我國全體のあらゆる部門に於て、同様な事が感ぜられるのであるが我が國が今これ程大變な重大時局に直面しながら、その要路要衝がことごとく舊人物によつて塞がれ、少しも新進氣鋭の青年者の登場が許されない機構となつて居るからである。更に又革新的な仕事を推進することの出來ない様に、常に先例に物を言はせ、創造的な新進の活躍し得る舞臺が開かれてないからである。

結び

斯く論じて來る時、果して然らば我が建築界の新體制は如何あるべきか、と云ふ具體的な結論への最後の土壇場に私は追ひ詰められる譯であるが私は此の場合結論だなんて杓子定規式な事を述べ様なんて氣持は持つて居らないのでありまして又新體制だからと云つて急拵へに捏造した新語を羅列する勇氣も更にないのである。唯私が古くからの希望を述べて私の結言に代える譯である。それは、今日までの建築界が無反省に踏襲して來た學閥及卒業年度閥に依存して人材を登用する舊體制的な方法を根底より精算し、それに代つて血と汗によつて學理を實踐した事業歷（又は現場歷）と

（26頁へ續く）

古建築巡禮 ·1·

願泉寺の茶室

岡田孝男*

願泉寺の泰慶堂

大阪は數度の火災に會ひ、市内には古い茶室が殆んど殘つてゐないが、幸に願泉寺の泰慶堂、今宮の十萬堂、一心寺の八窓の席、二葉の豊公の席山田氏邸の義心亭、津村別院の環堵席等があるから順次巡つて見たいと思ふ。

木津の願泉寺は、浪速區鷗町にあり、道順は市電大國町の西の勘助町停留所のすぐ前にあたる。此寺に、伊達政宗の作つた國寶の茶室泰慶堂と書院藏菴堂がある。

願泉寺は寺傳によれば、聖傳院永證を開基とする。永證は小野妹子の八男で、幼名を多嘉丸と云ひ義持と稱した。聖德太子に從ひ、守屋大連征討に功あつて、河内國日下の莊に700代の田を領し、身自からは灘波の海邊に住んだ。推古天皇元年十月、聖德太子が四天王寺を荒陵の地に移されるにあたり諸國から集まつた良材が、義持の屋前に着するもの夥しく、これを荒陵の地に運搬する爲に老鰋の往來する道を辿つて、溝渠を開き、流れに沿ふて、巨材を荒陵の地に運搬した。

此溝を鰋川と呼び、海邊の地を木の津、後に木津村と呼ぶにいたつたそうである。

義持は、薙髪して、太子より永證の號と御自刻の阿彌陀佛立像を賜ひ、一宇を建て無量壽寺の號を賜つた。これが當寺の始めであると傳へられる。永證は身に法衣を着けたが、不出家のまゝ肉食妻帶し、子孫は長く此寺を守るべき由を宣した此の無量壽寺は、現位置の乾の方、木津北島町二丁目字堂面にあたる。

これより數百年間寺史は明かでない。建久2年第21世秀意は延曆寺座古慈鎭和尚が、四天王寺に留錫の時、天台宗に歸し、木津山無量壽院と云つた。享德3年第27世淨教の時本願寺八世蓮如上人に歸し、本願寺の末寺となつた。應仁の亂の時兵火にかかり、堂宇寶物等すべて燒失したが、永正4年現今の地に再建し、舊に復した。

第31世定龍は武勇人に絶し、天正4年織田信長が大軍を以て石山城を攻めるや、定龍は、木津、今宮、勝間、高津の門徒を引率して攝、河、泉、紀の所々に陣を構え奮戰した。此間11年寺は再び兵燹にかかつて燒失したので、慶長2年再建。石山合戰の功により本願寺準如上人から、願の字を贈られ願泉寺と改稱した。（江州堅固の本福寺は本の字を與へられたもので、準如上人は、本願の二字を願泉寺と本福寺に分け與へたと云はれる）これより木津山無量寺院を改めて日下山願泉寺と呼ぶ樣になつた。日下は聖德太子より賜つた日下の莊よりとつたものである。此31世定龍は、武勇だけでなく、豫て、紹鷗、利休と共に茶道を善くし秀吉が大阪に居城を營んでからは、諸候、大夫士の定龍について茶を學ぶものが多く、奥州大守伊達政宗もその一人であつた。元和元年5月大阪夏の陣が終つて豊臣氏滅亡の後、政宗公封地に歸るにあたり、其滯陣中の茅舍、茶室を定龍に贈つた。現今の國寶書院藏菴堂茶室、泰慶堂がこれである。寛永2年正月9日木津村大道町の久安方より出火し、本寺域東側の堂宇は全部燒失したが、幸に前記の書院と茶室は火をまぬがれた。正德千年紀州候、德川綱教、本堂を寄進されたものが、現在の本堂である。

第36世降龍は遊歷の志厚く、次弟昇龍に寺門を讓り、江戸に出でて、出雲の大守松平不昧公に客となり、茶を學び、又公の命によつて千宗守の門に加はり、木津宗詮と稱し、大阪に歸つて、一家をなし、後紀州公に仕へた。先年物故された茶室建築の名手聿齊木津宗泉老の祖父にあたる人である。文政5年紀州治寶公は、本堂屋根葺換、表門、鼓樓等の改築をした。當代經龍師は第41世である。書院は本堂の東南にあたり、上段の間のついた八帖に次間八帖と四帖が續き、疊廊下が着て居る。

上段の床は張壁に墨繪をかき、その左の脇棚は端麗な意匠よりなり、桃山時代の薫が高く。醍醐三寶院書院の棚に匹敵するものである。その左の

※筆者は建築技師・三越住宅設計部

出書院の外部一方の脇抜に山と松林の繪がある。剝落して判り難いが、寺傳では山樂の筆と云つて居る。床の右に武者隱しがある、外開の襖がつき昔時武將の身邊を守る爲に侍臣を隱しておいた所であると云はれ、二條離宮の書院其他にもこの形式は殘つて居る。欄間の上の額に蘐芾堂とあるは本願寺16代文如上人の筆になり、詩經の蘐芾甘棠又は蘐芾其樗より出たものゝ由である。八帖の横向きの床の間も張壁に山水の墨繪がある。上段の床の繪と共に狩野山樂の筆であつたが、正德補修の時に狩野如川が畫き改めたと傳えられる。その床脇に地袋があり臺目疊に向切りの爐が構えられて居るのは珍らしいやり方である。しかし上段の間のついた室に爐を切ると云ふのも變なもので、他との調和がとれないから、恐らく後世修理の際に、次の間であるべき鎖の間の一部が書院の方へ取り込まれたものと思はれる。普通には書院の主座敷の裏にあたる所に鎖の間と云つて、大爐を切り、常に釜をかけて、茶坊頭が詰めて居る室がある。これが主な室に合併されたものらしく或は正德年間に模樣替されたものであるかも知れない。武者隱の窓の外が庭になつて居るのも受けとれない。これも此場所に三帖又は六帖の武者溜りの室があつたものと推される。四帖の室は原叟の間と云ひ石叟が、京都より紀州侯のところへ往來する時に何時も、この室で宿泊したと傳えられる。柱はすべて杉面皮で、長押がつき釘隱金物が打つてある。面皮柱の書院も類が少ないであらう。

庭園は相阿彌の作と傳えられ、後世大部分改惡されて居るが、石組に古い式の殘つた所がある。正面の築山の上に登れば遠く大阪灣の白帆を眺めることが出來たそうだが、今は市街地のまん中になり、殺風景なことである。

茶室は三帖臺目で、床の間は東面し、その右に給仕口が袴腰形にあき、片開の太鼓襖が釣込まれる。床の間の左には墨蹟窓があき、その左に中連窓が續き、躙り口がついて居る。東側には網代戸片引の貴人口があり、庭から緣側にあがり、貴人口に行く樣になつて居る。

點前疊の向ふの爐先窓、中柱、二重棚など、定石的な中にも、豐かな作意を感じられる。天井は葭の平天井に竹の竿緣で、一部掛込天井となり、なほ點前疊の上は椰子の葉を葺いた一段高い天井となつて居るのは異例である。

茶道口から出たところは、拔の間で、袖壁がL字形にあり、茶室から水屋が見えない樣にしてあり、又給仕口より出たところの拔の間とは壁で仕切つて、茶室と水屋との取合せが巧みに奥床しくしてある。爐先室の外は狹い露地を距て、蘐芾堂の床裏に對し、躙り口より出たところは、庇の外に狹い庭があり蹲踞と燈籠と1・2本の立樹がある。

此茶室の樣な床の間と點前疊及爐の取り方では正客の坐る場所が二樣ある。茶室の中の行事は萬事正客を主とするもので、他の客はその相伴と云ふ事になるから、客と亭主との話のやり取りも專ら正客を通じてなされる。

そこで正客の坐る位置如何によつて、行事の進行にも大きな關係がある。或る流儀例へば千家表流では床前正客を固守して居て、床の前に正客が位置し、次客3客は順次床の間より遠く位置して坐るのである。この坐り方では、正客よりは點茶する亭主の後姿が見えるだけで、話を仕樣にも興を殺がれる事が多い。そこで他の流義、例へば千家裏流では、爐付正客を主張し、爐に最も近く正客が坐り、次客3客は、床の間へ順次近づいて坐る。丁度坐り方は前と正反對である。かくすれば正客は、點茶する亭主と向ひ合ひとなり、話もし易く、一座が和やかな氣分になり易い。此茶室の樣な下坐床の室では裏流の坐り方が合理的の樣に思ふ。然しここに後見と云ふ事があり、亭主以外の者（例へば娘とか若年の者）が點茶をして亭主は後見となつて室に列し、正客との話は亭主が受持つと云ふ樣な場合は、後見たる亭主は給仕口を入つた所に坐り、色々の世話をするから其時は、床前正客の方が都合がよい。此茶室を伊達政宗が好んだとすれば政宗は他の者をして點茶せしめ、自身は後見となつて客を接待するのに都合よく作つたものと思はれる。水無瀨神宮にある後水尾院好みの燈心亭も、この茶室と同じ作り方であるが、後水尾院と云ひ政宗と云ひ、高貴の方の佗茶に、このプランの好みがあるのは興味のある事である。

東京帝室博物館內にある金森宗和好みの六窓庵もこのプランの取り方で、又新しいものでは、八幡の閑雲軒は四帖臺目ではあるが、この手法を爲したものと思はれる。

この茶室は木津宗泉老がその緣により、修理されたこともあり、詳細な寸法もとられたものがあるから、筆者の調べたものと照し合せて、次に記入しておく。

㈠天井、高さ6尺、よしず、竿縁丸竹徑6分、廻縁杉磨丸太。
掛込天井、無目杉磨丸太徑2寸、棰杉磨丸太徑1寸、木舞杉見付7分見込6分軒桁杉磨丸太見附2寸2分。
點分疊上の天井、椰子の葉、高さ6尺3寸4分（平天井より高きは異例也）。

㈡茶道口、内法高さ5尺2寸6分、巾2尺。給仕口、内法高さ3尺6寸3分、巾1尺8寸7分。
貴人口、内法高さ5尺2分5厘、巾2尺、方立及鴨居見付9分5厘。戸は網代戸框見付7分5厘、桟6分、にじり口、内法高さ2尺2寸1分、巾2尺1分、方立9分。

㈢床柱赤松磨徑3寸。落掛内法4尺8寸5分。落掛杉1寸×2寸3分下端面皮付。床塗框 2寸6分×1寸4分。床の間天井鏡天井高さ6尺6寸5分。
床疊巾2尺3寸8分5厘。柱釘落掛より1尺3寸5分下り。床中釘高さ3尺4寸5分。床の間壁塗り廻し。

㈣中柱、チサの木徑1寸8分。二重釣棚、上棚巾1尺3寸6分、奥行9寸9分、ハシバミ見付5分、釣竹徑4分5厘。下棚、巾9寸3分奥行8寸7分、ハシバミ見付5分、釣子4分5厘角。

㈤爐先窓、巾1尺1寸3分、高さ1尺4寸。同障子巾1尺3寸1分、高さ1尺6寸竪框及上下框見付4分、桟1分5厘。
中連窓敷居鴨居見付9分。同窓障子框見付5分、桟1分5厘。
床の間下地窓、高さ3尺1寸8分、内法高さ1尺3寸8分、巾1尺1寸3分。同掛障子、巾1尺2寸7分高さ1尺5寸2分、框見付4分、桟2分。

（23頁より續く）
云つたものを高く評價し得る體制にすることこそは、必要なる人的資源確保に對し、現下の時局が建築界全體に要請して居る新體制への根本的手段方法でなければならないと信じて居るのである。

斯くしてこそ、現場員の不足を嘆じたり、或は又貴重なるフオアマンが猫も杓子も青テーブル的地位を要望したりして解りもしない西洋理論による建築學を振りかざして得々として居る現實の技師を夢見なくとも、そこに「歡喜力行」の實踐があり、同時に技術家としての喜びも味へる筈なのである。（勿論其處には、現下の請負制度を如何するかとか或は自由競爭的な設計事務所は如何なければならないとか云つた類ひの問題は多々ある。が此處では之等を一括して支葉末節的な細部問題として他の機會にゆづつてゆつくり論じたいと思つて居る）、何故なれば現代の日本が求めて居るのは所謂老大家であるより、將來のある青年だからである。

如何なる刷新も、如何なる新しき經濟も或は大政を翼贊し得る人物もさては興亞の人柱として活動したり、或は我國獨特なる政治手段を以つて外交に内政に新生命を與へるに必要なる人的資源は次の時代を擔ふ青年である筈である。即ち革新の氣に燃えた現代日本の青年こそは、時艱を克服し得る此の東亞共榮圈建設が求めて居る人的資源なのである。そして、將來の建築界はかゝる青年の實勢力を持つて、建築界50年史がその記錄に殘さうとして殘し得なかつた、所謂レフアレンス・ブツク（參考書）的又はポケツトブツク的建築技術者の社會的ポスト、更に換言すれば他の部門の隷屬的技術サーヴスマンの故に國力發揚への道が阻まれて居つた（吉田博士の言葉を借りるならば、土俵に登らないで獨り相撲を取つて居つた建築界）諦迷混亂の建築界をば、一段と飛躍させ、教室も現場もさては設計室も共に手をつなぎ相助け合つて、高度國防國家建設に對し、我が建築界の總力を高度に發揚し得るの體制を齎されん事を、私は希望するのである。つまりお座敷のかゝつて來るのを待つて居る樣な舊體制的な建築家根性を根底から清算し、更に積極的に國策に參劃し得る道を、現代の青年建築家は開拓せねばならない。之れ即ち次の日本建築界50年史が現代の青年建築家に求めて居る重大な課題の一つではあるまいか。

（15. 12. 15）

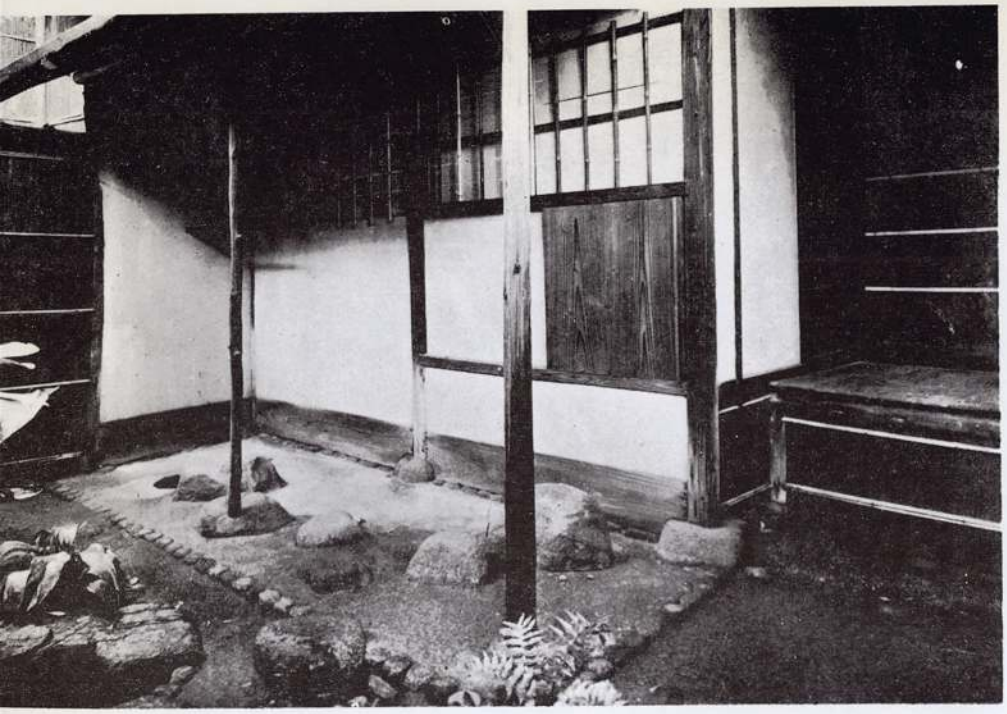


古建築禮巡 •1• 願泉寺の茶室

岡田孝男

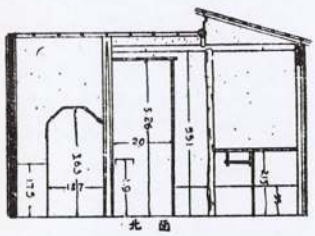
1. 蘐芾堂

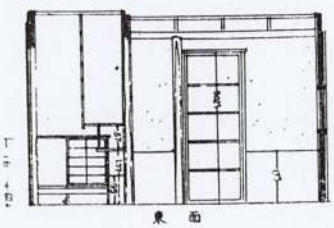
四帖の上段の間のついた八帖臺目の室で、政宗の居室である。床の間の左の袋棚及違ひ棚は端麗な意匠からなり桃山式の特長がよく表はれて居る。床の間の右の房の下つた兩開の襖は武者隱しで、警護の武者が隱され、萬一の時には飛び出すと云ふ施設である。その右に横向の床の間があり、更に地袋のある臺目疊が續く。こゝには向切の爐が構えられて珍らしい趣向である。或人はこれを激賞して居る様であるが、考へて見ると書院に爐が切られると云ふのもあり得ないし、又上段の間との調和もよくない。恐らく修理の際に鎖の間が無くなり、それをこの室に合併して、こんな苦しいやり方に興を覺えたのであらう。



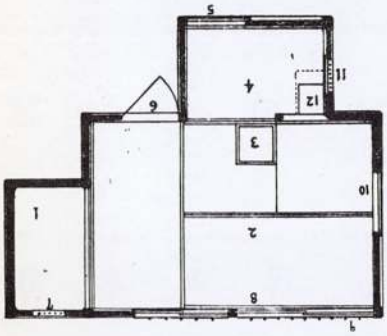
②、茶室泰慶堂外部

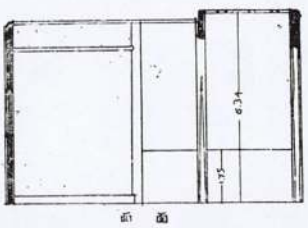
深い庇の外はすぐ塀で、狭い露地である。蹲踞、鹿穴刀掛、躙り口など形の如くつけ、なほ右側の椽からは網代片引戸の貴人口へ行く様になつて居る。





入口内法高さ 5尺2寸5厘. 巾2尺. 方立見付9分5厘. 鴨居見付9分5厘.
入口戸親代竪桟見付 7分 5厘. 上框見付1寸2分. 下框見付8分. 桟見付6分. 窓障子巾1尺3寸1分. 同竪框見付4分上下框見付4分. 桟見付1分5厘.
上棚巾1尺3寸6分. 奥行9寸9分. ハシバミ見付5分. 釣竹徑4分5厘. 下棚巾9寸3分.
奥行8寸7分. ハンバミ見付5分. 釣子4分5厘角. 下地窓巾1尺1寸3分. 高1尺4寸





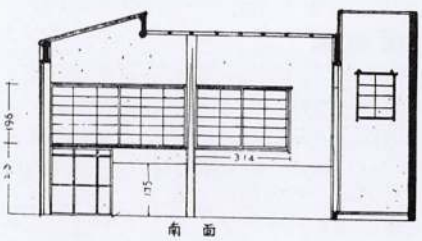
床の間壁塗り廻し. 落掛内法4尺8寸5分. 落掛見付1寸. 見込2寸3分杉. 下端面皮付
床框見付2寸6分5厘. 見込1寸4分.
床の間天井高さ6尺6寸5分. 鏡天井.
床畳巾2尺3寸8分5厘.
柱釘尺3寸5分下り. 床中釘高さ3尺4寸5分. 床柱赤松磨き徑3寸.

平面圖說明

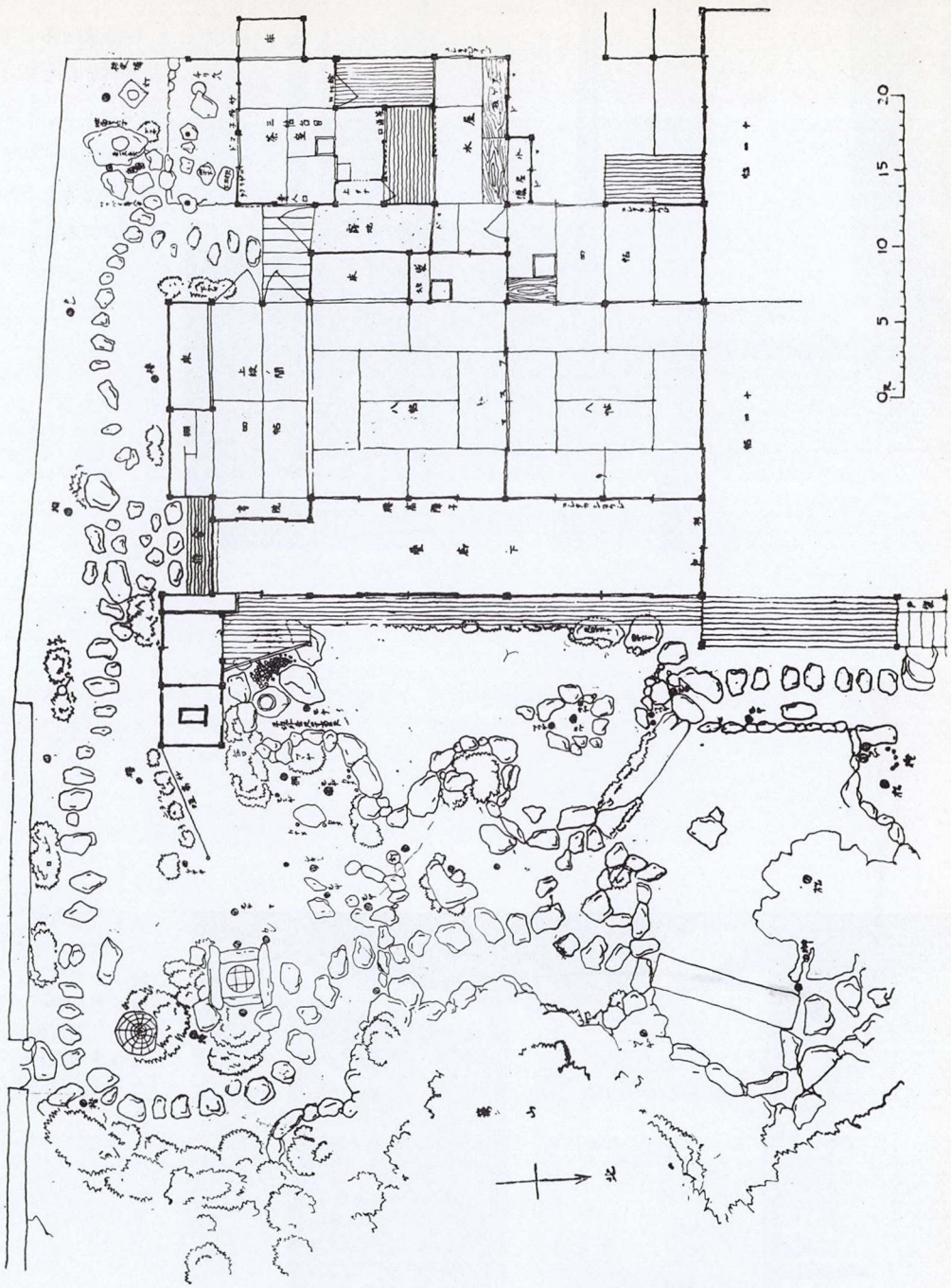
1. 床の間　2. 三帖臺目の席　3. 爐　4. 點前疊　5. 茶道口　6. 給仕口　7. 墨蹟窓　8. 中連窓　9. にぢり口　10. 貴人口　11. 爐先窓　12. 二重釣瓶

↑ 北側壁面

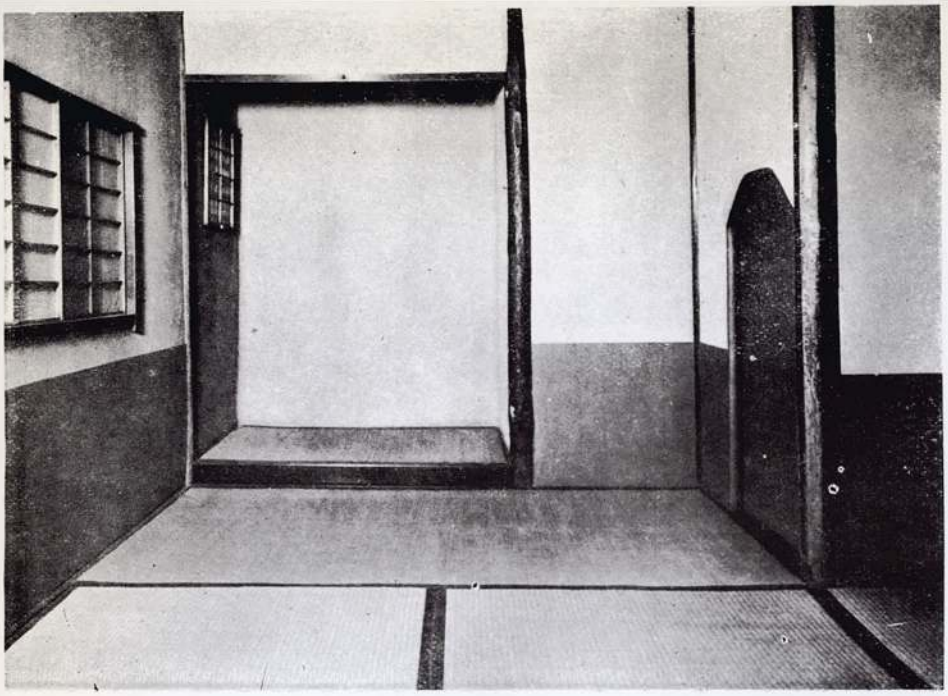
無目杉磨き丸太見付2寸. 樫木杉磨き丸太徑1寸
水摺見付7分. 見込6分.
蹴桁杉磨き丸太見付 2寸2分. 茶道口内法高さ5尺2寸6分. 巾2尺.
天井高さ6尺よしず. 垣椽杉磨き丸太見付. 竿椽丸竹徑6分.



窓高さ2尺3寸. 内法1尺9寸6分. 窓敷居鴨居見付9分. にぢり口巾内法2尺1分. 柱見込9分.
窓障子竪框見付5分. 上框見付2分 下框見付3分5厘. 桟見付1分5厘.
床の間下地窓高さ 3尺1寸8分. 同窓内法高さ 1尺3寸8分. 巾1尺1寸3分.
掛ケ障子巾1尺2寸7分. 高さ1尺5寸2分. 竪框. 上下框見付4分. 桟見付2分

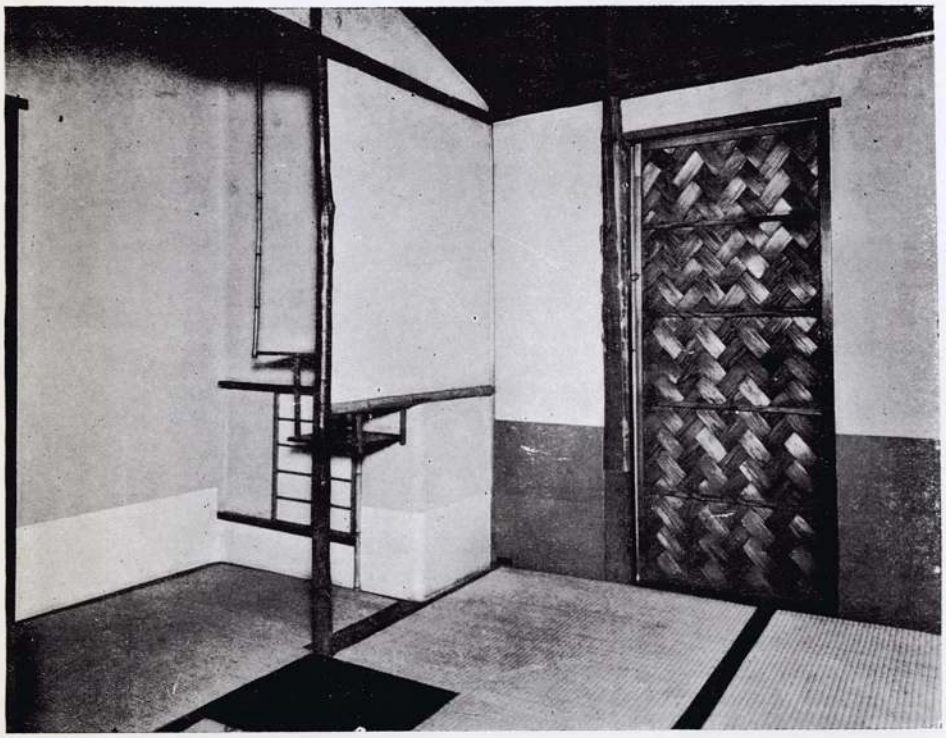


願泉寺・泰慶堂平面圖　(縮尺1:200)



③茶室内部

床柱は赤松皮附、落掛は杉下端面付、床框は黒塗床の間内部は壁塗り廻しで右に見えるが袴腰形の給仕口である。



④茶室内部

右の網代戸は貴人口、中柱はチサの木、二重棚、爐先窓等形の如くついて居る。點前疊の上の天井は普通と反對に一段高くなり椰子の葉で作つてある。

無筋コンクリート造建物設計例
（第 2 報）

災害強度委員會

（C）工場倉庫設計例
構造強度計算書抜萃

第 1 節 準備計算

1. 假定荷重

イ）屋根荷重

積雪荷重 25kg/m²
石綿スレート 25 〃
母屋 5 〃
小屋組 15 〃

即ち 55kg/m² 母屋ニ對シテ
70kg/m² 小屋組ニ對シテ

ロ）貳階床荷重

荷重	床板	根太及小梁	大梁	柱	地震荷重
積載荷重	500kg/m²	500 〃	500 〃	500 〃	500 〃
固定荷重	8.5 〃	21 〃	36 〃	40 〃	40 〃
總荷重	509 〃	521 〃	536 〃	540 〃	540 〃

ハ）無筋コンクリート造外壁及內壁重量

各階30cm壁厚（控壁ヲ含ミ）720kg/m²

2. 構造材の强度

イ）日本松

應壓力度 80kg/cm²
應張力度 90 〃
應曲力度 90 〃
應剪力度 9 〃

ロ）コンクリート

應壓力度 45kg/cm²
應張力度 $\frac{45\times3}{36}=3.7$kg/cm²
應曲力度 3.7 〃
應剪力度 4.5 〃

3. 震度

K=0.1

4. 杭ノ安全耐力

末口 15cm 長サ 5.4cm 安全耐力 5t/pile

5. 屋根及貳階床伏圖並ニ斷面圖（2 及 3 頁に在り）

6. 母屋ノ計算

使用部材斷面 6cm×11cm
スパン 2.727m スペーシング 0.83m

イ）鉛直荷重

$W=55\times0.83\times2.727=124.5$kg

$M=\frac{1}{8}Wl=4260$kg.cm

$Mxl=M\cos\theta=3960$kg.cm

$Myl=M\sin\theta=1590$kg.cm

4 寸勾配 $\begin{cases}\theta=21.^\circ53'\\ \sin\theta=0.373\\ \cos\theta=0.928\end{cases}$

ロ）風壓荷重

$p=-30.6$kg/m²

$P=-30.6\times0.83\times2.727=-69.3$kg

$Mx^2=\frac{1}{8}\times-69.3\times2.727=-2290$kg.cm

$\Sigma M_x = 3960 - 2290 = -1670^{kgcm}$ ＜鉛直荷重ノミノ場合

$\Sigma M_y = 1590^{kgcm}$

$$S_x = \frac{1}{6} \times 6 \times 11^2 = 121^{cm^3}$$

$$S_y = \frac{1}{6} \times 11 \times 6^2 = 66^{cm^3}$$

$$\left.\begin{aligned} f_x &= \frac{3960}{121} = 32.8 \\ f_y &= \frac{1590}{66} = 24.2 \end{aligned}\right\} f_{max} = 57.\ kg/cm^2 < 90/kgcm$$

$\therefore$ Safe

7. 貳階床根太ノ計算

使用部材斷面　9cm×14cm

スパン　2.7m　　スペーシング　0.36m

$$W = 521 \times 0.36 \times 2.7 = 505^{kg}$$

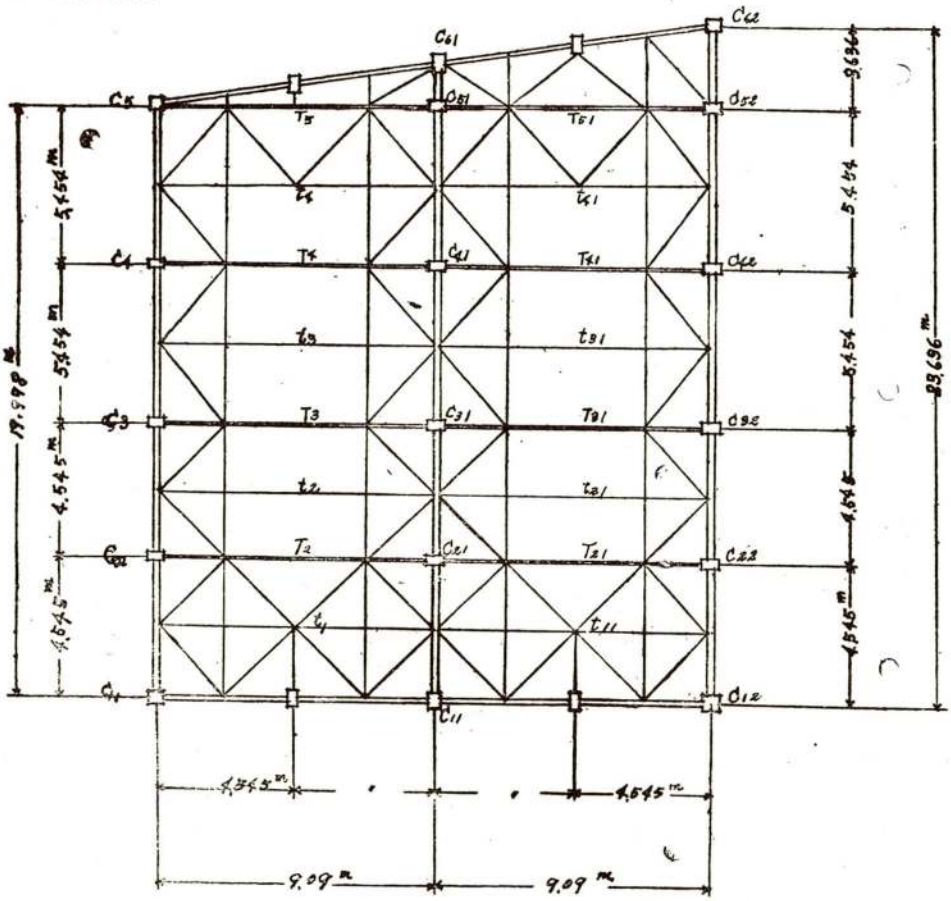
$$M = \frac{1}{8} Wl = 17000^{kg.cm}$$

$$必要ナ S = \frac{M}{90} = \frac{17000}{90} = 189^{cm^3}$$

$$S = \frac{1}{6} \times 9 \times 14^2 = 294^{cm^3} > 189^{cm^3}$$

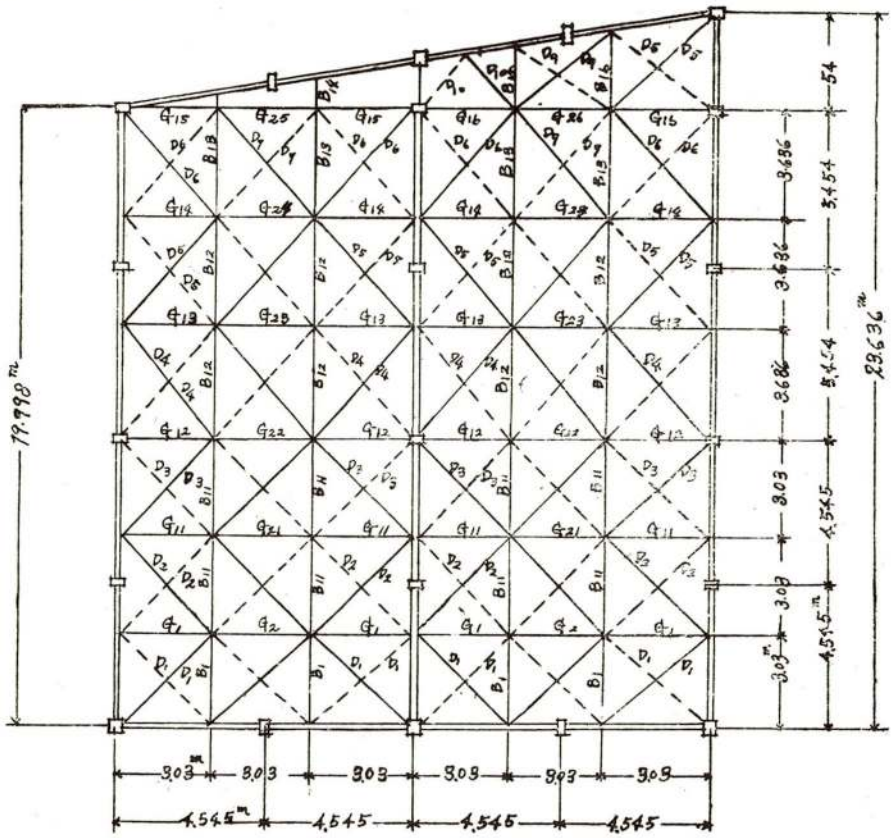
抵抗モーメント＝90×294＝26500kg.cm

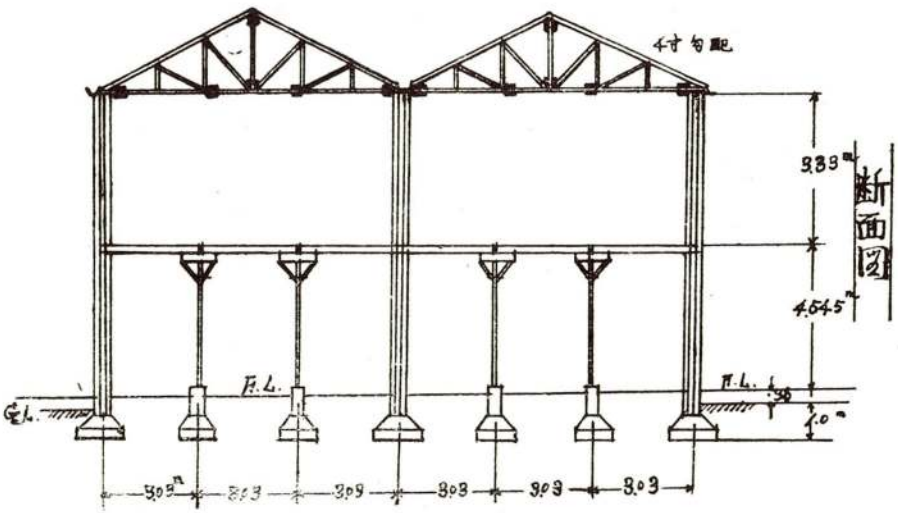
第1圖小屋伏圖



小屋伏図

第2圖 2階床伏圖





第3圖 斷 面 圖

第2節　小屋組ノ計算

1. 風壓荷重 (fig. 1 參照)

$\theta = 21^{\circ}\,53'$　4寸勾配

風壓係數　風上　$C=-0.28$

風下　$C=-0.4$

$p=c\cdot q$　$q=\frac{\rho v^2}{2}$　$\rho=\frac{1}{8}\,\mathrm{kg\,sec^2/m^4}$　$V=35\mathrm{m/sec}$ トス

$\therefore\ q=76.5\ \mathrm{kg/m^2}$

風上　$p=-0.28\times76.5=-21.42\mathrm{kg/m^2}$

風下　$p=-0.4\times76.5=-30.6$　〃

$p_1=-21.42\times2.727\times1.632\times\frac{1}{2}=-47.59\mathrm{kg}$

$p_2=2p_1=-95.1\mathrm{kg}$

$p_1'=-30.6\times2.727\times1.632\times\frac{1}{2}=-68\mathrm{kg}$

$p_2'=2p_1'=-136\mathrm{kg}$

stress　1cm=200 kg トスレバ

$p_1=0.238\mathrm{cm}$　$p_1=0.34\mathrm{cm}$　$p_2=0.475\mathrm{cm}$　$p_2'=0.68\mathrm{cm}$

2. 鉛直荷重 (fig. 1 參照)

$W_1=70\times2.727\times1.632\times\frac{1}{2}=130\mathrm{kg}$

$W_2=2W_1=260\mathrm{kg}$

3. 別圖 (fig. 1) ニ依リ下表ヲ得ル

部材	鉛直荷重	風壓荷重	最大應力	使用部材ノ寸法	摘要
$A-\frac{1}{2}$	−1640kg	+640kg	−1640	12cm×24cm	水平材
A−4	−1340	+500	−1340	〃　〃	〃
A−4′	−1340	+540	−1340	〃　〃	〃
$A-\frac{2'}{1'}$	−1640	+710	−1640	〃　〃	〃
C−1	+1750	−720	+1750	〃　〃	上弦斜材
D−3	+1400	−620	+1400	〃　〃	〃
E−5	+1060	−500	+1060	〃　〃	〃
E′−5′	+1060	−500	+1060	〃　〃	〃
D′−3′	+1400	−630	+1400	〃　〃	〃
C′−1′	+1750	−750	+1750	〃　〃	〃
1−2	0	0	0	12cm×12cm	鉛直材
2−3	+340	−150	+340	〃　〃	斜材
3−4	−120	+40	−120	〃　〃	鉛直材
4−5	+480	−180	+480	〃　〃	斜材
5−5′	−570	+260	−570	〃　〃	鉛直材
5′−4′	+480	−230	+480	〃　〃	斜材
4′−3′	−120	+50	−120	〃　〃	鉛直材
3′−2′	+340	−170	+340	〃　〃	斜材
2′−1′	0	0	0	〃　〃	鉛直材

4. 部材斷面ノ決定

上弦斜材　(C−1) +1750kg

母屋ニ依ル曲ゲモーメント

$M_1=\frac{1}{4}\times124.5\times163.2=5100\mathrm{kgcm}$　鉛直荷重

$M_2=\frac{1}{4}\times-69.3\times163.2=-2830$　〃　風壓荷重

∴鉛直荷重ニ依ルモーメントノミヲ採ル

$$S=\frac{1}{6}\times 12\times 24^2=1150\text{cm}^3$$

$$l/d=\frac{163.2}{12}=13.6$$

$$f_1=\frac{1750}{12\times 24}\left(1-\frac{1}{50}13.6\right)=8.3\ \text{kg/cm}^2$$

$$f_2=\frac{5100}{1150}=4.43\quad\text{〃}$$

$f_{max}=12.73\ \text{kg/cm}^2<90\text{kg/cm}^2$

$\therefore$ Safe

第3節 地震ノ計算

1. 建物ノ重量及地震横力

屋根面積　$18.18\times\frac{1}{2}(19.998+23.636)=396\text{m}^2$　$70\times 396=27.600\text{kg}$

外壁及内壁ノ面積

$\frac{1}{2}\times 3.33\times(19.998+21.816+23.636+18.18+18.54)=170\text{m}^2$　$720\times 170=122,000\text{kg}$

$W_2=149,600\text{kg}$

貳階床面積　396m^2　$540\times 396=214,000\text{kg}$

外壁及内壁ノ面積$\frac{1}{2}(3.33+4.545)\times 102.17=402\text{m}^2$　$720\times 402=290,000$〃

$W_1=504,000\text{kg}$

階	W (kg)	ΣW(kg)	ΣF=0.1×ΣW(kg)
2 階	149,600	149,600	14,960
1 階	504,000	153,600	65,360

2. 地震横力ヲ壁ニ傳ヘル水平トラス

イ）小屋下弦材面ニ對スルモノ（方向←→）fig. 2 參照

(a) トラスノ受クル總横力

$$\Sigma F=\frac{1}{4}\times 14,960=3,750\text{kg}\quad\text{即}\quad F=\frac{\Sigma F}{23.636}=158\ \text{kg/m}$$

$$p_1=158\times 2.2725\times\frac{1}{2}=180\text{kg}$$

$$p_2=2p_1=360\text{kg}$$

$$p_3=158\times\frac{1}{2}(2.2725+2.727)=395\text{kg}$$

$$p_4=158\times 2.727=433\text{kg}$$

$$p_5=158\times\frac{1}{2}(2.727+3.636)=506\text{kg}$$

$$p_6=158\times\frac{1}{2}\times 3.636=288\text{kg}$$

(b) 別圖 (fig. 2) ニ依リ下表ヲ得ル

部材	鉛直荷重	地震横力	最大應力	使用部材ノ寸法	摘要
C−1′2′	——	——	——	2−15cm×9cm	外弦材
D−3 D−4 / D′−4′	——	+2800 / +2400	+2800	〃 〃	〃
F−6 / E′−6′	——	+4300 / 〃	+4300	〃 〃	〃
6−7 / F′−7′	——	+4300 / 〃	+4300	〃 〃	〃
A−2 / A−3′	——	−1500 / −2400	−2400	2−15cm×9cm	内弦材
A−5 / A−5′	——	−3700 / −3500	−3700	〃 〃	〃
A−8	——	−4500	−4500	〃 〃	〃
1−2 2−3 / 2′−3′	——	+2300 / +2900	+2900	21cm×12cm	斜材
4−5 / 4′−5′	——	+1350 / +1600	+1600	〃 〃	〃
5−6 / 5′−6′	——	− 900 / − 900	−900	〃 〃	〃

7−8 7′−8′	——	+ 300 + 300	+300	〃 〃	〃
3−4 3′−4′	−2370	+ 360 − 506	−2876	トラス下弦棄用	鉛直材
6−7 6′−7′	−2370	+ 395	−2370	〃 〃	〃

(c) **部材斷面ノ決定** (梁取合ヒ詳細圖參照)

弦材 (A−8) ±4500kg

$A=2\times15\times9=270\text{cm}^2$

$l/d=\frac{2727}{15}=18.2$

$p=\frac{4500}{270}/\left(1-\frac{1}{50}18.2\right)=26\ \text{kg/cm}^2<80\text{kg/cm}^2$

繼手ヂベルリング使用 3″φ瓦斯管使用 外徑89.1 內徑80.7mm

$f_s=\frac{4500}{2\times9\times29.5}=8.5\text{kg/cm}^2$

$f_c=\frac{4500}{2\times9\times3}=83.5\text{kg/cm}^2$

斜材 (1−2) +2900kg

$A=12\times21=2.52\text{cm}^2$

$l/d=\frac{428}{12}=35.7$

$f_c=\frac{2900}{252}/\left(1-\frac{1}{50}35.7\right)=40\text{kg/cm}^2$

繼手ニ對スル計算

$S=P\cos0=2900\times\frac{2.27}{4.28}=1540\text{kg}$

$f_c=\frac{1540}{1.5\times21}=49\text{kg/cm}^2$

ロ) 小屋下弦材面水平トラス應力 (方向↕) fig. 3 參照

(a) 別 圖 (fig. 3) ニ依リ下表ヲ得ル

部 材	鉛直荷重	地震横力	最大應力	部材ノ大イサ	摘 要
C−1	——	——	——	12×15	外弦材
D−3	——	+1900	+1900	〃 〃	〃
A−2	−2370	−1400	−3770	小屋下弦材	內弦材
1−2	——	+2000	+ 200	12×15	斜 材
2−3	——	− 700	− 700	〃 〃	〃
3−3′	——	+ 938	+ 938	〃 〃	鉛直材

(b) 部材斷面ノ決定

外弦材 (D−3) +1900kg

$A=12\text{cm}\times15\text{cm}=180\text{cm}^2\quad l/d=\frac{227.25}{12}=19$

$f_c=\frac{1900}{180}/\left(1-\frac{1}{50}19\right)=17\text{kg/cm}^2$

斜材 (1−2) +2000kg

$A=12\times15=180\text{cm}^2\ l/d=\frac{320}{12}=26.7$

$f_c=\frac{2000}{180}/\left(1-\frac{1}{50}26.7\right)=24\text{kg/cm}^2$

ハ）貳階床面ニ對スル水平トラス（方向←→）fig.4 參照

（a）トラスノ受クル總横力

$$\Sigma F=\frac{1}{6}\times 65,360=10,900\text{kg}$$

$$\text{即 } F=\frac{\Sigma F}{23.636}=462\text{kg/m}$$

$$p_1=462\times 3.03\times\frac{1}{2}=700\text{kg}\qquad p_2=2p_1=1400\text{kg}$$

$$p_3=462\times\frac{1}{2}(3.03+3.636)=1500\text{kg}\qquad p_4=462\times 3.636=1670\text{kg}$$

$$p_5=\frac{1}{2}p_4=835\text{kg}$$

（b）別圖（fig.4）ニ依リテ下表ヲ得

部　材	地震應力	部材ノ大イサ	摘　要
C−1　D−3 D′−E′	+8000	壁12cm×30cm	外弦材
E−4 E′−4′	+8000 +5400	〃　〃	〃
F−6 F′−6′	+10500 +10500	〃　〃	〃
A−2 A−3′	−5000 −5400	大梁18×30	内弦材
A−5 A−5′	−10000 − 9000	〃　〃	〃
1−2 2′−3′	+6800 +7000	18×33	斜　材
2−3　4−5 4′−5′	−4600 +4600	〃　〃	〃
5−6 5′−6′	−6000 +2200	〃　〃	〃
3−4 3′−4′	+1540 −3000	18×30	鉛直材
6−6′	+1670	〃　〃	〃

ニ）2階床面ニ對スル水平トラス（方向↕）fig. 5 參照

（a）トラスノ受クル總横力

$$\Sigma F=\frac{1}{12}\times 65,360=5450\text{kg}$$

$$\text{即}F=\frac{\Sigma F}{9.09}=600\text{kg/m}$$

$$p_1=600\times 3.03\times\tfrac{1}{2}=909\text{kg}$$

$$p_2=2p_1=1818\text{kg}$$

（b）別圖（fig. 5）ニ依リ下表ヲ得ル

部　材	地震應力	部材ノ大イサ	摘　要
C−1	+2000	12cm×30cm	壁　梁
D−3	+2000	〃　〃	〃
A−2	−2000	18×30	大　梁
A−3	−2000	〃　〃	〃
1−2	±2600	18×33	〃
3−3′	——	〃　〃	〃
2−3	±1818	18×30	〃

3. 壁體ノ持送ニ對スル檢算

梁ノ傳ヘル剪斷力 $Q=536\times\frac{1}{2}\times3.03=542\text{kg}$

$$f_s=\frac{542}{35\times100}=0.155\ \text{kg/cm}^2<4.5\ \text{kg/cm}^2$$

4. 壁體ノ剪斷力ノ計算

イ）2階壁體ニ對シテ

別圖（壁體ノ有効斷面圖fig.6）ニ依リ$\Sigma F=14,960\text{kg}$

(a) 方向←→

壁長 $18.18+18.54=36.72\text{m}$

窓開口長 $8\times1.8=14.4\text{m}$

壁ノ有効斷面積 $A_c=(36.72-14.4)\times30=67,000\text{cm}^2$

$$f_s=\frac{14960}{67000}=0.223\text{kg/cm}^2<4.5\text{kg/cm}^2$$

(b) 方向↕

壁長 $19.998+21.816+23.636=65.45\text{m}$

窓開口長 $8\times1.8=14.4\text{m}$

壁ノ有効斷面積 $A_c=(65.45-14.4)\times30=183,000\text{cm}^2$

$$f_s=\frac{14960}{183000}=0.082\text{kg/cm}^2<4.5\text{kg/cm}^2$$

ロ）1階壁體ニ對シテ

別圖（同上）ニ依リ$\Sigma F=65,360\text{kg}$

(a) 方向←→

壁體ノ有効斷面積 $A_c=67,000\text{cm}^2$（2階ト同樣）

$$f_s=\frac{\Sigma F}{A_c}=0.98\text{kg/cm}^2<4.5\text{kg/cm}^2$$

(b) 方向↕

壁體ノ有効斷面積 $A_c=183,000$（2階ト同樣）

$$f_s=\frac{\Sigma F}{A_c}=0.36\ \text{kg/cm}^2<4.5\text{kg/cm}^2$$

5. 地震ニ依ル直壓ノ力

イ）←→方向 $V_2=\frac{1}{2}\Sigma F_2\times3.33\times\frac{1}{18.18}=1375\text{kg}$

$$V_1=V_2+\frac{1}{2}\Sigma F_1\times4.545\times\frac{1}{18.18}=9525\text{kg}$$

ロ）↕方向ハ←→方向ヨリ小ナルニツキ省略ス

第 4 節　2階大梁ノ計算

1. 筋違梁 D_1 D_2 スパン4.3m

$w=536\times1.515=812\text{kg/m}$

$W=812\times2.15\times\frac{1}{2}=874\text{kg}$

$M_{max}=\frac{1}{16}\times812\times4.3^2=940\text{kgm}$ or $94,000\text{kgcm}$

2. 筋違梁 D_5 D_6 スパン 4.733m

$w=536\times1.515=812\text{kg/m}$

$$W=812\times2.366\times\frac{1}{2}=965\text{kg}$$

$$M_{max}=\frac{1}{16}\times812\times4.733^2=1140\text{kgm}$$

3. 大　　梁 G_{23} スパン3.03m

$$w=536\times1.818=970\text{kg/m}$$

$$W=970\times3.03\times\frac{1}{2}14.70\text{kg}$$

$$M_{max}=\frac{1}{12}\times970\times3.03^2=740\text{kgm}$$

4. 大　　梁 B_{12} B_{13} スパン3.636m

$$w=536\times1.515=813\text{kg/m}$$

$$W=813\times3.636\times\frac{1}{2}=1480\text{kg}$$

$$M_{max}=\frac{1}{12}\times813\times3.636^2=890\text{kgm}$$

5. 梁斷面ノ決定

イ) D_5 D_6 スパン4.733m

$P=7000\text{kg}$　地震ニ依ル應力

$M=114000\text{kgcm}$　床荷重ニ依ル　使用斷面 18cm×33cm

$$S=\frac{1}{6}\times18\times33^2=3250\text{cm}^3$$

$$l/d=\frac{\frac{1}{2}\times473.3}{18}=13.2$$

$$\left.\begin{aligned}f_1&=\frac{7000}{18\times33}/\left(1-\frac{1}{50}13.2\right)=16\\f_2&=\frac{114000}{3250}=35.3\end{aligned}\right\}\ f_{max}=51.3\text{kg/cm}^2$$

$$S=P\cos\theta=7000\times\frac{2.83}{4.5}=4400\text{kg}$$

$$f_c=\frac{4400}{4\times30}=37\text{kg/cm}^2$$

$$f_s=\frac{4400}{30\times25}=5.9\text{kg/cm}^2<7\text{kg/cm}^2$$

$T=P\sin\theta=5300\text{kg}$

2−19m.mϕ　引張力 $2\times2740=5480\text{kg}$

鉛直荷重ニ依ル剪斷力　$V=965\text{kg}$

支持面　$A=4\times24.5\times\frac{1}{2}=49\text{cm}^2$

$$f_s=\frac{96.5}{49}=1.97\text{kg/cm}^2$$

ロ) G_{13} G_{23}　　$l=3.03\text{m}$

$$S=\frac{1}{6}\times18\times30^2=2700\text{cm}^3$$　使用材斷面　18cm×30cm

$M_{max}=74000\text{kgcm}$

$T=2370\text{kg}$　$P=360\text{kg}$　$l/d=\frac{\frac{1}{2}303}{18}=8.5$

$$f^2=\frac{2370}{18\times30}=4.4\text{kg/cm}^2$$

$$f_1'=\frac{360}{18\times30}/\left(1-\frac{1}{50}8.5\right)=0.8\text{kg/cm}^2$$

$$f_2=\frac{74000}{2700}=30.8\text{kg/cm}^2 \qquad f_{max}=f_1+f_2=35.2\text{kg/cm}^2$$

ハ) B_{12}

$l=3.636$m

$M_{max}=89000$kg.cm

$P=10,000$kg

$S=\frac{1}{6}\times18\times30^2=2700$cm^3　使用材ノ斷面 18cm×30cm

$A=18\times30=540$cm^2　$l/d=\frac{363.5}{18}=20.2$

$$\left.\begin{aligned} f_1&=\frac{10000}{540}/\left(1-\frac{1}{50}20.2\right)=31\ \text{kg/cm}^2\\ f_2&=\frac{89000}{2700}=34\text{kg/cm}^2 \end{aligned}\right\} f_{max}=65\text{kg/cm}^2$$

第5節　柱ノ計算

1. 內部木柱　使用材斷面積　18cm×18cm

2階床荷重　床面積　$3.03\times3.636=11$m^2

$P=540\times11=5940$kg　$l/d=\frac{454.5}{18}=25.2$

$f_c=\frac{5940}{182}/\left(1-\frac{1}{50}25.2\right)=65\text{kg/cm}^2$　$<80\text{kg/cm}^2$

2. 內部コンクリート壁

$$\left.\begin{aligned} &\text{屋根荷重}\quad 70\times9.09\times1=636.3\text{kg/m}\\ &\text{2階床荷重}\quad 540\times3.03\times1=1635\ \text{〃}\\ &\text{壁體自重}\quad 2400\times0.3(3.33+4.545)\times1=5660 \end{aligned}\right\} P=7931\text{kg}$$

$f_c=\frac{7931}{30\times100}=26.5\text{kg/cm}^2$　$<45\text{kg/cm}^2$

3. コンクリート隅柱

屋根荷重　$70\times\frac{1}{4}\times3.636\times9.09=5.76$kg

2階床荷重　$540\times\frac{1}{4}\times3.03\times3.636=1400$kg

壁體自重　$2400(2\times0.3\times0.9+0.6^2)\times7.875=17000$kg

地震ノ直壓　9525kg

$P_c=28,591$kg

$f_c=\frac{28,591}{2\times30\times90+60^2}=31.7\text{kg/cm}^2$　$<45\text{k}^2/\text{cm}^2$

第6節　礎基ノ計算　（基礎ノ圖面fig.7參照）

1. 內部獨立基礎

柱脚部荷重　5940kg

基礎ノ自重及同版上ノ土ノ重量　$2.100\times1.1\times1.1=2540$kg

$\Sigma=8480$kg

杭1本ノ支持力　5000kg　之ヲ2000kgトス

基礎ノ總支持力

$P=5000\times1.1^2+2500=8,500$kg

2. 內部コンクリート壁下基礎

壁底部ノ荷重　7931kg/m

基礎及同版上土ノ重量 $2100\times1\times1.1\times1=2310\text{kg/m}$

$\Sigma=10,241\text{kg/m}$

杭ノ支持力　5000kg

杭間隔 $\frac{5000}{10241}=0.488\text{m}$　之ヲ0.45m トス

3. 外部コンクリート壁下基礎

壁底部ノ荷重　6796kg/m

基礎及同版上土ノ度量 $2100\times1\times1.1\times1=2310\text{kg/m}$

$\Sigma_1=9110\ \text{kg/m}$

杭ノ間隔 $\frac{5000}{9110}=0.55\text{m}$

4. コンクリート隅柱基礎

壁底部ノ荷重　28,591kg

基礎及同版上土ノ度量 $2100\times1.1\times2.3=5320\text{kg}$

$\Sigma=33,911\text{kg}$

支持杭ノ本數 $\frac{33,911}{5000}=7$本

昭和15年4月發行

建築物强度計算用風壓規準

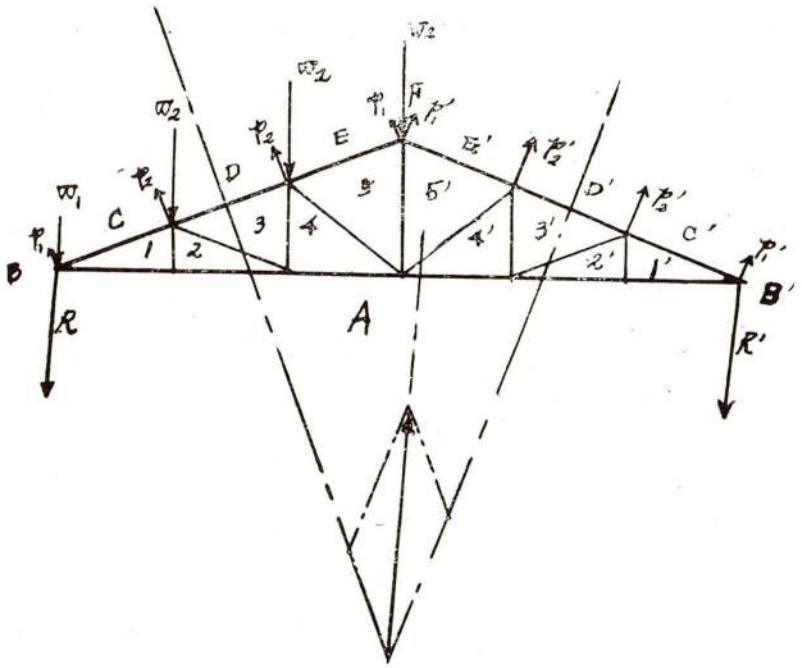
☆定價35錢

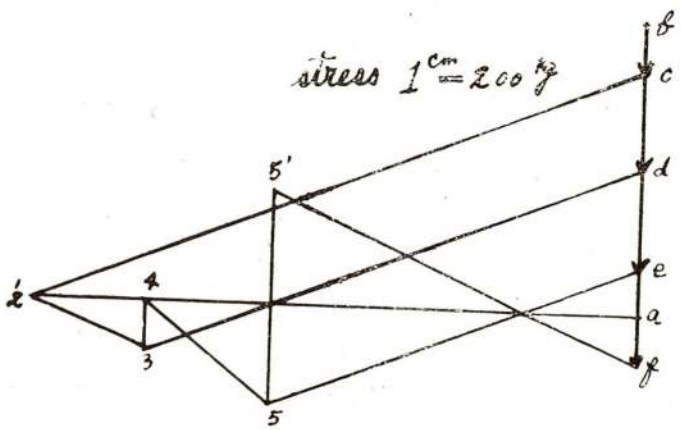
送料 3錢

發行所・社團法人 日本建築協會

振替番號大阪 39975番

fig. 1


W2
W1
W2
W2
P1
H
P1'
P2
E
E'
P2'
W1
P1
D
D'
P2'
C
C'
P1'
1
2
3
4
5
5'
4'
3'
2'
1'
B
B'
R
A
R'


stress 1 cm = 200 kg
b
c
d
e
a
f
5'
4
3
2
5

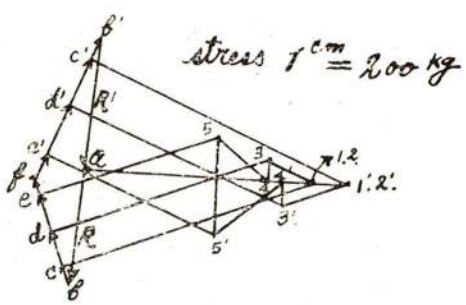

stress 1 cm = 200 kg
b'
c'
d'
R'
e'
a'
f'
e
d
R
c
b
5
3
1.2
1'.2'
5'
3'

fig. 2

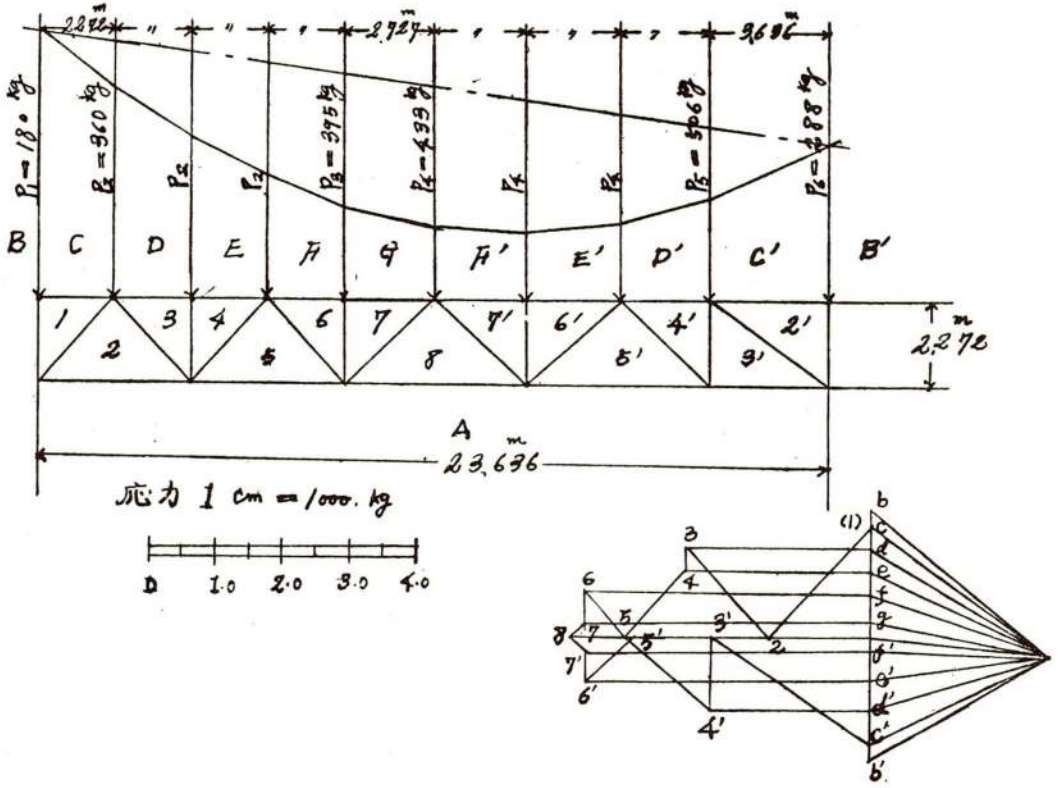

B C D E F G F' E' D' C' B'
1 2 3 4 5 6 7 8 7' 6' 5' 4' 3' 2' 1'
A
23.636 m
2.272 m
応力 1 cm = 1000. kg
0 1.0 2.0 3.0 4.0

fig. 3

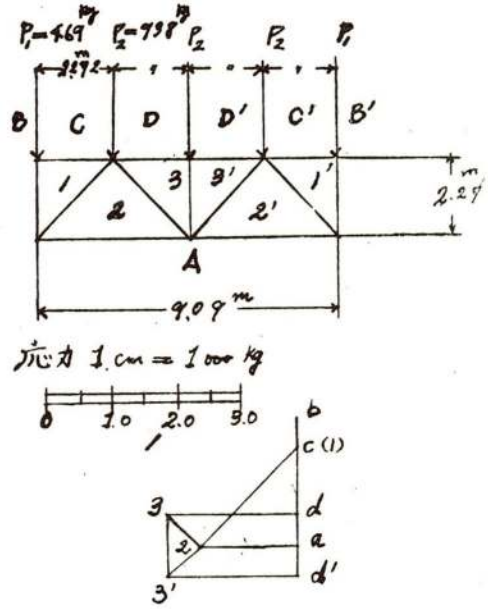
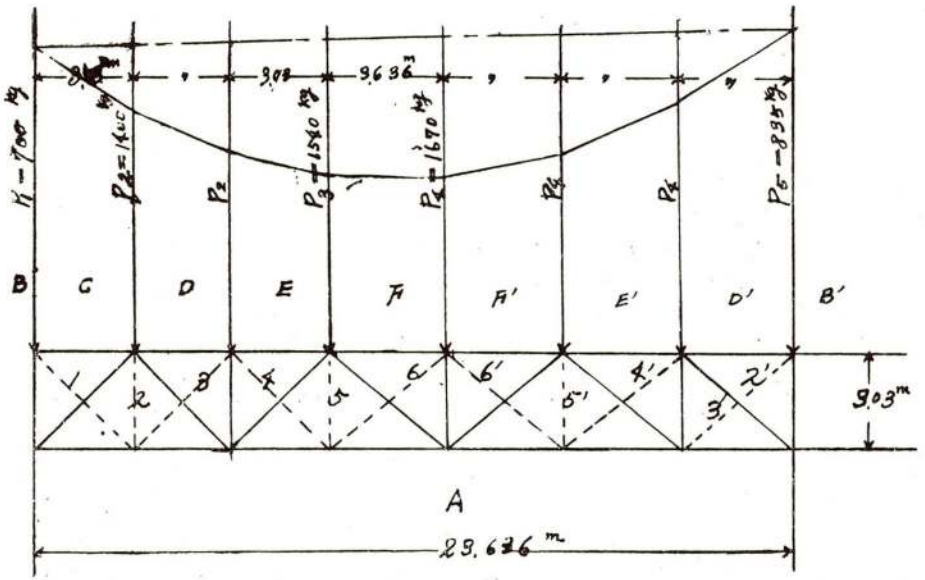
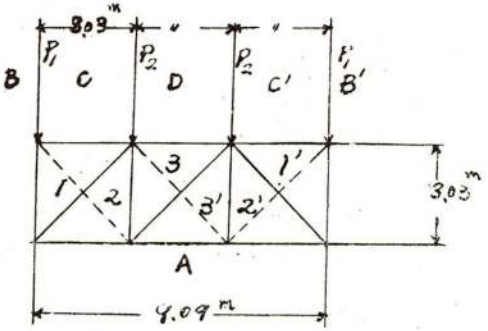
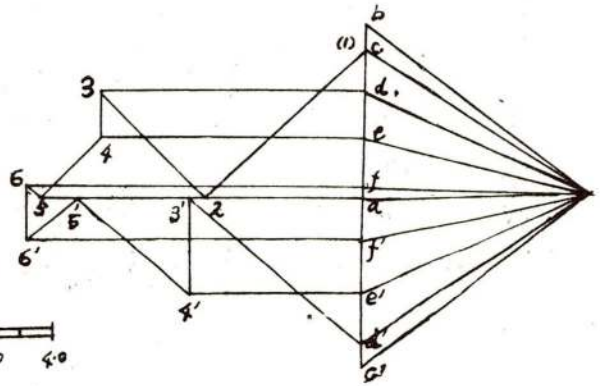

B C D D' C' B'
1 2 3 3' 2' 1'
A
9.09 m
2.27 m
応力 1 cm = 1000 kg
0 1.0 2.0 3.0

fig. 4

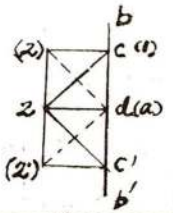






応力 1cm = 2000 kg

0 1.0 2.0 3.0 4.0



応力 1cm = 2,000 kg

0 1.0 2.0 5.0

fig. 5

fig. 6

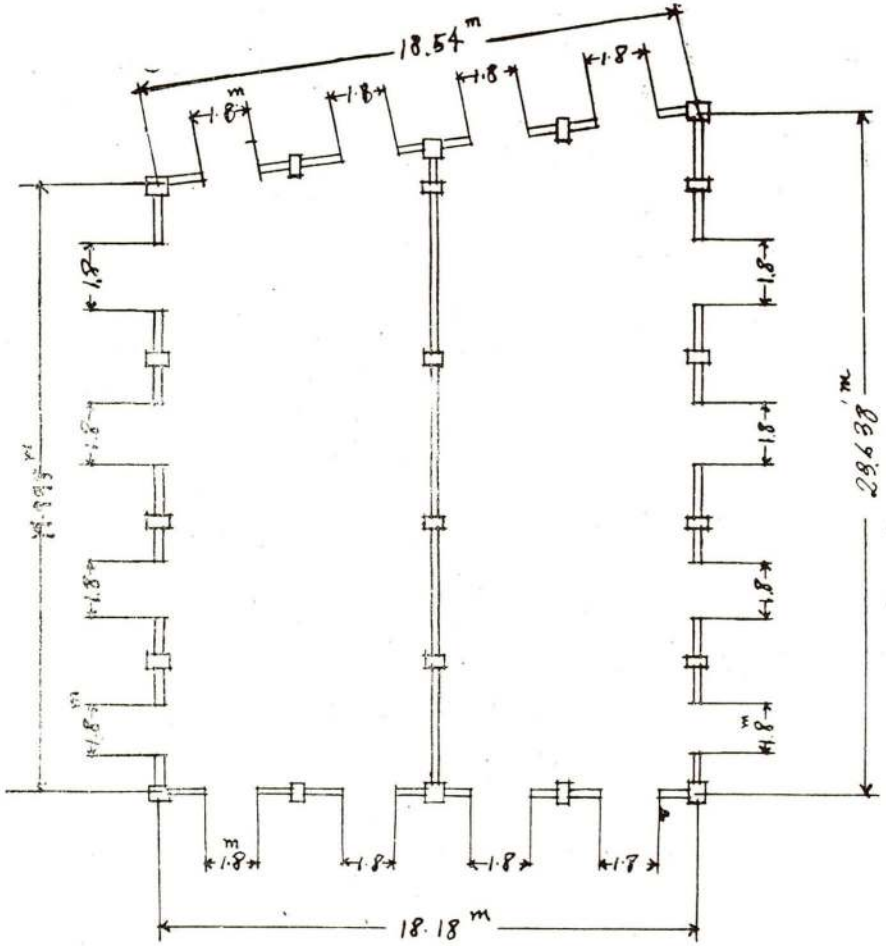
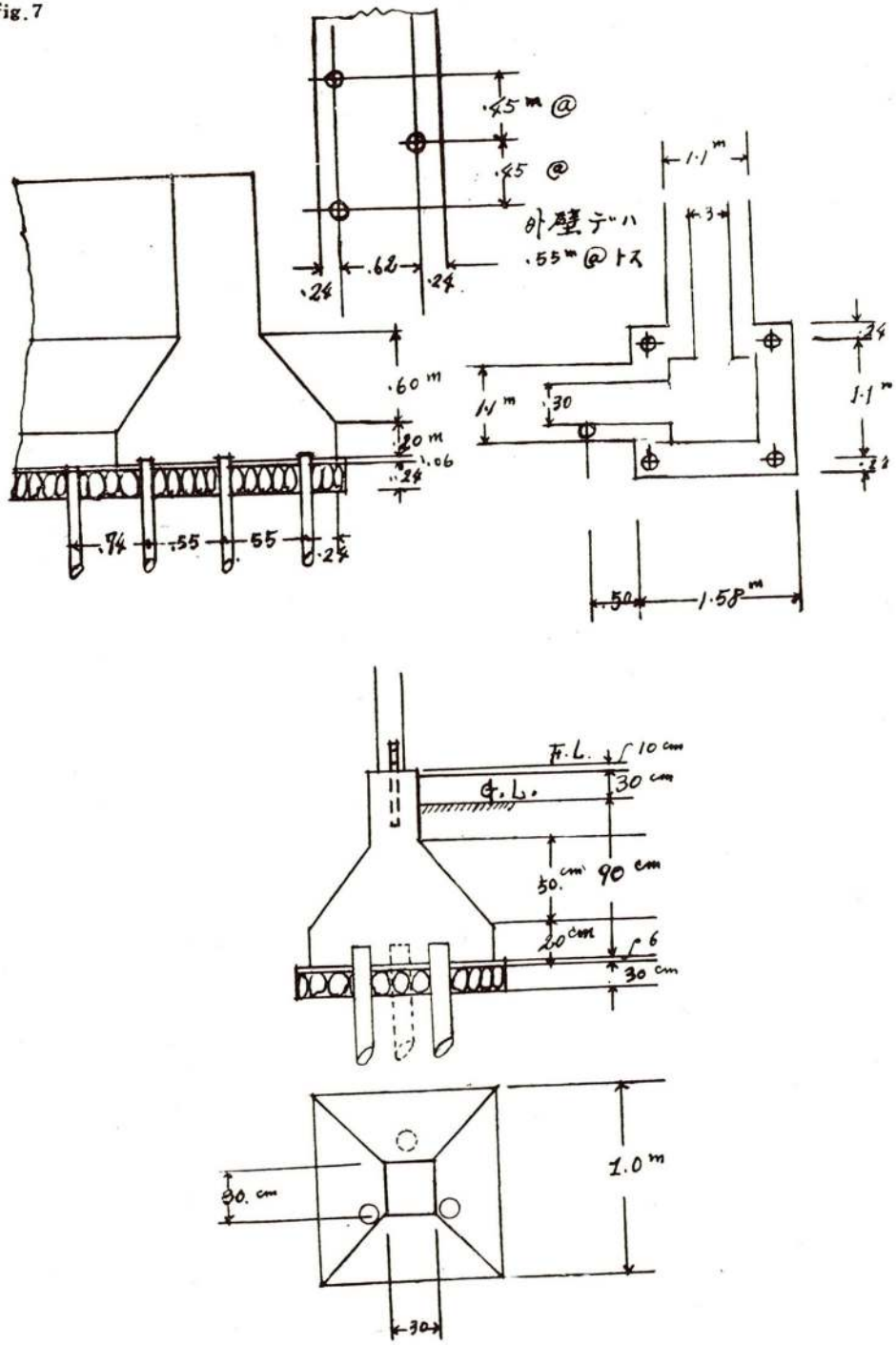
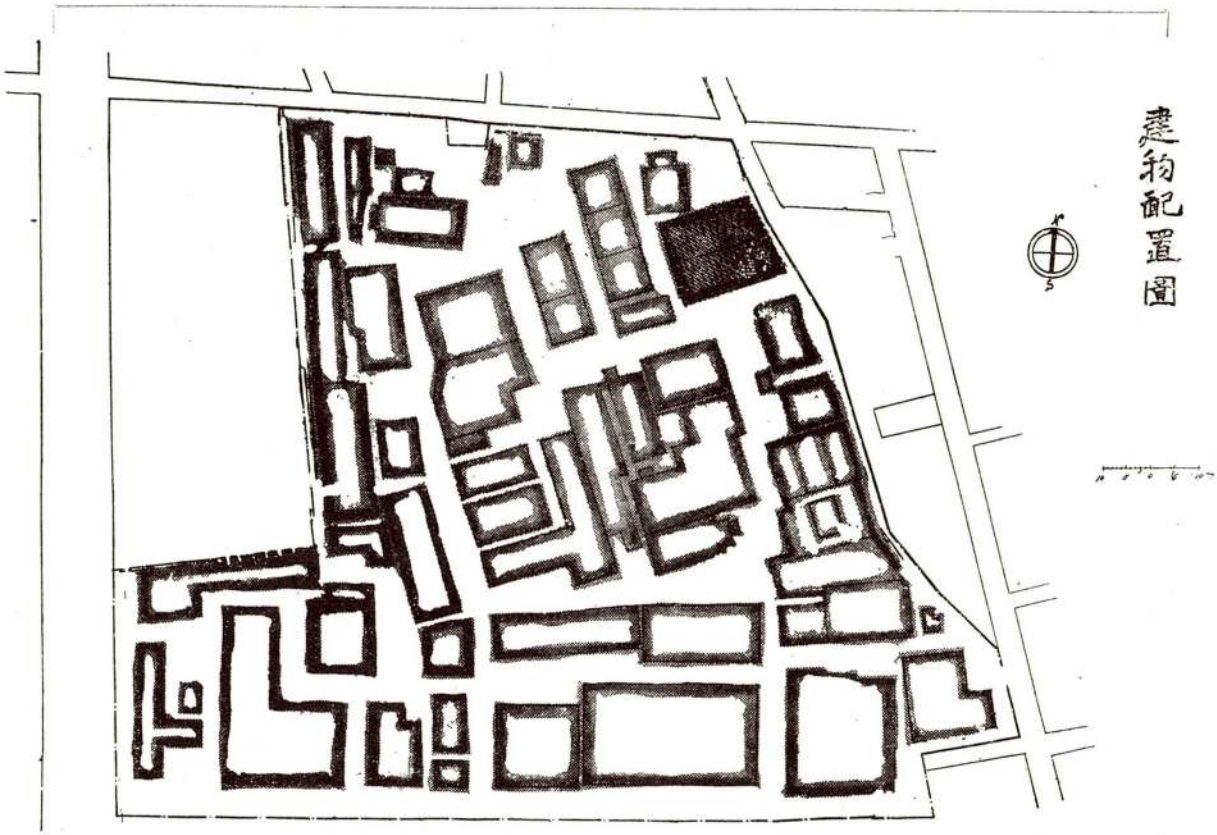
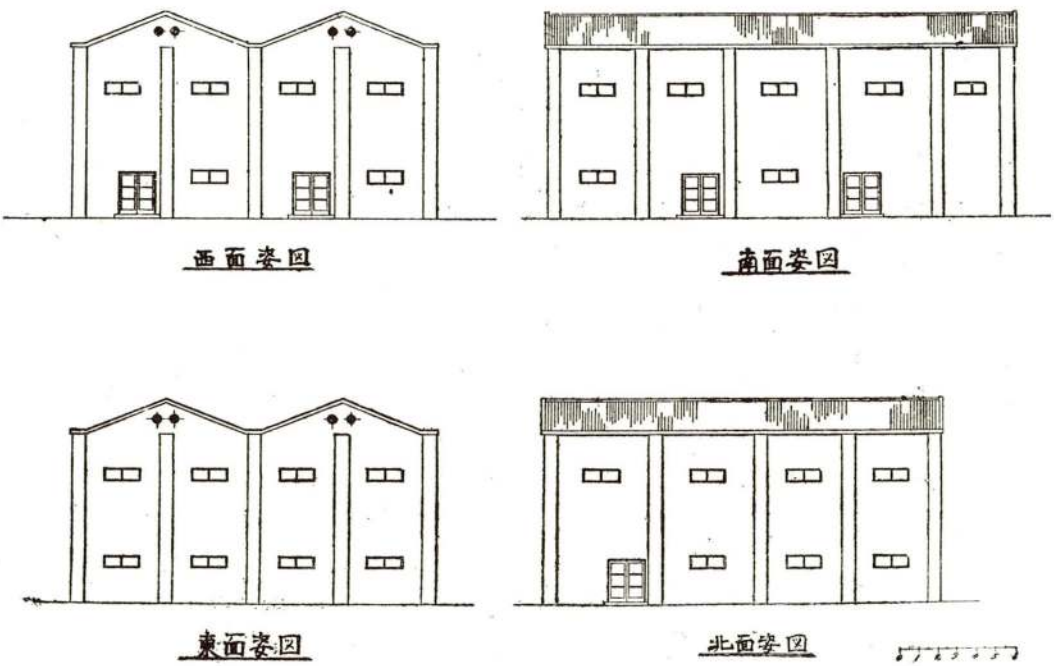

18.54 m
1.8 m
1.8
1.8
1.8

fig. 7

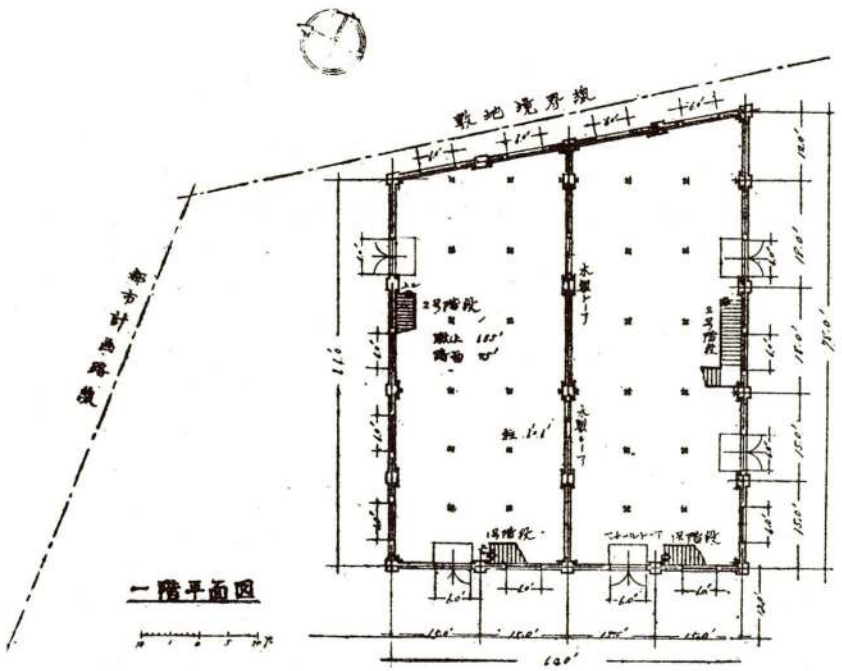

.45 m @
.45 @
.24
.62
.24
.60 m
.20 m
1.06
.24
.74
.55
.55
.24
1.1 m
.3
.14 m
.30
.24
1.1 m
.3
.50
1.58 m
F.L.
10 cm
G.L.
30 cm
50 cm
90 cm
20 cm
6
30 cm
1.0 m
30 cm
30



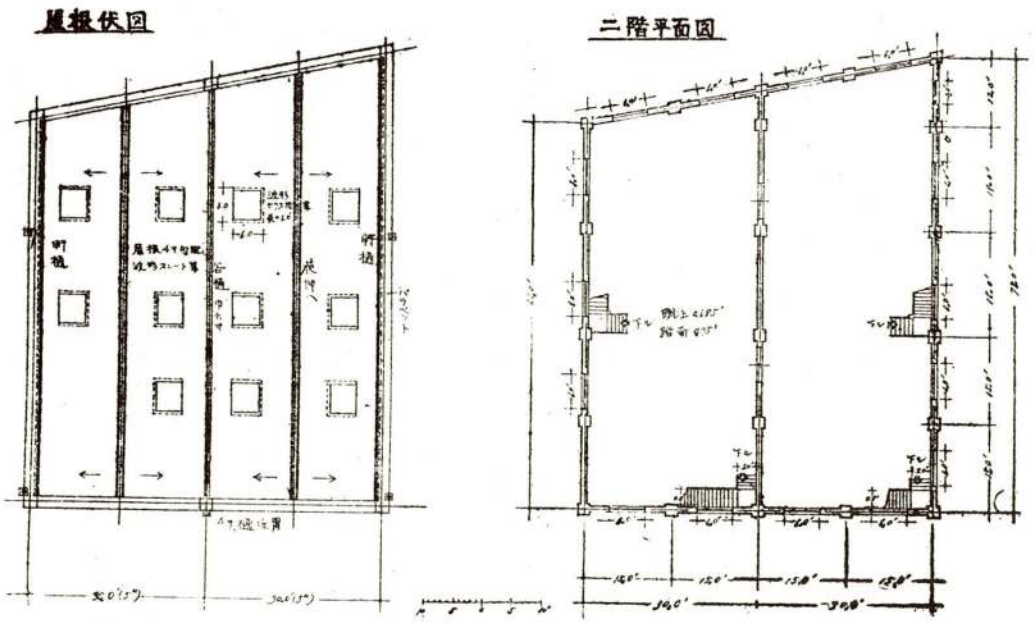
第Ⅰ圖



第Ⅱ圖

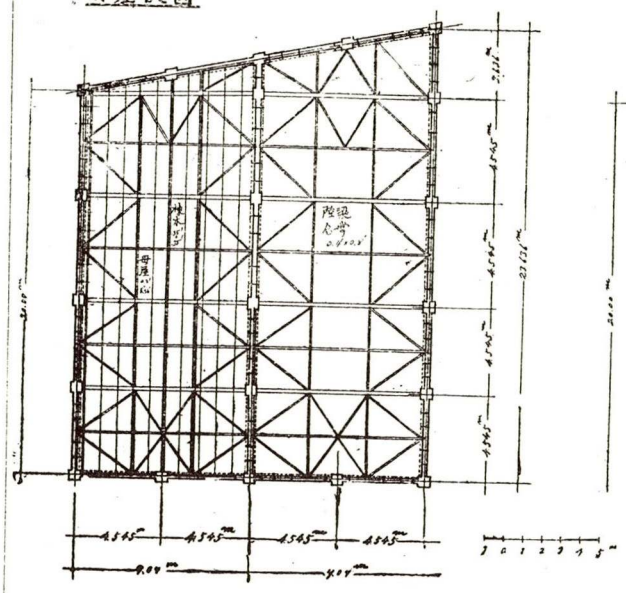


第Ⅱ圖

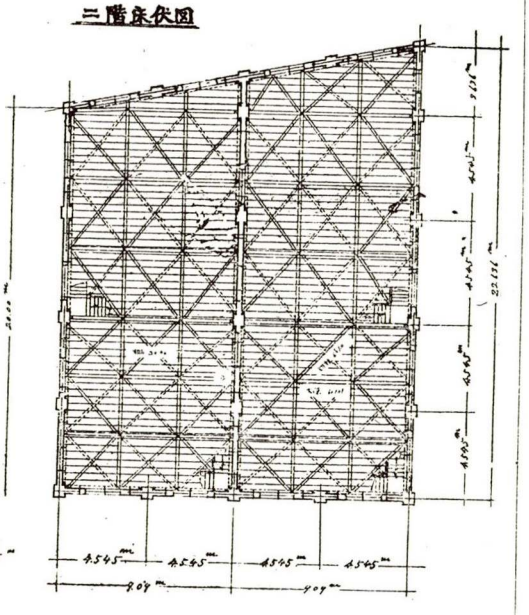


第Ⅳ圖

小屋伏図



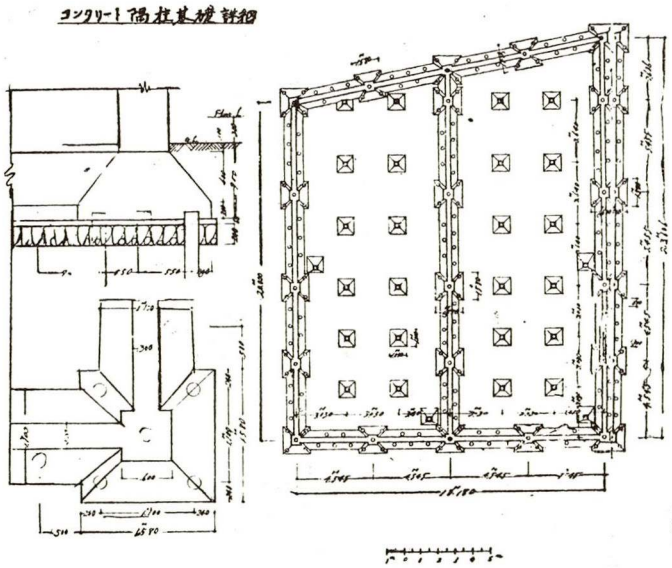
二階床伏図



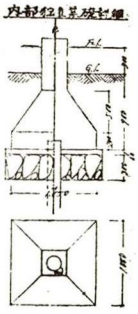
第 V 圖

基礎伏圖並ニ詳細圖

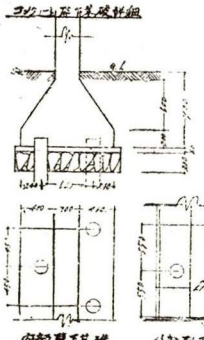
コンクリート隔壁基礎詳細



内部柱下基礎詳細

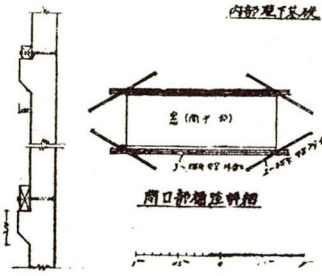


コンクリート外壁基礎詳細

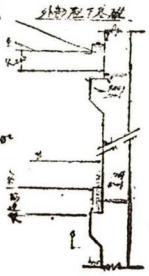


内部壁下基礎

外部壁下基礎



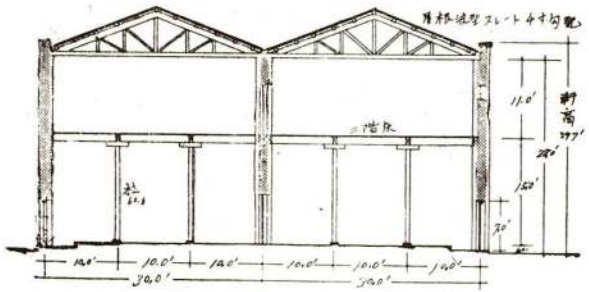
南口部補強詳細



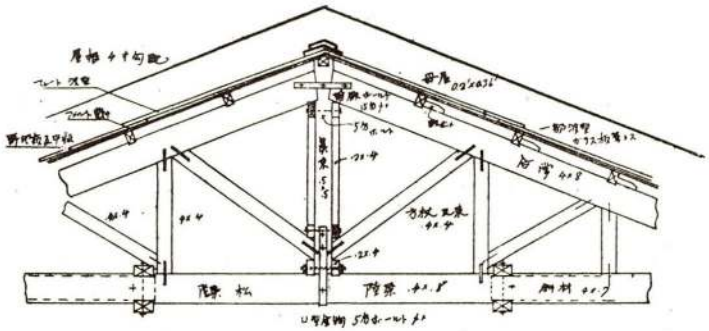
壁業取付詳細

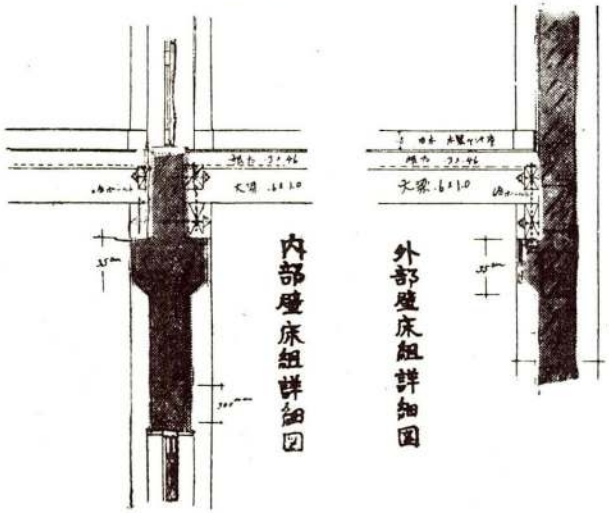
壁業取付詳細

第 VI 圖



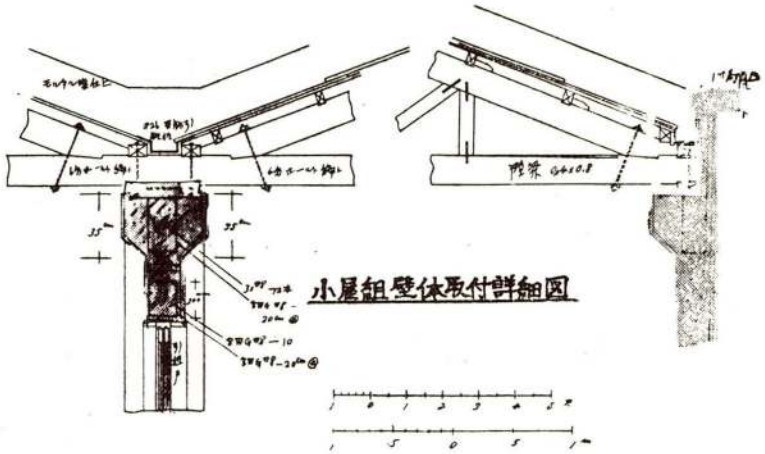
断面図





内部壁床組詳細図

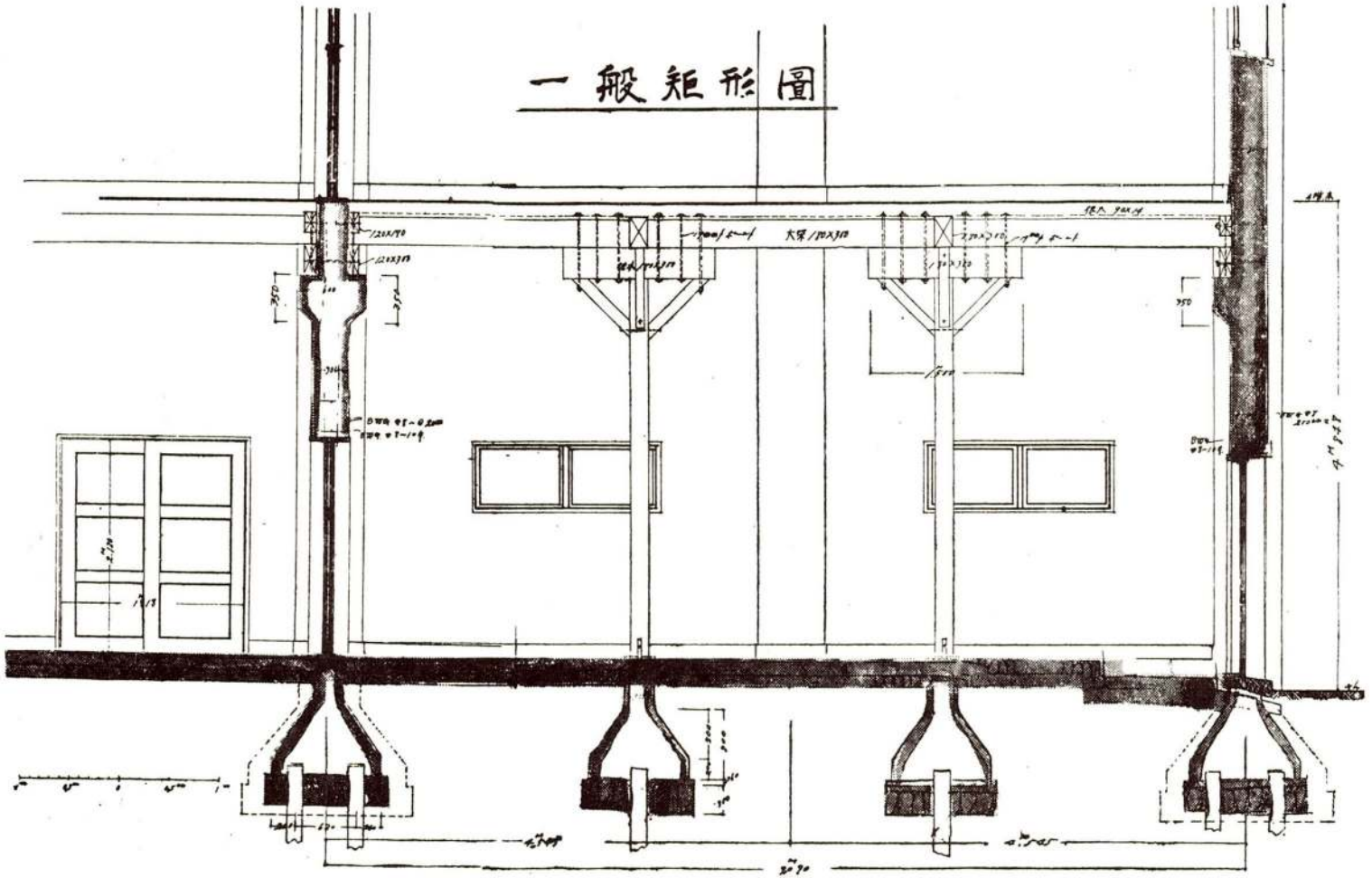
外部壁床組詳細図



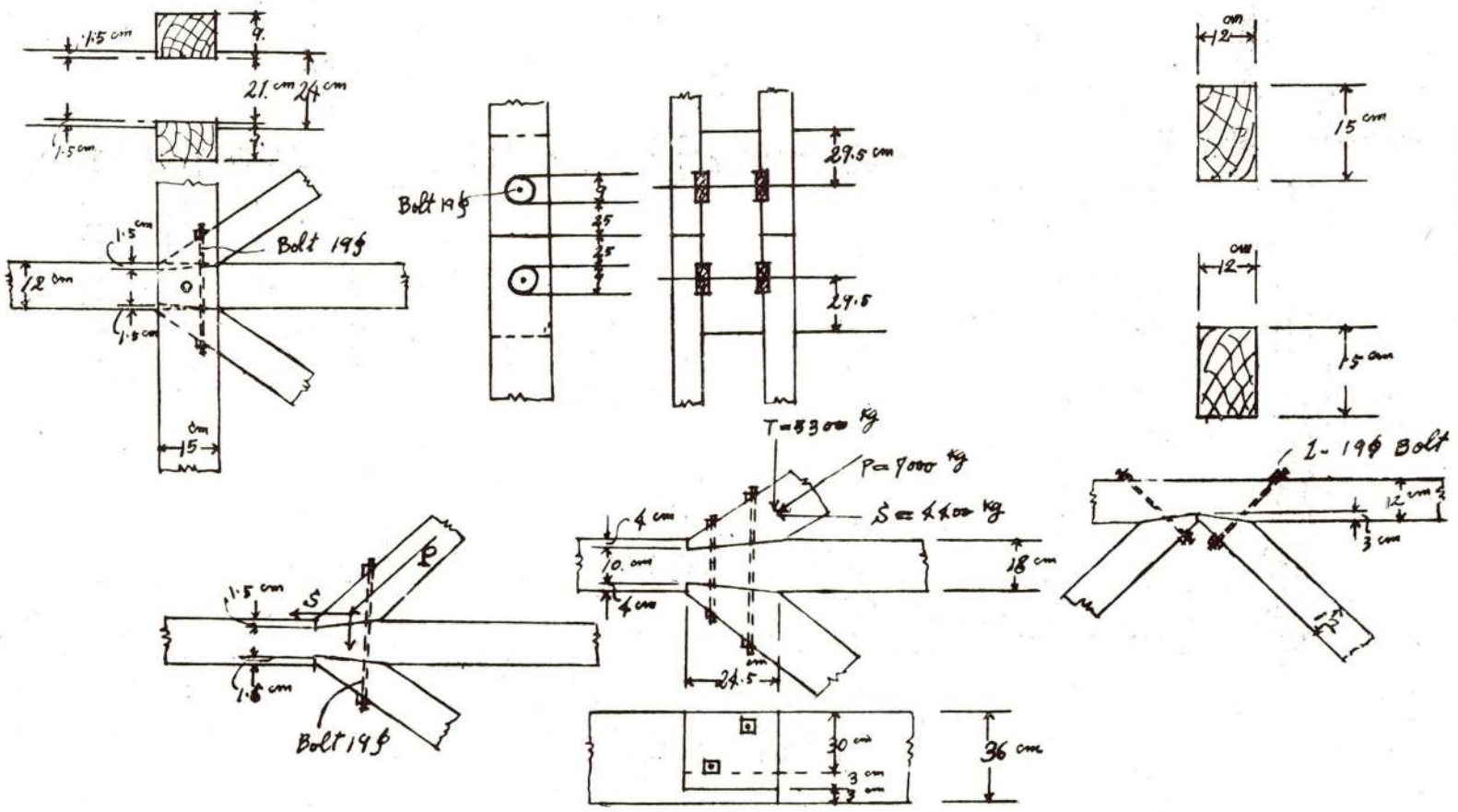
小屋組壁体取付詳細図

第 VII 圖

一般矩形圖



第Ⅶ圖


1.5 cm
9.
21. cm
24 cm
1.5 cm
Bolt 1φ
1.5 cm
12 cm
1.5 cm
6 cm
15
Bolt 1φ
2.5
2.5
27.5 cm
24.5
T=8300 kg
P=7000 kg
S=4400 kg
4 cm
10. cm
4 cm
18 cm
24.5 cm
30 cm
3 cm
3 cm
36 cm
1.5 cm
S
P
1.5 cm
Bolt 1φ
cm
12
15 cm
cm
12
1.5 cm
1-1φ Bolt
12 cm
3 cm
12.5

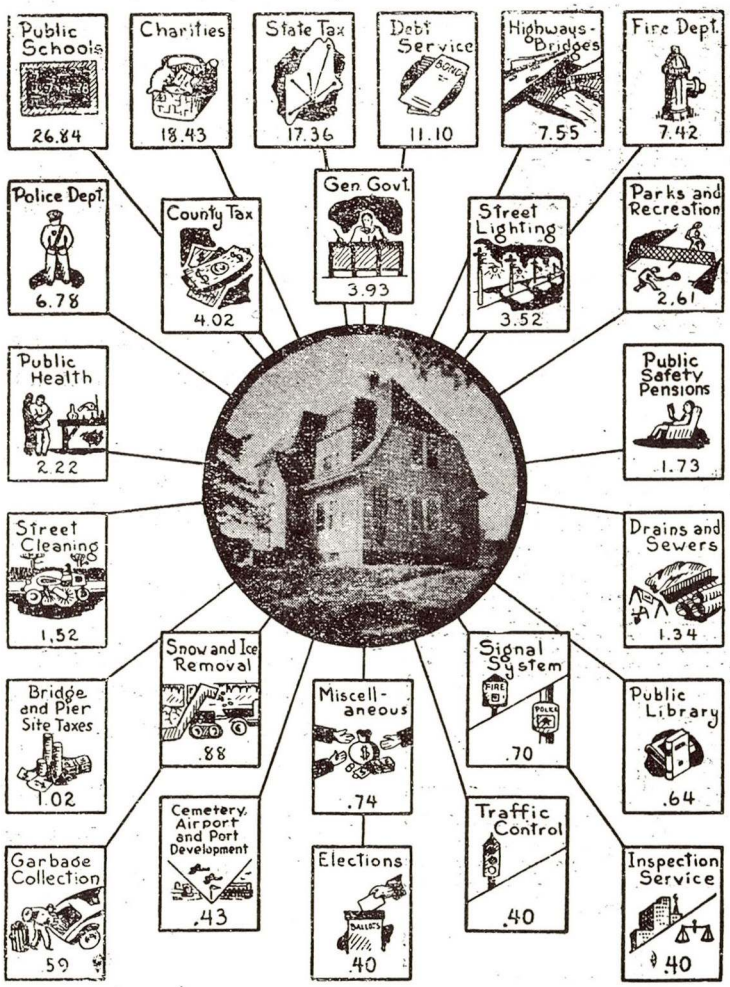
第 IX 圖

次の年報に對する有益なる示唆

最近10年間に於て、都市年報に人々の注意と興味を惹いて來た幾つかの要素がある。不景氣の爲市政當局は重大なる財政問題に惱まされその結果として增稅を斷行せねばならなくなつた。市政當局は之等の財政問題の解決に當り、一般市民の理解ある同情的な支援を得る必要を感じて來た。市民の方では當局の動きを注視しながら增稅の理由を求めてゐる。海の彼方に擡頭した全體主義とそれに伴ふ國內の民主義主の再興に對する關心を以て、市民が市政に關與する事の重要性が深く認識され强調されつゝある。

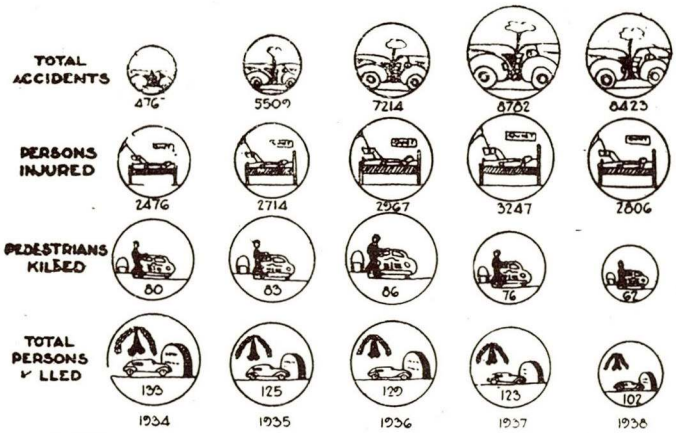
都市年報は市債所有者に對してその事業の重要さに就いて說明を與へ尙その稅金に對して何れ丈けの事をなしたかと云ふ計算書である。之は時には金がかゝり過ぎてゐると思はれることもあるし、時には寧ろ至當と思はれる以上に安くなつてゐる事もある譯である。之は市民に市政に對する興味を起させ、又市政當局に理解を以て參與する必要を認識させるものである。

多くの都市、特に小都市に於ては年報の發行が費用の入る點で一つの障害と考へられてゐるが、年報の發行にはそんなに多くの經費は必ずしも必要ではないのである。Pennsylvania 州の Johnstown 年報は僅か10頁のリフレツトではあるが、市民の間に可なり評判を得てゐる。それは其の年の收入と支出とが圖表やグラフで簡潔に示されてゐて市の職員名簿も附いてゐる。市の事業に對する說明が「水車小屋暮しの或る一日」と云ふ樣な興味ある物語の形式で書かれてゐる。（水車小屋暮しは Johnstown では普通の家庭である。）又 Ohaio 州の East Cleveland, Phymouth, Mass,. 及び Princeton, N. J. では短いほんの2頁か4頁の手紙狀の年報を發行し、納稅者に對して稅金が如何なる風に使はれてゐるかを說明したり、一般的な事業と特別に行つた事業を說明したりして將來の計畫を紹介してゐる。Tappahannock, Va, 及びその附近の West Reading の市區では年報を謄寫版で印刷して費用を切詰めてゐる。手の込んだ插畫等は謄寫版刷りの年報では入らないけれども Tappahannock の年報に載せてある樣な圖表やグラフやざつとしたスケツチや漫畫位なら有效に使へるのである。他の幾つかの都市では費用を節

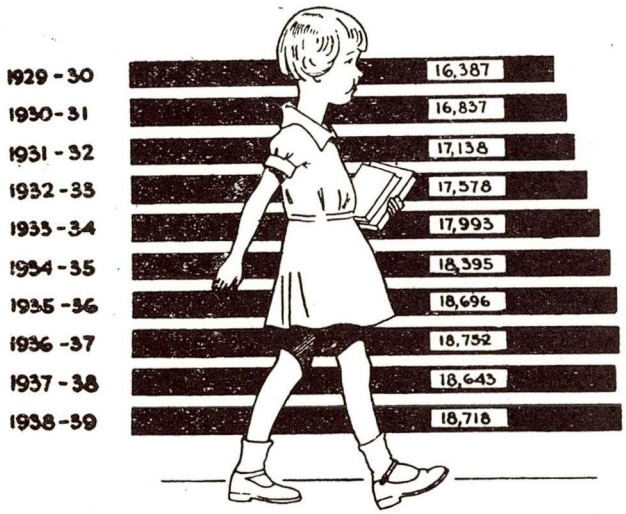


第1圖・Portland Maine. 年都所載1938年度稅金支出百分比

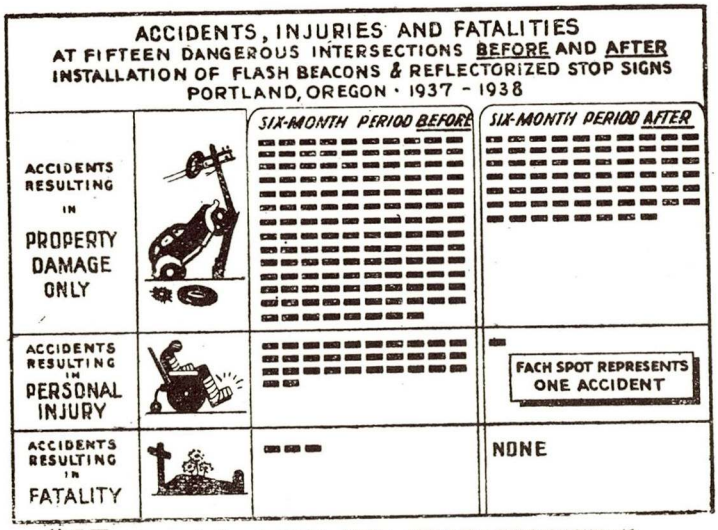
* American City, Dec., 1939 : Talking it over with the Taxpayer（納稅者と語る）より抄譯



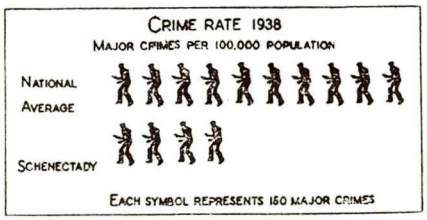
第2圖・Cincinnati, Ohaio 年報所載交通事故累年比較圖表



第3圖・Charlotte, N.C. 年報所載・公市學校在學者數のクラフによる說明



第5圖・Portland, Ore. 年報所載・1937年—1938年間の交通事故比較圖で納稅された金によりて事故防止裝置がなされた結果、事故が減少した事を示してゐる。



第4圖・Schenectady, N.Y. 年報所載・1938年度の人口10萬に對する犯罪者の割合を示したもの

約する爲に活版印刷物の代用になるものを用ひてゐる。Portland の年報は石版刷である。Tallahassee ではタイプライターで打つたものを石版刷にして出してゐる。

國際都市行政協會（The International City Manager's Association）では最近パンフレツト "Specification for the Annual Municipal Report" を發行したが之は都市年報に關する說明書で財政報告書を作る時の指針を與へてゐる。即ち

1. 報告は簡潔なること
2. 印刷設備に適した大さを撰ぶこと
3. 體裁は費用に大なる關係ある爲注意すること
4. 報告書の頁數は8の倍數であること
5. 報告は綿密に計畫すること又原稿は印刷屋に出す前に一通り編輯して置くこと
6. 2500部以上印刷する場合には紙と費用が非常に澤山かゝる
   - A、本文の活字は適當の大さにすること
   - B、2段組は常に經濟的である
   - C、餘白を餘り多くとらぬこと
   - D、大きな見出しをさけること
   - E、用紙の標準の型を用ひて無駄をせぬ樣頁の大さを決めること
   - F、經濟的な用紙を撰ぶこと
7. 2500部以下の場合には1頁當りの語數を少くしてもそんなに費用は增加しない（森口清抄譯）



紀元2600年記念

建築文化展

編　輯

光輝ある紀元二千六百年を慶祝し、記念する意圖のもとに、建築學會及び我が日本建築協會共同主催にて紀元二千六百年記念建築文化展覽會が去る11月23日より28日まで6日間（うち1日休日）市内南區日本橋3松坂屋7階に於いて開催された。

その内容は建築學會出品にかゝる記念展示「日本建築文化」を初めとし、全國の數ある紀元二千六百年記念事業のうち建築に關係のあるもの、寫眞ならびに模型及び肇國の聖蹟を偲び奉る寫眞の數々が集められたのを始めとし　悠久二千六百年の建築文化を物語る貴重なる資料忠靈塔の私案模型、國民住居模型、住宅の構造を示す模型、或は最近竣工した航空塔パラシュート塔などの模型なども出品されて時局を物語るに誠にふさはしいものであつた。尚學會の競技設計課題「家族向アパートメントハウス」入選圖案ならびに「木造建物建築統制規則に據る小住宅懸賞設計圖案の展示のあつたのは刻下の住宅難を解決するに一示唆を與へるに充分であつた。

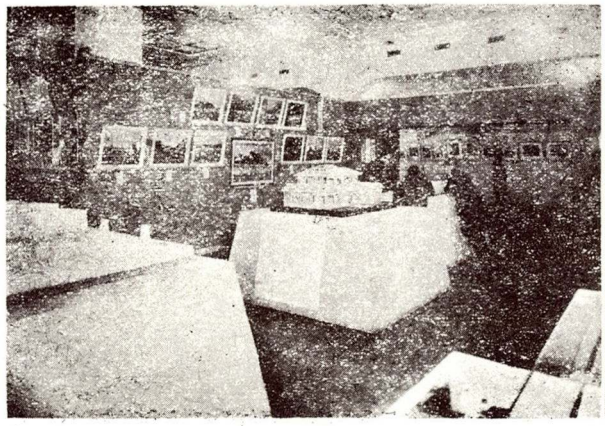
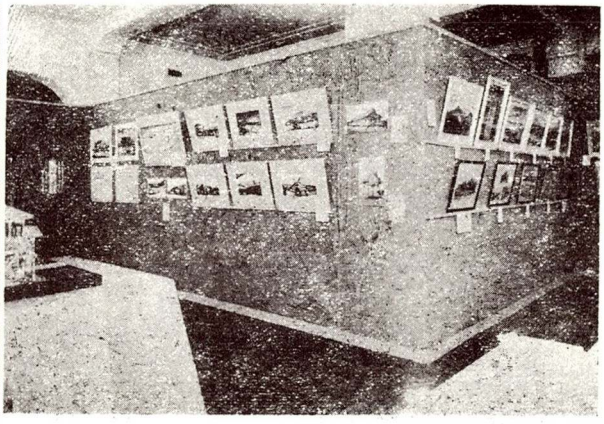
茲に特記すべきは前記「日本建築文化」であるが、これは學界に於て我國二千六百年の建築歷史を表はす爲、皇室に御關係のある御建物を選んでその秀れたる寫眞とそれにふさはしき解說を付けて展示されたもので、之れにより我祖先の貽した偉大なる建築文化の數々を心行くまで偲び得たことは、建築界未曾有の企てゞあつただけに誠に感激を與はす自ら建築家たる光榮と衿持を感じ、建築報國の爲に身分を全うするの念を深めたのも豈筆者のみでなかつたのであらう。尚、寫眞中御陵、御所、離宮などに關するものは、悉く宮内省より御貸下げのものであり、其他は文部省日本文化大觀編修會より特に御貸與になつたものであると聞く。

會場は他の展覽會との關係から多少の難が感じられたが、配置、展示よろしきを得て具子者を惹き付けるに充分であつた。會期は僅か5日間で短きを惜しまれたが總計約4萬8千名を數へる事が出來た。

終りに本展覽會に贊助して貴重なる出品を賜つた各位に對して深甚の謝意を表して筆を擱く。

出　品　概　要

1. 記念展示「日本建築文化」
   仁德天皇御陵、大嘗宮正殿（2）、舊平城宮朝堂院（奈良唐招提寺講堂、正倉院、京都御所（外觀、承明門、紫宸殿、清涼殿、等（11）、宇治離宮一殿（宇治上神社拜殿）、舊女院御所（京都南禪寺方丈）、舊內裏神嘉殿（舊橿原神宮拜殿）、桂離宮（御書院、古書院、中書院新書院、松琴亭、月波樓、笑意軒、御庭、等（17）、水無瀨宮燈心亭、修學院（中の御茶屋、御庭（2）、宮城
1. 紀元2600年奉祝式典場寫眞（9葉）- 建築學會出品
   全景油繪、御使殿、御車寄、式殿、玉盃及式殿內部全夜景、馬場先門奉祝塔、日比谷門奉祝塔、和田倉奉祝塔等、清水組出品
1. 橿原綜合驛寫眞、平面圖共（4葉）
   大阪電氣軌道株式會社出品
1. 橿原神宮外苑、橿原道場寫眞、平面圖共（7葉）
   外苑競技場・野外公堂（相撲・柔劍・庭球・音樂・運動會場等使用）
   八紘寮（全國青少年及一般修養團道場宿泊場）
   竹中工務店出品

大和國史館（美術館にてヂオラマ・寫眞出品外、文化資料）建國會館（昭和大典御饗宴場下賜移建ノモノ、弓道場等）

1.肇國の聖地寫眞（11葉）森下博氏出品
高千穗峰・御降誕地（宮崎縣西諸縣郡高原町狹野皇子原）美々津溪御發航地・吉伊高島宮・生駒山・大和三山、（耳成・畝傍・天香山）、紀伊海草ノ郡竈山神社、島見山・金鵄發祥ノ地（生駒郡北倭村及富雄村）

1.家造祖神社寫眞（3葉）　鴻池組出品
手置帆負神彦狹神を祭る
市内下寺町生國魂神社境内御鎭座の分

1.日下貝塚寫眞
今回神武天皇御聖蹟と決定した中河内郡孔舍衞村日下記念碑附近1葉　（八木博氏出品）

1.長髓彦本據地跡・鳥貝山白庭山
鴇邑一體饒速日命御墳墓、寫眞（4葉）
（中本與嗣久・辻慈朝兩氏出品）

1.八紘之基柱・寫眞（1葉）
肇國の聖地宮崎に建立せし　（大林組出品）

1.土木建築殉職者慰靈塔・寫眞（1葉）
（日本土木建築組合聯合會出品）

1.醍醐寺五重塔・第一重內部裝飾文樣
（京都帝國大學建築學教室出品）

1.宇治平等院鳳凰堂・中堂內部裝飾文樣（2種）
天蓋及柱天井の柱料拱等模寫屛風3双

1.四天王寺創建當時見取圖・四天王寺創建用瓦・文化再建塔象鼻・文化再建塔料拱・舍利塔及扉・佛舍利瓶此他、扇面・經寫本・卷本（2）參考書（3冊）
（四天王寺出品）

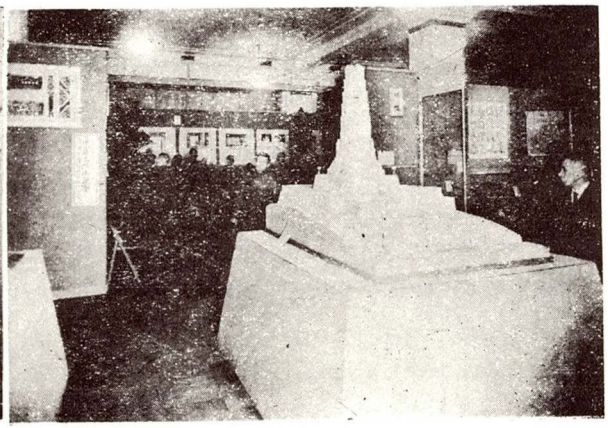
1.掛　圖（2幅）　（金剛家出品）

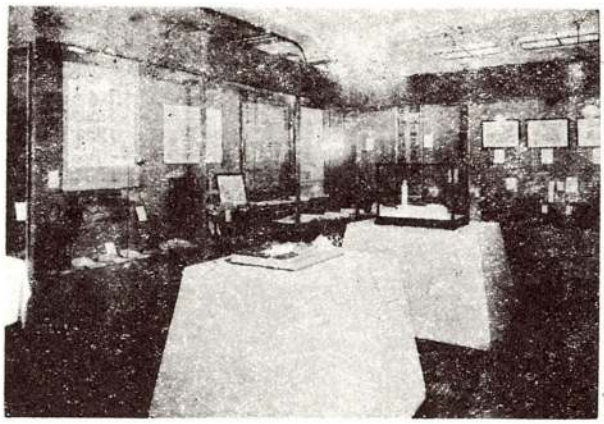
12江戸城本丸御普・請立柱上棟御規式道具雛形
槌、尺、外上棟式使用品模型數點
（神戸高等工業學校出品）

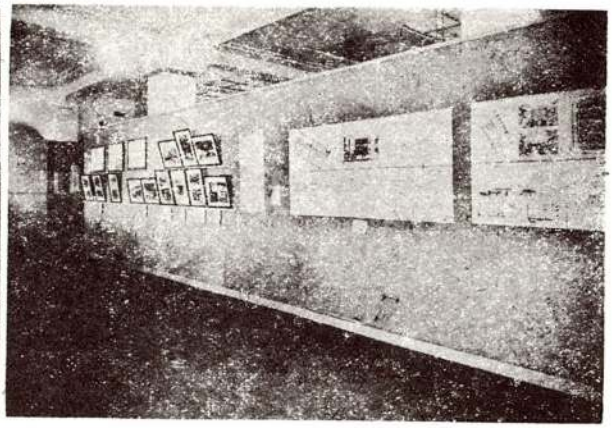
1.室生寺金堂內陣の壁畫模寫（1幅）
（京都帝國大學建築學教室出品）

1.四天王寺木版畫・四天王寺御ゑづ御ゑんぎ古本
最近の四天王寺・五重の塔鴟尾銘文拓本
（須谷九兵衞出品）

1.平城宮跡より發掘されたる瓦古錢和銅開寶等數點
（溝邊文和氏出品）





1. 神武天皇御聖蹟・日下貝塚發掘物、貝及石器等數點
（河澄正直・井上和家兩氏出品）
1. 須惠器並に埴師器各種數點　（八木博）
1. 各地出土・石器時代遺物並に銅鏡
1. 飛鳥時代より明治時代に至る各時代瓦（22種）
（加藤和三郎氏出品）
1. 各時代各種古瓦類
1. 軒瓦に於ける巴紋の變遷
金坊發祥地附近發掘品等數十點　（藤野勝顯氏出品）
1. 三重多寶塔圖面（4葉）
1. 兵庫縣加西郡下里村一乘寺・三重塔姿・寫眞
1. 兵庫縣内國寶建造物調査分布圖及調査濟・寫眞
（神戸高等工業學校出品）
1. 讀賣パラシユート塔・パラシユート普及のため最近東京市世田ケ谷區二子玉川滯養遊園地に建設されたるプラン及實習光景寫眞數葉　（清水組出品）
1. 橿原神宮外苑健康報國塔　（清水組出品）
1. 航空塔・寫眞及平面圖（生駒新設）
（朝日新聞大阪本社出品）
1. 國民住居の一試案・模型
（國民住居研究會（大阪）出品）
1. 家族9人の住宅模型・圖面共
（都島工業學校建築科出品）
1. 八紘之基柱（宮崎）・模型　（大阪毎日新聞社出品）
1. 忠靈塔私案・模型　（宇賀一郎氏出品）
1. 土木建築殉職者慰靈塔・模型
（日本土木建築業組合聯合會出品）
1. 獨逸文化研究所・模型
勞務者住宅案・模型　（村野建築事務所出品）
1. 航空塔・模型　（朝日新聞大阪本社出品）
1. パラシユート塔・模型　（清水組出品）
建築學會競技設計
1. 「家族向アパートメンハウス」當選圖案
（岩波楊、入江雄太郎、福田良一、本城和彦 4氏）
1. 住宅改良會懸賞設計「100平方米までの住宅」入選圖案
（渡邊保好・木村精一・安藤金吾 3氏）
1. 國寶吉村邸寫眞（3葉）
南河内郡高鷲村島泉桃山時代建築に係り、地方豪族住宅典型的遺構の一つにて府下唯一の國寶なり
1. 椿の本陣・寫眞（4葉）　（池田谷久吉氏出品）
三島郡豊川村道祖本にある參覲交代大名の旅宿に用ひられ府の史蹟に指定さる
1. 坂田及箱木千年家・寫眞（2葉）　（野地修左氏出品）
共に武庫郡山田村谷上にあり約1千百年前承安元年の建築と傳へらる、貴重なる遺構なり
1. 大和の民家・寫眞（6葉）　（住宅改良會出品）
上代文化の面影を映し優美な高雅聳立つ姿のおほらかな手法は此家としての特徴多きもの

☆　☆　☆

紀元二千六百年記念事業委員會報告

豫て特設委員會に依囑中の本會紀元二千六百年紀念事業に關する調査、研究立案等の件は同委員會より舊臘詳細なる計畫の報告に接したるに付茲に其大要を摘記せり

報告內容

1. 工業學校建築ニ關スル件
1. 青年技術者收容アパート建築ニ關スル件
1. 圖書室擴張ニ關スル件　以上

別ニ提案アリシモ審議ニ至ラザリシモノ下記ノ如シ

1. 植林事業
2. 半島人住居問題
3. 橿原神宮參道植林並獻燈ノ件
4. 材料登錄ノ件
5. 資金募集ノ件
6. 紀元二千六百年記念出版ノ件　以上

1. 工業學校建築ニ關スル件

紀元二千六百年記念事業學校建設ニ關スル草案

設立趣旨

1. 建築ニ關スル現存學校ハ全般ニ亘リ實際的方面ヨリ觀テ不備ノ點多キヲ以テ本會設立ノ學校ハ此等ヲ是正センコトニ努ム

1. 現在及將來、建築技術家拂底ノ傾向アルニ鑑ミ國家ノ需要ヲ充タシ、更ニ興亞ノ先驅者トシテ大陸ニ發展セシメントス

1. 建築ノ實務ニ當ル者ノ技術ノ向上ト其實力ノ涵養ニ努ム

1. 各種職場ノ熟練工ノ必要ニ鑑ミ之ガ養成ヲ計ル

1. 建築ヲ中心トシ、之ニ關聯スル各部門ヲ擴ク設置スルコト

1. 一面小學校或ハ中學校等出身者ノ就職難ヲ救フ.

1. 父祖ノ業ヲ繼承祖述センコトハ祖先崇拜ノ信仰ニ基ク大和民族固有ノ善良ナル美風ニシテ我國體ノ眞義ニ一致スルモノト信ズ

大綱

1. 名稱
1. 本學院ニ下記ノ學部ヲ置ク

大學部、高等部（專門部）中學部（中等部）
甲種工業部、乙種工業部　徒弟養成所（部）

以上ハ更ニ晝間部並ニ夜間部ノ2部制トシ前項各部ヲ適宜設置ス、尙各部ハ互ニ關聯シテ昇學ノ便ヲ得セシムルモノトス

大學部及ビ高等部ハ建築學科ヲ主體トス、ソノ他ニ土木、電氣、機械ノ各部ヲ併置スルコトヲ得

甲種工業部、乙種工業部及徒弟養成所ハ各種部門ニ分科ス

（例ヘバ建築圖案科、建築計算科、建築設備科、住宅科都市計畫科、都市建設科、建材科、塗裝科、家具科、木工科等）

大學部ニハ構造及材料等ニ關スル研究機關ヲ設置シ校外生制度ヲ採用シ、講義錄講義ヲ行ヒ、將來各部ニ相當スル女子部ヲ設置スル意向ナリ

1. 方針

各部ハ現行法規ノ許ス範圍内ニ於テ統轄シ強固ナル國家觀念ヲ有スル技術者ヲ養育、教導スルヲ以ツテ教育ノ第一義トス

1. 學校ノ特殊性

建築家　請負業者、材料業者、建築關係組合業者等ノ子弟ヲ優先的ニ收容ス

1. 組織　本學院ハ財團法人トス

1. 規模　基本財產、2百萬圓

1. 敷地　1萬5千坪

1. 實現ノ順序

第1期

晝間	夜間
高等工業學校	高等工學校
甲種工業學校	甲種工業學校（二部制）
中學校	工學校（乙種）
徒弟養成所	

第2期

大學部

第3期

女子部　　以上

1.　工業學校創立具體案

規模概要

學校名	○○工業學校
學校種別	甲種工業學校
設立者	財團法人○○○○○○
入學資格	尋常6年卒業同等以上
修業年限	5ヶ年
設置科目	建築科、土木科、電機科
學級數	30學級
生徒定員	1500名
入學檢定料	金3圓也
入學料	金5圓也
授業料	年額6拾6圓也
實習費	（3年以上消耗品、補給として徵收す）
職員	校長、專任1名
	教（助）諭（專、兼）4拾5名（定數）
	實習教員、專任8名
	其他教員囑託書記傭人等若干名
學校位置	大阪市○區○○沿線
學校總敷地坪數	12.000坪
校舍坪數	2310坪
講堂	180坪
普通教室	990坪
雨天體操場	100坪
特別教室（物理化學實驗室）	100坪
製圖室	300坪
實驗室（建土40、電機60）	100坪
職員室附屬舍	330坪
運動場坪數	6.000坪
附創設費（5ヶ年經續支出）	1.000000圓

（詳細略す）

創立第1年次經常費收支一覽（詳細略す）

學校充實情況（省略）

1. ○○高等工學校

規模概要

學校名	○○高等工學校
學校種別	學種（各種學校）
設立者	財團法人○○○○○○
入學資格	中等校卒業同等以上
修業年限	3ヶ年
設置科目、建築科、土木科、電機科	
學級數	18學級
生徒定員	900名
受驗料	5圓也
入學檢定料	5圓也
入學料	7圓也
授業料	年額7拾7圓也
實習費	月1圓也
職員	校長兼任1名
	主事專任1名
	實習教員兼任8名
	講師、囑託書記傭人等若干名

2 位置、工業學校に同じ

3. 第1年度經常費收支一覽略す

4. 學校充實情況（省略）

2.　青年技術者收容アパートニ關スル件

（2月號に詳細發表に就き省略す）

3.　圖書室擴張ノ件

現在ノ倶樂部室圖書ノ整頓ト他ニ保管中ノ會長其他寄贈セラレタル圖書ヲ會員諸彦ニ、ヨリ良ク閱覽出來得ル樣、至急整備擴張ヲ希望ス

昭和15年度會勢幹事會事業報告

會勢幹事會昭和15年度事業報告トシテ會長宛提出シタル概要下ノ如シ

事業經過ノ大要

1. 2月以來幹事會及小會ヲ開催スルコト拾數回
1. 幹事ノ事業ニ對スル總意ヲ纏メタル結果
   （イ）會員增加ニ關スル事項　大下、阪口兩幹事
   （ロ）學校建設ニ關スル事項　酒井、篠原兩幹事
   （ハ）見學其他諸計畫ニ關スル事項　北垣、川人兩幹事
   大略右3項ニ分チ6名ノ常任幹事ヲ設ケ實行ニ移リタリ。
1. 會員增加ハ別項記載ノ通リ573名ヲ得タリ
1. 學校建設ハ紀念事業委員會ニ移シ阪井篠原兩幹事モ同委員會ニ連リ既ニ會長宛報告濟ノ通リ
1. 見學ハ4月以來回ヲ重ヌルコト15度、約800名ノ參加者ヲ得タリ
   尙右ノ中、2回ヲ例會ニ代行シ更ニ出席回答ヲ會員ヨリ發スルコト竝ニ通知ニ要スル印刷通信ニツキ節費ノタメ會告代用ノ途ヲ拓キタリ
1. 理事、監事タリシ古キ會員ヲ招キ會勢發展ニツキ意見ヲ聽シタリ（別項ノ通リ）
1. 年內事業ノ終ラザリシ事項

會員募集

本幹事ノ外3月地方在住ノ主タル會員約60名ニ臨事幹事ヲ委囑シ之ヲ母體トシテ直接間接文書ニ會告ニ或ハ會員全體ニ呼ビ懸クル等極力增加ニ努メタル結果1月ヨリ12月2日役員會ニ提出入會ヲ得タル數左ノ如シ

會員	331	終身賛助員	1
地方會員	124	合計	573
特別賛助員	81	但普通賛助員には積極的の勸誘を爲さず	
普通賛助員	36		

見學會

回次	日時	出席數	見學先
1	4月 17	65	京都　川島工場、大德寺
2	同 21	204	郵船　新田丸
3	5月 18	30	東洋製罐　草開工場
4	同 25	40	グリコ株式會社　塚本工場（例會とす）
5	6月 6	50	高島屋天下茶屋工場
6	同 16	30	吉田家（古建築）
7	同 21	43	日本麥酒　吹田工場
8	同 25	55	商船　熱田丸
9	7月 12	244	タイガー計算器　十三工場（雨天）
10	同 20	32	神戸日產マツチ及菊水樓（座談會共）
11	9月 11	62	京都島津マネキン 日活、東寶、新興各スタヂオ
12	同 21	40	日本紡　貝塚工場
13	10月18	35	市內一心寺、願泉寺、來山茶室見學並座談會共
14	同 27	25	孔舍衞坂、生駒神社（例會）
15	11月15	55	京都稻畑、市田邸庭園

會勢發展ニ關スル意見大要

1. 長老トモ云フベキ會員ヲ顧問制トスルコト
1. 舊知ノ會員ガ屢々會合スル機會ヲ得度シ
1. 古キ會員モ幹事委員ノ中ニ加ヘル樣希望
1. 役員常務ハ各種ノ會合ニ出來ル限リ出席スルコト
1. 專任理事又ハ常務ヲ設ケルコト
1. 選擧方法ヲ根本的ニ改正スルコト
1. 豫算編成ニツキ根本的改廢研究スルコト
1. 定款ヲ改正スルコト

年內未着手事項

1. 會員ノ福利增進ト技術ノ向上ヲ計ルコト
1. 社會的權威者ヲ招聘シテ講演會ヲ催スコト
1. クラブ室ノ活用
1. 本會ノ宣傳
1. 支部ノ設置
1. 會員作品、展覽會ヲ開催スルコト
1. 講習會開催、建築相談所設置、定款改正考究

以上ハ次年度ニ於テ更ニ研究セラレ度キ希望トス。

紫烟室

〝建築界のトピック〟

經濟の新體制

中野吉彌

政治の新體制から、經濟の新體制へと戰時下の日本は、大きな國家的事業を整備し、斷行せんとしてゐる。昭和15年12月7日經濟新體制要綱が閣議で本決りとなつて以來、生きながらへる可く、苦難の道を辿つて來た中商工業者は、來る處まで來たと云ふ觀念で、其の對策に轉業に、心を惱まし、嬉しい正月を迎へても、少しも心が落ち付けないで居る事は甚だ御氣の毒に絶えない。經濟新體制が、どんなものか、蓋を明けて見なければ解らない問題であるが、此の問題は、決して商賣人丈の問題でなく、建築界にも大いに關係がある事位は、知つてゐてもらいたものである。なぜなら經濟を離れて建築が存在しない原則が、確立されてゐるからである。

建築界の人々の中には、此の問題に深い關心を有し、その對策を構じてゐると、信じたいのであるが、どうも樂觀視し、對岸の火災視してゐる樣に思へるのは、筆者の近視眼のせいではないと思ふ。建築請負業にしろ、建築設計業にしろ、全て利益を得る爲の、會社であり、個人營業であり、はつきりと、經濟部門である以上、自分は經濟人でない、技術者だと、いくら叫んだ處で、利益によつて生計を立てゝゐるのであるあるから、はつきりした經濟部門である譯である。

經濟部門である事は、經濟新體制の範疇に屬するのは當然である。兎に角、來る處まで來てゐるのであるから、今更慌ててもしようのない事で、改廢斷行を甘受しなければならない、立場に置かれてゐるが、經濟の新體制の影響が、どの程度建築界に一大旋風となつて、捲起るであらうことは、わからないが、相當に覺悟して置かねばならないであらう。

而し、今後建築界が、經濟新體制に左右されたとしても、技術といふ手腕を有する以上、失業したり、轉業する必要がなく、少しも恐るゝに足らいなが、今迄の如く、ボロイ儲けがなくなる事は、事實であり、覺悟して居らなければならない。なぜなら、公益優先、滅私奉公と云ふ言葉が、商業人だけでなく、建築界にも當嵌ることを銘記し、やがて來る可き東亞共榮圈への、高度國防國家建設の爲に、邁進し、努力する樣に、心掛けると共に、今迄の古い關念を放棄しなければならない。個人個人の新體制が、やがては建築界の新體制である以上、個人の心構へが、はつきりして居れば、建築界が、どんなに、どう變らうとも、決して問題でない筈である。

〝切符制度〟

建築用物資迄が、切符制度にならうとは、豫想してゐなかつた。それが切符制度になり、而も仲々の入手難に、なつて來てゐるのには勿驚させられた。ストツクのある時代、配給組織の御粗末な時代には、多容く入手出來た物資が、今では全く皆無となり、闇取引をするにも、品物が皆無といつた狀態に、なつてゐる始末である。切符制度に依る物資の入手方法が、現在の唯一のものとなつて居る次第で、これに依つて物資が入手出來た時の喜びは、又格別な樣である。だが、切符制度に依つて、入手された物資の、如何に切詰たものであるかは、切符を手にして感じるであらうし、建物が完成されて、つくづく考へさせられる事と思ふ。

今迄の樣な、物資の亂用が許されない時代であり、又うんと節約して使はねば、建物は完成出來ない、物資の割當量になつてゐる事に今更の如く氣がつくであらう。そこで筆者は、切符制度に依つて得た物資を、如何に活用し、過不足なく消費するかといふ方法を樹立する爲に、建築物の施工計畫と物資の割當を、必ず實行し、出來る限り代用品の使用を切望したい。無計畫に施工して、足らないから配給してくれと、何偏日參しても、一度配給した者には、決して配給されない立前であるから、出來る限りの節約と、確實な施工計畫の下でなければ、今後の建築はやり得ないであらう事を、〝切符制度〟で申上げようと企圖した丈で、別に他意がある譯でない事は勿論である。

〃釘の配給に就いて〃

建築物に使用される物資中には、種々なる代用品があり、決して心配する事がない譯であるが、建築物になくてはならないもので、而も代用品のないものは、表題の釘である事は今更申上げる迄もないだらう。物資不足の現在に於て、釘程割當量の少い、又入手不可能な物資は、又とないであらう事は決して過言でない筈だ。それは釘そのものが、建築物丈に限られて居らない事にも依るであらうが、配給機構の不備、生産命令の不備もあり、又ロスの問題もあつて、必要な時の釘が、製産されないでゐる事にも、依るものである樣だ。而し前述せる如く、代用品のない事が、釘の最も入手不可能な最大原因だと思料され、殆んど決定ずけられてゐる。その釘が、事變直後、切符制度になつて、配給される樣になり、請負人所屬の土木建築請負業組合から、建築の規模に應じて、今日までどうにか配給を受けて來たのである、昭和15年度は物動計畫の變更もあつて、早くて6ケ月待たねば入手出來ない現狀に遲延し、完全な需要を滿たされない實狀に置かれてゐる。6ケ月待つて入手した釘は、今建てようとする建物に流用してどうにか仕事がなされてゐる現狀で、釘を持つてゐるかどうかが、仕事をさして貰へるかどうかと云ふ處に、落ち付くのが、正直な實狀である樣だ。

此の苦境を打破する爲に、大阪府建築課では、他府縣に率先して、釘の配給を、實施しようとしてゐるのである。その配給の時機は、一月から實施する豫定で、着々準備されてゐる。その配給方法に就いては、今は申し上げられないがその時のオ楽ノシミに取つて置く。兎に角、釘に關する限り、新體制にふさはしい或る方法に依つて、思ひきつて實行される樣であり、之に依れば、大阪に關する限り、セメント其の他の物資と同樣に、建築する丈の數量は、公平に行き渡る筈である。これとても、贅澤な今迄の樣な使ひ方をしてゐてはセメントの如く、未完成な建物が出來上る事を、御承知置きが願ひたい。

建築物に必要な小釘は、澤山取揃へられる樣であり、充分ではないが、完成出來る丈の釘の配給がもらへる事は、大阪府民として一大福音である譯だ。その配給方法が、今迄に例のない方法丈に、見ものであり、多少乍ら、配給する方も、配給される方も、頭痛の種の樣である事は事實だ。

〃建築文化展覽會に就いて〃

松坂屋での「建築文化展覽會」を見損なつて、これに關する、發言權のないのが殘念だが、某倶樂部室で聽いた「建築文化展覽會」に就いての、噂話を讀者に御傳へしよう。

A「今日建築文化展覽會と云ふものを、見せて貰つたのだがね？…」

B「それはよかつた。今日で終んだそうだが、とうとう見る機會を失つて殘念だつた。
建築文化展覽會と云ふ以上、參考になつただらうね」

A「それがね——僕も相當期待して行つた譯だが實は失望したんだ」

B「ある素人の人から聽いたのだが、よく纏つてゐるそうじやないか」

A「素人の人の眼から見たら、建築文化と云ふものは、あんなものかと云ふ氣持で、見てゐるから、多少啓發されたであらうけれども、吾々玄人には物足らないんだ。建築も文化の一部門であり、昔の大學は、造形學科とかいつて、今の樣に建築學科とは云はなかつた時代であり文化の一部の樣に考へてゐた譯であり昔から文化の一部門として、大いに貢獻して來てゐるので、成程結構な企であるのだが、あの展覽會が建築文化の全てだと云はれては少し片腹痛いんだ」

B「實は見てゐないから、何とも云へないが、建築も文化方面には、相當大きな足跡を殘して居り、今後も大いに努力しなければならない。殊に今度の大政翼贊會の文化部門にも、建築は必ず入る資格がある譯だし、技術團體としての職能奉公だけが、建築界の新體制でなく、文化を通じての建築の御奉公も、決して等閑視出來ないから、大いに働きかけなければならないと思つてゐた譯だが、建築文化展覽會の公開が、期待したものでなく、貧弱だつたのは、少し殘念な譯だね」

A「日本の建築を、文化史の立場から見る時、あんなスケールの小さいものでない事は、展覽會を見たら感じられる事と思ふ。もう少し、資料を集めてほしかつた。建築界全體の人に、働きかけたなれば、あの貧困な資料の3倍4倍の資料が、提供され、素人が見ても、專門家が見ても なる程とうなづけるものが、出來たのじやないかと考へるのだがね——」

B「まあ、新體制が樹立されて、建築文化が健在だと云ふ事、建築文化の紹介と認識を深める一助になつたんだから我慢するさ」

A「さう思つて諦めてゐる譯だが割切れないものが殘つて、あと口が惡いんだ。だが僕の先輩や知人には、自分からよう進められなかつたよハハハ……」

これで二人の會話が終つてゐるが建築界に籍を有する者は、大いに考へなければならない問題である事を痛感し、學校の先生や考古學者的な

ヒマ人のみに、建築文化をまかして置く可きものでない事を知ると共に建築文化の確立は、外國物のイミテートや飜譯ではなく、八紘一宇の日本精神に立脚した、建築文化の創建に、尙一層の努力と、協力が必要である事が、2601年の課題である以上「出せ建築の底力」を實行の上に現はそうではありませんか。

「建築界の新體制」

「建建築界の新體制」が、意義深い2601年に於て、どうにか纏りそうである事に、まづもつて祝言を呈する。若輩の筆者に云はせると、どうも建築家は、理窟が多すぎる様に思へる。

最近、學會案や更生省案と云ふものが、出來たのを見せてもらつたがそれが、官界の新體制を根本とした大改革であり、どこまで實現するかが疑問であるが兎に角具體化され一歩手前にある事は喜ばしい事である。

要するに、關東にしろ、關西にしろ九州にしろ、建築界の新體制が、必要であれば、それを前提として、案を作製し、それを持寄つて檢討する。そして自分達の案が、他のものより劣つて居れば、潔く撤回して、合流すると云ふ、大きな度量が欲しく、又そうある可きだと思ふ。

日本人であると云ふ、新體制の現念を持ち、公益優先、滅私奉公の信念に缺ける處がなければ、進む道は一本である譯で、落付く處も、一つであり、年寄も、若い者も、考へる處は同じだと、考へてゐるがどうだらう。だが年寄と若い者と疑ふ處は老人は落付きすぎ、若い者はせつかちである事と熱と力に多少の差がある丈で、その推進力は結局若い者でなければ、勤まらないであらうし、今後共軌道にのる迄は、是非共必要である譯だ。要するに協力一致と讓譲の精神と、熱と力とを持つた者には、いくら頑迷な者でも、打勝てない事はわかり切つた事である譯だ。

今迄の建築界は、餘りに不遇であつた。それ丈に若い者は、時局に對しては、最も敏感であり、その上に熱心である事は、他の技術者より以上である。建築家の若い者は、餘りにあわてすぎてると云ふ批判は適當でない様だ。今迄の建築技術者の社會的地位に致つては、餘りに御粗末すぎた。事變と共に不急用途とされた建築物が、建設へと發展するにつれて、重要視され、第1回第2回徴用令は全て建築技術者であり、陸軍も海軍も建築技術の不足を痛感し重要視して、技術將校の採用や待遇上にも優遇されだして來た此の事實は、心から喜びとする處である。今後共、いつでも國家に御奉公出來る様、建築技術者の素質の向上を計ると共に建築界のよりよき新體制を確立する爲には今後とも一段の努力が必要でなければならない。而し建築用物資と、大工と、左官と勞働者が居れば、建築が出來上ると云ふ觀念が、未だ○○方面に可なり多く殘つてゐる以上、建築界の新體制確立と共に同時に解決されねばならない重大問題である。その依つて來た原因は請負制度の缺陷たる、公益優先の實行に缺けた請負業者の搾取的觀念のかうである處から之が撤廢を斷行させねばならない。そして○○方面への認識の撤底に吾々は大いに努力し、進んで東亞共榮圈の確立、新東亞建設の樹立、高度國防國家建設の促進に役立つる建築界の新體制が、1日も早く實現されん事を切望する次第である。

〝心の糧を求めて〟

「建築界のトピック」から結論は得られない。その結論を筆者は〝心の糧を求めて〟と題して種々な生活を綴つて來た中から見付け出して、斷片的な所見乍ら結言として竝べて見た。（而しこれは自己の爲に書かれた非公開的な斷想であり、一方的な偏見であつて之が私を繞る生活の全貌でない事は御承知置き願ひたい）此の斷想は色々な意味の結言として建築と社會誌に送る最初のものであり、最後のものである。之に依つて多少乍ら御參考になる點が若しあるとするなれば筆者の光榮之に過ぎるものはない。

○

他力本願といふ事は、自力本願で一生懸命にやつて見て初めて得られる願望で努力なしで、他力本願の達成がむつかしい事を今後の新體制は敎へなければならない。

○

使はれて見て、初めて使ふ人になれるといふ事は、事實だ。使はれる側の立場に立つて、つくづく感じられた。

○

恩給をあてにしない者の強みは、云ふ可き事を、云ひにくい事を、はつきり云へる特點がある。それはよい事だか悪い事だか、わからない。それは結局、恩給を賴りにして、影日向なく一生懸命に職務に忠實に働いてゐる者の爲に味方して云はれてゐる言葉のやうにとれ、不眞面目な者への言葉でない事は、はつきりしてゐる様だ。

○

仕事に熱中すればする程人のやつてゐる事がまどろしくなる。そしてむしろ腹が立つてくる。それはいゝ事か悪い事か自分ではわからない。

○

月給の安い者が樂な方へ廻りたいのは人情だ。だが樂な仕事をして居れば昇給が遲れるぞと云ふ課長の言葉も決して無理でない様だ。人情課長の深い思ひやりがその言葉から味へる様な氣がする。

○

與へられた仕事に忠實である事は人より餘計に仕事をする事になり、それ丈に疲勞は多くなり、時間も自然と遲くなる。それがいい事か悪い

事かわからないが、明日は明日の仕事がある以上、殘つた仕事をやり遂げる事は氣持のよい事であり、仕事がつかえる事は決してよい傾向ではない。仕事が多忙であればある程殘つてまでやり遂げようと頑張る事は人間には働く限度がある以上仲々出來にくい事柄だ、それをやり遂げようとするのは若さ故に出來得る特權であらう。

○

實際家の缺點は、それに熱中する餘り、自分の地位を忘れてゐる樣に思へる。その業績が顯著であればある程、その良し惡しがわからなくなつて來る。

○

官界の新體制は、實業學校出身者に限り、卒業と同時に、その一割が進學出來、その他の者は進學制限を受けて就職しなければならない今後の政府の方針から大學出身者だけが高等官になり、技師になり得る舊體制を除去し實力のある者は、どしどし特別任用し、それぞれの部署に於て、その者の實力を發揮させてやる可きだ。

○

砂糖、マッチ等……と切符制度にどんどんなつて行くが、いらなくなつたからと云つて返しに來た者は1枚も今迄なからうと思ふ。だが建築物資の配給制度に限り、セメント、ラス、硝子、と今迄に澤山返しに來てくれ、配給事務に從事する私は心から嬉しく思つてゐる。

鐵綱關係の問屋の方が、殘の實狀を見て、勿驚されて歸られた。そして配給方法の良さを賞めてくれた。それがオセジの樣にとれ、眞實の樣もにもとれ、くすぐつたい樣に思へて解らないが、賞められて、恐る者のない例へに以て、ほんとうに嬉しかつた。之が警察權を有してゐる爲に、あとからうるさいので返却に來るのかどうかその點は、はつきりしないのだが警察權を持つた配給方法罰則のある配給方法が效果的に思へ自治的な配給統制の不完全を痛感されるのは私の不眠症のせいと云ふ可きだらうか。

○

私は紫煙室に何か書けと云つて頼まれた。多忙なるが故に斷つたが無理に押し付けられて斯くして一夜作りの隨想みたいなものが出來上つた。推敲する暇がない。原稿難の場合私はよく書いてくれ、書けと頼まれる。それが惡い傾向でない事は、よく知つてゐるが、短時日に書き上げる事は成程むつかしいものである事を初めて知つた。

(15.12.13)

ネーチ・ネーチ家相家に挑む

山　田　　正

ことばといふものは妙なもので、いくら理窟に適つてゐても、話す方と聽く方との間に、その示す意味に就いての約束が出來てゐなければ何にもならない。演壇の背景にはる幕に堅鬚をつけてもらひたいと、いくら仕樣書に書いておいても、ピンとはりきつてしまふ。どうしてこういつも同じ間違を繰り返すのだらう、こんなにはつきり堅鬚つきと書いてあるのが解らないのか、と訊いてみた處、『あゝこれがその事だんのんか、それならこれからシボリバリと書いといとくれやす』と云はれて、ことばといふものは獨りで勝手に憶へても間にあはない事がわかつた。

ことばは全く約束事である。

若い先生が、取引臺の甲板(コーイタ)をカンパンと讀んできかせたら、無邪氣な生徒が、昔は取引臺の上に人間をのせたのでしようかと質問した話や、木捻子は木で造つたネジであると教へた話は、如何にことばが理窟以上の約束事であるかを思はせる。

それにしても、ここに表題として揭げた、ネーチ・ネーチといふことばの本當の意味はどういふ事であらうか。筆者は中學生頃に、これに似たことばをよく使つた記憶がある。それはゴーシ・ゴーシといふのであるが、これも本當の意味は解らない。『今日は試驗をする』『ウワーツ、ゴーシ・ゴーシ』『新調の洋服に泥がついた、ゴーシ・ゴーシ』汁粉が喰ひたいが金がない『ゴーシ、ゴーシ』といつた具合に使ふ。困つた！とか、やりきれん！とかいふ意味に使ふかと思ふと、うまいぞ！占めたツ！といふ場合にも使ふ。どうやら一切の感情をこの一語に押へつけて平靜を粧つたのであつたらしい。

このネーチ・ネーチなることばも、一體どこの國でどんな場合に使ふのか解らない。自分の腦裡にいつ入り來つたやも判然しない。が、なんとなく使ひ勝手のよい魅力のあることばではある。『遊びにいこうか』『ネーチ・ネーチ忙しいからいけん』『おごれよ』『金がない、ネーチ・ネーチ！』といふ風に大體に於いて否定の意味に使つてゐる。若しそれが正しいのなら、ネーチ・ネーチとは有に對する無、肯定に對する否定の意味にでもなるであらうか。

我々の生活に不用の品が多ければ(ネーチ・ネーチ)整理して、簡明にしなければならない。文章に飾が多く、談話に無駄が多ければ、(ネーチ・ネーチ)省略して意味をとり易くしなければならない。若しこのよの中に不合理な惡い習慣が殘つて

ねれば（ネーチ・ネーチ）整理して合理的な社會にしなければならぬ。

不合理な習慣のひとつに筆者は、家相をあげる。家相にこのネーチ・ネーチの豆彈を浴びせたく思ふ。

家相とは何ぞや、定義づけるだけの材料もなさそうである。昔は住宅を主たる對象とした家相も、近頃では、ビル、驛舍、店舖、工場等と、建物種類の增すにつれ、その關係範圍も廣くなつた。ビルの屋上や工場の隅のお稻荷さん、驛舍や店舖の出入口から、甚しきは交通機關の路線迄、家相家の職場に編入された。不合理の光を放ちながら家相は、增々廣まつて行く。

筆者の知人なる某醫博の經營する醫院は、門と表玄關が裏鬼門にあり便所が鬼門にある。その住居も同樣である。處が家族は皆健康であり、醫院はよくはやり、すべてが順調である。この人は身を以つて家相の不合理無根據を實證するのだと云つてゐる。大抵の若い人はこれ位の勇氣を持つてゐる。が、人間40歲臺になり、生活が少し落ちつくと、さんざん苦勞をした半生を省みて妙におぢけづき、後半生の平穩を希ふ一心から安穩に効のありそうな事には何でもかでも縋りつこうとする。これが老人の持性である。何も人の嫌がる事はしなくてもよいではないか、何とか理窟をつけて、住宅の設計には先づ家相家の門を叩く。住宅を建てる人々が大抵は40歲以上であるといふ事が家相家の重用される第一の理由であらう。人が皆中學時代や高等學校時代に家を建てるものなら、家相家は氣の毒だが仕事がなくなる。若い人々は恐ろしいといふ事を知らない、不合理を承認しない。そういふ若い人々の中での最も勇氣にとむ人でも、金でも出來、定住の地もきまり、住宅でも建てようといふ事になると、もう家相家を度外視するだけの膽力を失つてゐる。

營業企劃に科學的な根據を持たない商人達は、自信がないから、店舖の向きはどちらにしようか、階段はどこに、と家相家のもとに走る。もともと定見もなく無計畫に擴張された工場であるから、負傷者も續出する、それでは一つお稻荷さんでもと家相家をひつぱり出し、揚句の果は不便極まる所に門をつけかへたりする。調査費を惜しみ徒らに建設費を安くあげたい企業家達であるから、掘りかけたトンネルでも落盤があつたりすると、續行か否か、家相家に委ねる。といつた具合で、總じて、科學性の欠如せる處は家相家發展の大陸である。かくして家相家の存在は無智と非科學性なる社會の不安に對する安全辯となり、判斷力決斷力の欠如に對する代用品ともなる。家相家をつくつたのもこの世の中であり、それを利用していささかの安心を購ふのもこの世の中の人々であり、却つてその家相家に煩ひされて、不便をしのんでゐるのもこの世の中の人々である。

それにしても筆者の若い友人達は建築家として、家相をどう考へてゐるのだらう。

建築家A。（家相否定論者）馬鹿な。誰が家相なんか信づるもんか。大體鬼門とかその他の細かい事の滿足な說明をきいた事がない、日本で惡い鬼門なら支那でもドイツでも惡い筈ではないか。ドイツでも鬼門を問題にするのかい？日本だけにしたつて、北海道から臺灣迄家相家は同じ條件であしらふのだらう。

建築家B。（家相利用論者）俺は家相の利用者だ。施主といふものは色々と無理をいふ。平面計畫などとても施主の要求全部を容れ得るものではない。そこで俺は無理な希望に對しては、家相に惡いといつてひつこめさせるのだ。

建築家C。（用意周到組）家相なんて變なわけの解らぬものと思ふがともかく間取圖を決定すると、家相家に鑑定を乞ふて、家相は吉相なりの診斷書を作成してもらつておく。これは竣功後施主に進呈する事もあるし、何か惡い事でもあつて施主が家相を氣にしだした時に、はいこれこの通り家相はよいから安心なさいと見せる事もある。家を施主が賣つたりする場合この診斷書には千金の重味が出來る。

建築家D。（半身家相家）私は家相は有難いものだと禮讃してゐます。家相は哲學よりもむつかしく眞義はわかりませんが、間取圖を作る具體的條件などはよく判ります。その條件にあふように設計し、家相の先生にみていただいて完全なものを作成した時の清々しさは譬へようもなく間取圖から瑞雲が立ち罩めるようで何とも云へぬよい氣もちです。家相の先生の意見を實現するためには、衞生上の問題や便不便等は省みませぬ。家相が惡くては衞生上如何によく、如何に便利でもそんな家には大事な施主を住まはすわけにはいきません。こうして勞作をつゞける中、近頃では間取圖を一見するとそれが家相に適へるや否やが判る程になりました。

建築家を家相を對象として類型づけると大體こんなもんである。讀者各位おそらくはこの類型の中に自らの姿を見出されるであらう。筆者は無論この中のA型に屬する。

筆者は民家の研究に地方を歩いて、ときどき家相家の惡戲に心を曇らせられる。例へば、立派な屋敷林の眞中を斷ち割つて延々と築地塀が出來てゐる。『惡い事があんまり續くけんのう、家相見に見せたらこうせいいふけんのう』と岡山縣下のその家の主は、無用の費と妙な庭の景觀に頗る不興氣であつた。田舍では道路の反對側に入口のある家は珍らしくない。これは今日の家相家のせいではない。が、都市近郊の住宅で家相のために、その定石を踏むために、都合の惡い不便なところに門をつけた例はいくらもある。かと思ふ

と、拙者は物解りのよい開けた家相家であるといはんばかりに『最も便利な位置に門をおいてこそ本當によい家相なのです、えゝかまひませんとも』等と高く出る家相家も居り、こんなのに限つておだてがきく方で、どこそこの建築技師が來て私の事を立派な建築家だとほめて行つた等と手放しで威張る。そして、たまに自分の關係した住宅によい事でもあると、鬼の首でもとつたように早速新聞に雜誌に御報告である。建築の專門家が家相家の前にへいつくばつて鑑定を乞ふのは、何も意見がききたいのではなくて、あたりさわりのない訂正位で素直にこの家相は吉相だといつてもらひたい爲である。日本の建築家は世界中のどこの建築家よりもこの家相の條件をひとつ餘計に背負はされて、涙をのんで家相家の門に下るのである。彼等の施主は皆人生行路に疲れて、餘生の安穩を願ふ人々なのである。そこの事情もわからずに、本心から崇められてゐると思ひこんで、アーでもないコーでもないと加筆して得意になつてゐる樣は笑止である。家相家の氣まぐれ、（そうしか思へないぞ）が精根傾けた建築家の努力を水泡としてゐる事實が如何に多いか。

ここにひとつの物語りをさしいれよう。古い話であるが、あるところに立派な人の大きな邸があつた。それに隣接して貧弱な四軒長屋がありやはり立派な人達が住まつてゐた。誰の眼にもこの長屋をとり拂つて、その大きな邸を擴張したらさぞさつぱりするだらうと見えた位だから、大きな邸の主にとつてはその長屋を追拂ひ地所を獲得する事は久しい念願であつた。さてある日、ひとりの男が長屋に現はれて、『この長屋は日當りはよいけれども、非常に家相が惡い、皆さんによくない事が起らねばよいがなあ！』といつて消えた。さあ大變だ。長屋の主達は立派な人人であつたけれども、その人柄の立派さや性の善良さに比例して生活力が弱かつたから、この男の言が氣になりだしたら、もうこの長屋に住みつゞける元氣もない、これ迄幾度か家主の追出しをしりぞけた人々であつたが遂にひとり去りふたり去り、忽ちにして四軒長屋は空になつた。やがて長屋は毀たれ、その敷地は隣の大きな邸の方へ包括され、前の狀態が想像も出來ない程立派な塀がめぐらされた。大きな邸の立派な主と彼の三太夫と、家相家と、長屋の家主とが、『やれやれ、こんどはすつくりいきましたなあ！』と笑つてこの物語は幕である。

この物語に登場する人物の本當の性名を云へといふなら、筆者はいふ事も出來るのだ。卑劣なる人々よ。

こんな愚劣な話の材料は、今筆者の文嚢に滿ちてゐる。書きつゞけたら原稿用紙がもう30枚もいるだらう。

☆

旅をすると、線路の間に立つてラヂオ體操に懸命の人々を見出だす。健康への練磨である。そういふ人々は鐵道の人々であるから列車が來ない事は解つてゐるのであらうけれども、素人の目からは頗る危險に見える。若し間違つて列車が來たら、どうなる。一瞬にして死の現實となるではないか。噴火口上の舞踏とはこの事であらう。こんな恐ろしい、恐ろしいと解らずに恐ろしい事實が世の中には澤山ありそうだ。我々の思慮は淺く、智識は狹い。家相の問題を論ずるに當つて、筆者は別段何の研究もしてゐない事を家相家に對してすまなく思ふ。たゞ現實が筆者を驅つて書かしめたのである。線路の間でラヂオ體操をするように、家相を信じ家相に依據してこの世の安心を求めてゐる人々が氣の毒に思はれる。

上述の記事に對して家相家から、正當な抗議の申出でがあれば、筆者を滿足さすような說明があれば、筆者は不明をわびて前言を取り消し、改めて家相のために提燈を持たなくてはならぬ。然し、おそらく、そういふ事もなからう、そこで次の結びを述べておく。

☆

今や新しい光が國土に滿ちて、大なる出發の夜は開けた。いまはしい思想の虫も、けがらはしい病氣の虫も、もはやこの國では生存を許されない。かかるものを排擊する機構は既になつた。不合理は合理へ。闇は光へ。誰もがその本分に於いて、他を導くだけの勇氣が要る。日本人は皆偉い。家相家に於いても、その本來なるすぐれたる指導力を以つて、社會の明朗化、眞擊化、合理化に向かつて人々を導く勇氣を奮ひ起されん事を切望する。（15.11.29）

求人紹介

1. 建築技術者
1. 防水關係現場係又は店員

（素人にても熱意ある人可）

以上就職御希望の向は履歷書添付下記へ御知らせ下さらば夫々御紹介申上げます。

日本建築協會內　書記長宛

會報

通常總會

1. 昭和15年11月25日大阪市北區中之島三丁目三番地朝日ビルヂングに於て昭和15年度通常總會を開催す

1. 出席者左の通り會員49名

赤松　修	井上福藏
伊藤武文	伊藤正文
池田　實	池田宮彥
石井春雄	今林彥太郎
岩尾保衞	岩崎甚太郎
梅本源重郎	浦　外雄
大下順三郎	荻田眞之助
扇　源助	加藤善吉
景山正明	片岡安
川勝健二	川西梅次郎
北垣熊之介	桐本楠雅
栗田成計	小泉嘉四郎
小林　清	坂口正雄
坂本啓一	芝田知重
鈴木一幸	鈴木孫市
田中芳郎	田邊正雄
塚本猛次	寺岡　眞
内藤亮一	中西六郎
中野順次郎	西島源次郎
野中駒市	羽原德衞
坂　靜雄	平川眞實
平野忠雄	星　廣文
增井敏克	三浦　茂
三藤清三	安田則世
渡邊禎己	

1. 午後5時30分—同着席會長理事片岡安氏議長となり只今出席者43名なるも定款第24條但書により本日は再度の召集に付定數に依らず成立の旨を述べて開會を宣し直ちに議事に入る

選擧　第一監事2名選擧

第二評議員半數改選及增員選擧

右一括して選擧を行ひます御投票洩れの方はありませんか若しあれば投票函に御投票を願ひます。

御投票洩れなき樣ですから之から開票に移ります就ては開票立會人を御指名申上げますから指名の方は直に別室にて御開票を願ひます。

會員　坂口正雄君　寺岡　眞君
　　三浦　茂君　安田則世君

監事　井上福藏君

以上五名の方に御願ひ致します。

玆に於て右立會人は投票函を別室に移し直に開票に着手す。

議長　本來は此間休憩すべきでありますが時間の都合上進行致し度旨を諮り一同賛成あり次の議事に移る

第一號議案　昭和15年度事業報告

中西主記常務起立別紙事業報告を朗讀す

議長質問の有無を問ふ

池田實君　會員の出征に對し如何なる取扱と待遇をなしつつありや

議長　會費免除と戰死者に對しては內規の弔慰金贈呈の旨を答ふ

尙同君より慰問袋送附の提案あり一同賛成議長實行する旨を答ふ

第二號議案　昭和14年度收支決算

報告桐本主計常務起立別表の通り說明をなす

此時鈴木監事起立只今主計より報告の內容を査閱したる結果何等誤謬なきことを證明す

議長　御質問はありませんか異議なしなしの聲あり夫れでは御承認として次の議案に移ります

第三號議案　昭和14年度剩餘金處分の件議長より別表の通り說明賛否を問ひたる處異議なしなしの聲あり一同承認

第四號議案　昭和16年度收支豫算の件

桐本主計常務起立別表により詳細なる說明をなす

議長　質問の有無を問ふ

池田實君　委員會費は大體會合費主たる由なるも他の事業費の如く別に豫算計上されては如何又前年より增加されたる額は主として給料手當に重き樣見受けられ種々止むなきことと思はれるが事業費等の振合如何

更に專任或は常任理事制を設置され度旨要望す

桐本主計　御質問の委員會費は事業として要すべきものは事業費より支辨し尙更に不足を生ずる場合は會長寄附の別途金貳千圓の內よりせんとする旨並に諸給の增加は陳列場專任書記補充と若干の定期昇給並に賞與にして決して之れのみに集注したるに非らざる旨及健康保險費は新に制定せられたる法律のため止むなく增加したる旨を辯明す

議長　池田君質問及意見の內專務理事設置の件は我々も全く同感にて既に數年前より協議中なるも人物豫算等の關係上實現に至らざるものなり。本會も早く立派なる專任理事を養ひ得る樣切に會員諸賢の努力を望む旨答ふ

其他質問なきやを問ひたるに異議なしの聲續出

議長　夫れでは本案は御承認のことと認めます。之で本日の議事は全部終了致しました

此時開票終了の旨立會人より通告あり

議長　之より開票の結果を報告致しますとて左の通り發表す

監事開票結果

總投票數	1.304票
內白票	25票
差引有効票數	1.279票
當選　631票	鈴木　一幸氏
同　631票	松井清之助氏
次點　3票	小林　清氏

2票　井上福　藏氏
2票　中西　六郎氏
2票　宇賀　一郎氏
（以下略）
評議員半數改選並增員選擧開票結果
總投票數　1.965票
內白票　39票
差引有効票數　1.926票
當選　55票　辛木　貞夫氏
同　53票　村田　治郎氏
同　52票　大下順三郎氏
同　50票　赤松　修氏
同　50票　加藤　善吉氏
同　49票　岩崎甚太郎氏
同　49票　宇賀　一郎氏
同　49票　岡田　孝男氏
同　49票　小林　清氏
同　49票　西山　卯三氏
同　49票　平野　忠雄氏
同　48票　池田　宮彥氏
同　48票　小林　三造氏
同　48票　榊　弘美氏
同　48票　園部　泰文氏
同　48票　高松平太郎氏
同　48票　竹中　景一氏
同　47票　石井　春雄氏
同　47票　石原　達偉氏
同　47票　小河吉之助氏
同　47票　川勝　健二氏
同　47票　桐本　楠雅氏
同　47票　竹內佐平治氏
同　47票　內藤　亮一氏
同　47票　日野　勝好氏
同　46票　今北　乙吉氏
同　46票　岩佐　信也氏
同　46票　大津　利雄氏
同　46票　岡本新次郎氏
同　46票　笠井新十郎氏
同　46票　小西　一良氏
同　46票　芝田　知重氏
同　46票　須藤　員雄氏
同　46票　園部　茂氏
同　46票　中村　昌三氏
同　46票　中村　義雄氏
同　46票　堀內四知丸氏
同　46票　宮田　秀穗氏
同　46票　藪中　一良氏
同　46票　山口　正氏
次點　3票　淺野　新一氏
同　3票　棚橋　諒氏
（以下略）
議長以上の通り夫々當選されました。（一同拍手）

1. 次で議長より本議事錄の代表署名者に左の二氏を指名し其承諾を得たり
川勝　健二君　芝田　知重君

1. 片岡議長本日の總會は之を以て終了の旨を述べ閉會を宣す時に午後六時四十分

評議員會

1. 昭和15年12月2日大阪市北區中之島三丁目三番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す

1. 出席者左の通り評議員38名

赤松　修	伊藤武文
池田宮彥	石井春雄
石原達偉	今北乙吉
今林彥太郎	岩崎甚太郎
宇賀一郎	宇都宮藤次郎
小河吉之助	大下順三郎
岡本新次郎	加藤善吉
川勝健二	北垣熊之介
桐本楠雅	小林　清
小林三造	榊　弘美
須藤員雄	園部　茂
高松平太郎	竹內佐平治
竹中景一	內藤亮一
中西六郎	中村昌三
長尾清一	羽原德衛
花輪正虎	平野忠雄
堀內四知丸	增井敏克
松久保敬三	三浦　茂
藪中一良	山口　正

1. 午後6時20分開會理事副會長今林彥太郎氏議長となり只今出席者35名にして定款第24條に依り評議員定員の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げ豫て通知の如く左の選擧を執行する旨を宣す
1. 定款第17條に依る理事3名選擧
2. 定款第20條に依る會長1名副會長2名選擧
3. 定款第17條に依る常務12名互選

1. 議長右一括して選擧致度旨を告げ其方法に付諮りたるに評議員三浦茂君より前例に做ひ投票選擧の代りに議長指名による詮衡委員を擧げて人選を一任したしとの提議あり依て議長より賛否を問ひたるに（賛成々〻聲あり）異議者なへ玆に詮衡委員制に依ることに決定議長より左の五氏を指名し承諾を得たり
岩崎甚太郎君　川勝　健二君
小林　三造君　羽原　德衛君
平野　忠雄君

1. 次で議長より只今指名の方は直ちに別室に於て詮衡されたしと述べ此間評議員會は休憩する旨を宣す
1. 午後6時40分再會
議長只今詮衡委員より左の通り人選せし旨報告ありとて之を朗讀す

理事會長	片岡　安氏
同副會長	井上　二氏新
同　同	今林彥太郎氏
常　務	池田　宮彥氏
同	大下順三郎氏
同	岡田　孝男氏
同	北垣熊之介氏
同	桐本　楠雅氏
同	小林　清氏
同	芝田　知重氏
同	玉置豊次郎氏
同	中西　六郎氏
同	政岡　基次氏
同	松久保敬三氏
同	藪中　一良氏

（五十音順）

1. 議長右の通り夫々當選されし旨を告ぐ（一同拍手）

1. 夫れより議長は本會議事錄の代表署名者に左の二氏を指名し其承諾を得たり
竹內佐平治君　竹中　景一君

1. 議長以上にて選擧終了に付本日の評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す時に午後6時50分

常務會（第24回）

時　　12月2日午後5時30分—6時
所　　陣列場別室
出席者　理事　今林副會長
　　監事　井上監事
　　常務　北垣主記、中西主記
　　三浦主記、藪中主記
　　岩尾主計、桐本主記

議　事
1. 12月例會の件
2. 役員引繼會並慰勞會開催の件
3. 給仕辭職願出並採用の件
4. 職員下半期賞與並昇給の件
5. 會員詮衡

報　告
1. 建築文化展終了報告
2. 都市武裝促進幹事會報告
3. 10月分會計報告
4. 入營並除隊報告

常務會（第25回）

時　　12月16日午後5時30分—8時
所　　陣列場別室
出席者　理事　今林副會長
　　監事　井上監事
　　常務　北垣主記、中西主記
　　三浦主記、桐本主計
　　政岡編輯

議　事
1. 昭和16年度常務會に引繼事項の件
2. 紀念事業委員會經費處置の件
3. 未收入金の內欠損補塡の件
4. 職員下半期賞與並昇給の件
5. 會員詮衡

報　告
1. 役員引繼會及晚餐會準備報告
2. 建築文化展清算報告
3. 會勢幹事會事業報告
4. 法制委員會報告
5. 11月分會計報告
6. 入營報告

☆　☆　☆

會員動靜

入會

會員

芦田　泉君　住吉區阪南町西1の2松本方（鍵仲組）
高源　定一君　神戸市葺合區二宮町3の158番屋敷7の1（株式會社清水組）
建部幸一郎君　住吉區天王寺町3,238（同）
殿村　鐵君　西宮市合津浦風町14（阪神電氣鐵道株式會社建築課）
西田庄太郎君　堺市出島海岸通2丁167（株式會社大林組）
渡邊　章君　此花區龜甲町1の6（日本木材工業株式會社設計部）
大橋市三郎君　旭區生江町544（大橋工務店自營）
木村　要藏君　東淀川區木川東ノ町2の11（武田長兵衞商店本工場大林組出張所）
坂場　正之君　東淀川區木川西之町1の20（大阪帝國大學營繕課）
土岐　俊吉君　普通賛助員より轉格
三橋　利雄君　旭區野江町6（大阪帝國大學營繕課）
吉田善太郎君　東淀川區新高町138（合資會社矢橋大理石商店大阪出張所）
和田　義弘君　兵庫縣武庫郡良元村鹿鹽字辨塚46の84（自營）
若林　源藏君　神戸市兵庫區中道通り8の38番屋敷（兵庫縣土木部庶務課建築係）

地方會員

伊藤文四郎君　東京市杉並區關根町103（自營並日大高工講師）
奥山　市郎君　岡山市北方四軒町137（株式會社清水組）
西山　銀三君　山口縣熊毛郡光町吳海軍建築部島田工事々務所（吳海軍建築部）

特別賛助員

泉　完君　此花區上福島北1の52（日本建材工業所）
桑原　一雄君　此花區上福島南2の336（協和產業株式會社）
津田　常夫君　和歌山市元寺町東ノ町8（大阪師團經理部工務科）
古田庄太郎君　布施市高井田本通1の21（建築設計事務所自營）

普通賛助員

國川　正君　山口縣熊毛郡光町光工廠事務所吳海軍建築部內（吳海軍建築部）
千坂榮三郎君　福井縣大飯郡高濱町字立石（東舞鶴市役所土木課營繕係）
横田　清君　此花區下福島2の121（不動建築株式會社）
井上　正行君　愛知縣東春日井郡勝川町大字味美530（愛知縣建築課）
田中德次郎君　府下泉北郡大津町下條405（田中工務所自營）

☆　☆　☆

退會者

會員

多田 藤雄君　伊藤 康夫君
栗坂 健步君　谷脇 清泉君
安藤金一郎君

地方會員

山浦 智海君　三好 貫一君
柳田 春治君　吉田 正彥君

特別賛助員

佐藤 正好君　山本 昇一君

普通賛助員

土岐 俊吉君　松井 英一君
泉 景一君　森本 源造君

☆　☆　☆

轉居・轉勤

會員

宮本市之亟君　和歌山市狐島町447
飯田繁二郎君　高知縣高岡郡斗賀野村
根津 盛二君　横濱市神奈川區六角橋町
木子 弘吉君　京都府宇治郡宇治村字六地藏1の21
北川 憲君　西本組大阪支店
福島 葆光君　東京市京橋區寶町2の1清水組本店住宅部内
入山愛次良君　奈良縣生駒郡生駒町1,399
榊 弘美君　伊丹市櫻ケ丘3の36
道田泰治郎君　兵庫縣武庫郡立花村三反田字生田40
竹内 成夫君　住吉區阿倍野筋2の90
大川 元造君　住吉區平野西ノ町98市營住宅132號
橋本 乾一君　東京市芝區新橋1の6橋本工務管理事務所内
松本 幸雄君　廣島市松川町17
藪 清治君　池田市字千本1,182（大阪發動機株式會社池田工場新築工場内）大林組池田出張所内
池野 逸郎君　京都市伏見區京町2の209
山原 正美君　住吉區阪南町東5の10
高原健二郎君　東京市蒲田區仲蒲田4の22の5
大石 忠夫君　高知市棧橋通1の200（高知縣立工業學校）
金島 四郎君　府下中河内郡縄手村字河内861の7（株式會社住友倉庫本店調査課兼庶務課）

地方會員

瀬川 廉平君　金澤市袋町59
松井 宗一君　東區大阪城内大阪中部軍經理部内（大阪中部軍經理部）
萩原 惇正君　東京市大森區池上德持町385
中島 二郎君　青島市貯水山支路1號（株式會社竹中工務店天津支店）
今津 忠孝君　新京特別市西萬壽大街宮廷御用地内
小林麟太郎君　京城府三坂通123の2號
細川 一雄君　伊丹市平松町5の37
甲木 秀治君　兵庫縣加古郡高砂町朝日町

特別賛助員

菅谷 六郎君　奉天市大和區浪速通26
上野次郎男君　東京市牛込區阿田町11（日本溶劑共販株式會社常務取締役）
木村 壽德君　豊中市新免1,088

普通賛助員

仁木 諫治君　東京市芝區濱松町3の521號仁木貞雄方
上久保宗晴君　奉天市大和區白菊町26の51の4内田宗巳方
大賀 繁登君　旭區古市大通2の31

☆　☆　☆

死亡届

普通賛助員

吉川 智君　昭和15年9月21日逝去（受理昭和15.12.14）

（謹んで哀悼の意を表す）



編輯後記

○記念す可き紀元2600年を一大飛躍の中に送り、今又新に光輝ある2601年を迎へる。聖代の榮え誠に有難き極みである。慌しい晦日から新春へ、それは不斷の夜から朝への移り變りとは何の相違も無い筈ではあるが、しかし妙なもので古の法師の言葉をそのまゝに、明け行く空の景色昨日に變りたりとは見えねど、引き替へ誠に一種云ふに云はれぬ緊張味を覺へると共に、新しい希望と何とも云へない森嚴な感に打たれる。

○會長の「迎春の辭」を初め、その道の御專門の方々に、この榮えある新年への展望を御依頼申上げた處快諾を賜り新年號を有意義に飾る事が出來た。建築家の新しい體制も要略された言葉の中から盡きせぬ指導理念が汲み取れる事と思ふ。御執筆を忝うした各位に對し毎度乍ら衷心から御禮を申上げる次第である。

○本年度の雜誌發行豫算は前年度より數字的に少し增加はしてゐるものの、會員數の增加と最高價格である㊀又は㊁迄の値上りを考へると、前途は極めて容易ならざるものがある。量を減ずる事を餘儀なくされると勢ひ質で之を補はなければならない。會員諸彦の倍舊の御援助を切に御願ひ仕度い。

○昨年の夏頃から片發動機で難航を續けてゐた15年度の編輯役員も、本號を以て一先づ放免となり、次號からは完全に揃つた新しいメムバーによる輯編が行はれる。既に新しい役員の決定を見、目近に新幹事各位も決る事と思ふ。新しい顏觸れに心から期待をかけてこの稿を閉ぢる事とする。　（政岡記）

建築と社會

第24輯　第1號

毎月1回1日發行　定價㊀　1冊　50錢（郵稅3錢）
12冊　6圓（〃36錢）

昭和15年12月25日印刷　昭和16年1月1日發行

發行・編輯　戸川弘
印刷人
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　ブラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

グラビヤ（第1頁）	1頁	1回	55,00
グラビヤ（第2頁）	1頁	1回	45,00
普通（後附第1頁）	1頁	1回	20,00
普通（後附第2頁）	1頁	1回	25,00
記事中	¼頁	1回	20,00
アート（中揷）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

●第二四集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

村田商会
大野製作所
大阪マグネシヤ床壁同業会
南満建材工業所
中野石材店
平松釣戸車製造所
オリエンタルメタル製造所
東洋リノリユーム
寧楽屋家具装飾店
大阪窯業セメント
美素工業所